



The National Association of Racing
地方競馬全国協会
畜産振興事業

令和4年度全国優良畜産経営管理技術発表会 《 第62回農林水産祭参加行事 》

令和4年 11 月 25日

主催
後援
公益社団法人 中央畜産会
農林水産省
地方競馬全国協会

はじめに

畜産会組織は、昭和30年の設立から67年にわたり、畜産経営に対する経営・技術の指導・助言（いわゆる畜産コンサルタント事業）を組織の中核的事業として実施してまいりました。

その間、多くの畜産経営が畜産会組織からの指導・助言により経営改善を果たしています。その中には、地域の中核的なリーダーとして活躍されている経営、先進的な技術や経営管理により全国のモデル的経営として評価されている経営、多額の負債を抱えながらも技術や財務管理の改善により健全経営として経営再建を図った経営など多様な経営があり、地域の畜産振興に大きな役割を果たしてきました。

中央畜産会では、畜産会組織の指導により経営改善を図り優秀な実績を収めている畜産経営、グループで課題解決に取り組んでいる事例などを広く求め、全国優良畜産経営管理技術発表会を開催してきました。この発表会において、優秀な事例を表彰するとともに、その経営成果とそれを支えた経営管理技術の普及拡大を図ることで、わが国の畜産の振興に資してきました。

この発表会は第62回農林水産祭参加行事として開催しております。本発表会で表彰した多くの経営が三賞受賞の榮譽に浴しており、わが国を代表する畜産経営を表彰する行事といえます。

今回、会員の方々からご推薦をいただいた事例は、いずれも優秀な実績を挙げている経営であり、それぞれ様々な工夫や努力を積み重ねられた特徴のあるすばらしい経営ばかりです。

本資料は本年度の発表経営の取り組みをまとめたものであり、畜産経営、経営支援の現場で広く活用していただけると幸いです。この行事の開催に当たり、多大なご協力をいただきました審査委員、会員団体・関係者の皆様、そして、後援いただいた農林水産省、地方競馬全国協会に厚くお礼申し上げます。

令和4年11月25日

公益社団法人 中央畜産会

第62回農林水産祭参加行事

令和4年度全国優良畜産経営管理技術発表会

主 催 公益社団法人 中央畜産会

後 援 農林水産省
地方競馬全国協会

開催日時 令和4年11月25日（金） 13：00～17：00

開催場所 都市センターホテル
インターネットによるライブ配信

= 次 第 =

13：00～ 開 会

13：05～ 業績発表

15：40～ 審査講評

16：00～ 表彰式

17：00～ 閉 会

はじめに

I	令和4年度全国優良畜産経営管理技術発表会審査委員	2
II	発表事例（最優秀賞・優秀賞候補）の概要	3
1	酪農を未来につなげる －循環型農業で地域をひとつに－ 中野 浩一（酪農経営・新潟県新発田市）	4
2	集落と連携し、景観保全と「丹後牛の里」を実践する法人経営 －畜産を活かした地域づくり、人づくり、絆づくり－ 株式会社いちがお畜産（肉用牛繁殖経営・京都府京丹後市）	10
3	牛にも人にも優しい！ －積極的にICTを活用した肉用牛繁殖経営－ 守川 仁（肉用牛繁殖経営・熊本県山鹿市）	16
4	がんばる後継者、親父に負けるな！ －地元での粗飼料調達による低コスト和牛スモール肥育経営の挑戦－ 渕上 浩一・加奈子（肉用牛肥育経営・佐賀県杵島郡江北町）	22
5	「地域に根ざし、100年続く経営作り」 －伝統的技術の継承と先進的技術の融合－ 有限会社高田牧場（肉用牛肥育経営・大分県豊後高田市）	28
6	地域粗飼料資源をフル活用して資材価格高騰と温室効果ガス削減に挑む 株式会社有田牧場（肉用牛一貫・酪農経営・熊本県球磨郡錦町）	34
7	おいしい笑顔がみたいから －伝説の下妻金豚－ 倉持ピッグファウム株式会社（養豚経営・茨城県下妻市）	40
8	ゼロから創めて40年、10億円肉用鶏への挑戦 －地域の飼料用米を活用したブランド「やまがた最上どり」の確立に向けて－ 農業生産法人株式会社アイオイ（肉用鶏経営・山形県鮭川村）	46
III	これまでの受賞事例	53
IV	令和4年度全国優良畜産経営管理技術発表会開催要領	71

協賛団体・企業一覧

I

令和4年度全国優良畜産経営管理技術発表会審査委員

● 審査委員長

横溝 功 山陽学園大学地域マネジメント学部 学部長

● 審査委員（五十音順）

安藤 光義 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授

小迫 孝実 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系
特定産業技術研究支援センター 研究開発監

齋藤 武至 湘北短期大学 講師

寺野 貴之 農林水産省畜産局企画課 課長補佐

松田 二子 東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授

眞鍋 昇 東京大学 名誉教授

近藤 康二 公益社団法人中央畜産会 専務理事



発表事例の概要

酪農を未来につなげる

—循環型農業で地域をひとつに—

中野 浩一（酪農経営・新潟県新発田市）



（写真1）左端、経営主の浩一さん

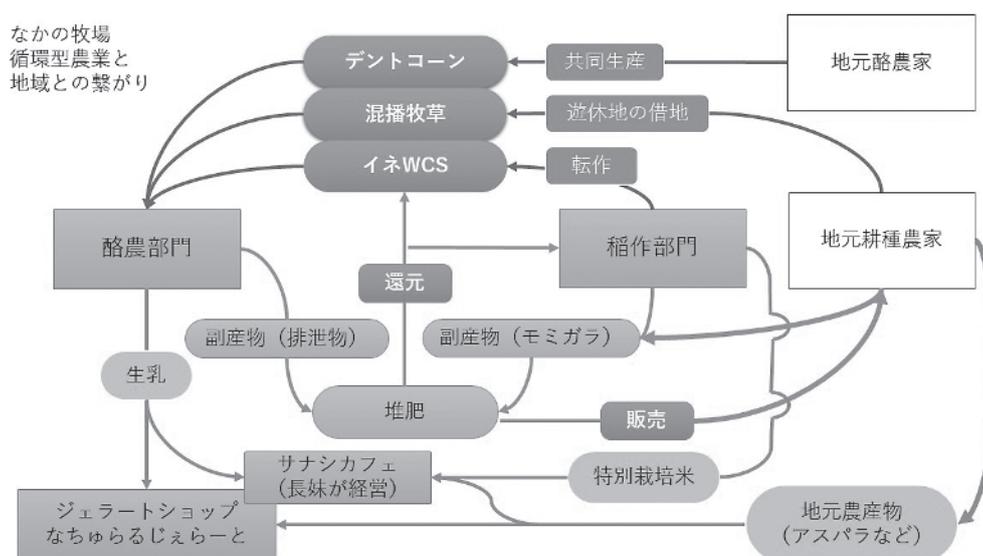
地域の概況

新発田市は県都新潟市に隣接した、新潟平野の北部に位置する阿賀北の中核都市で、産業は農業を中心に電気機械工業、縫製業、食品工業や小売業等が盛んであり、道路網の整備により新たな企業の進出も続いている。農業については、加治川の水系によって潤う肥沃な土地を利用した県内有数の良質米コシヒ

（表1）経営・活動の推移

年次	作目構成	経産牛 飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和40年	稲作2ha・酪農	3頭	2ha	・父が農業高校を卒業して就農 ・自宅作業小屋を改造した牛舎に乳牛3頭を導入して酪農経営を開始
昭和44年	酪農・稲作2ha	15頭	4ha	・自宅脇に木造牛舎を新築し、10頭規模に増頭
昭和48年	酪農・稲作3ha	30頭	4ha	・自宅から300mほど離れた場所に鉄骨牛舎をし増頭
昭和51年	酪農・稲作4ha	44頭	4ha	・木造牛舎を増築し、規模拡大
平成10年	酪農・稲作8ha	52頭	8ha	・木造牛舎を新築、自動離脱ミルクカー・自動給餌機を導入
平成13年	酪農・稲作10ha		9ha	・本人が新潟大学大学院を修了後に就農 8月、農業大学校で家畜人工授精師免許を取得
平成16年	酪農・稲作12ha			・牛床マット導入、ニューヨークタイストールに変更、カウトレーナーを設置
平成18年			・妹が牛舎近隣に喫茶店「サナシカフェ」を開業 ・減農薬減化学肥料米の提供・販売と、ジェラートの販売を開始	
平成19年	酪農・稲作13.5ha		9.5ha	・畜産安心ブランド生産農場のクリーンミルク生産農場として認定
平成22年	酪農・稲作13.5ha		13ha	・妻が販売担当しジェラートショップ「なちゆるるじえらーと」を出店 ・近隣の酪農家4戸と「新発田コーン生産組合」を結成 ・細断型ロールペーラを共同購入
平成23年				・牛群検定事業に加入
平成24年	酪農・稲作20ha		13ha	・酪農教育ファームファシリテーター資格を取得
平成25年				・酪農にいがた農業協同組合の監事に就任
平成27年				・母が北越後農業協同組合の経営管理委員に就任
令和1年		・自給粗飼料用のロールカッター導入		
令和3年		・指導農業士認定を取得		

(図1) 循環型農業のイメージ



カリの産地となっているが、畜産も盛んに行われており、農業産出額に占める畜産物の割合は48%（114億円）を占め、新潟県内の市町村の中では最も高い畜産物産出額となっている。

牧場がある菅谷地区は新発田市の北東に位置する中山間農業地帯で、水稻やアスパラガス栽培が行われている。近年では集落の過疎化が進み、農業分野においても後継者不足が課題となっているが、市が推進する「食の循環によるまちづくり」にモデル地区として参画するとともに、新潟県の「地域づくりサポートチーム」の支援を受け、地域住民主体で経営できる「稼げる地域」づくりを目指して、マルシェの開催などの地場産農産物の販売・PRに地域ぐるみで取り組んでいる。

経営の概況

中野家は元々水田1haを所有する稲作経営であったが、父が昭和40年に就農した際に乳牛3頭を導入して、酪農経営を開始した。以来稲作部門・酪農部門ともに規模拡大を続け、現在は稲作20ha・酪農52頭規模の稲作酪農複合経営を営んでいる。

農場に関わる労働力は牛舎および稲作に父と母、浩一さんの3人、ジェラートショップに妻と従業員2人の計6人が携わっている。また、牧場の近くで妹2人が喫茶店を営んでおり、自家産の野菜・米を用いた料理と生乳を使ったジェラートを提供している。

浩一さんは平成13年に新潟大学大学院修了後、後継者として就農した。就農後は酪農部門を主に担当して地域の若手酪農家と連携して飼養管理技術の向上・自給粗飼料基盤の拡大等に取り組むとともに、酪農教育ファームファシリテーター認証を取得して、小中学生の農場見学受入や出前授業などを積極的に行ない、畜産の理解・共感の推進に尽力してきた。

経営の特色

【複合経営ならではの循環型農業】

牛糞ともみガラを混合して生産した完熟堆肥のうち8割を自農場の牧草地や自給飼料畑、水田に還元することで、化学肥料の削減に取り組んでいる。

生産された米は慣行栽培と比較して化学肥料の窒素分量・農薬の使用回数を50%低減



(写真2) たい肥舎



(写真3) デントコーン収穫風景



(写真4) 「sanasicafe」浩一さんの妹
2人が経営



(写真5) 月岡温泉の直売所



(写真6) 「なちゆるらじえらーと」
左：妻の美代子さん

したことで出荷先の北越後農業協同組合から特別栽培米の認証を受けている。平成23年に「北越後金賞米コンテスト」（主催：新発田地域農業振興協議会）、平成30年に「新発田の美味しいお米コンテスト」（主催：新発田市）で金賞を受賞するなど、食味の評価も高い。

また、生産調整の対象になった水田に飼料用稲を作付し、稲ホールクロップサイレージを生産して酪農部門の粗飼料購入コスト低減につなげるなど、酪農部門と稲作部門で互いに協調して土地基盤と農場副産物の有効活用に努めている。

【地域遊休地の有効活用】

地域内で遊休地となった小面積で栽培条件の悪いタバコ栽培跡地等9haを積極的に借地し、自給粗飼料生産に活用して飼料自給率の向上を図っている。

また、地域で排出されるモミガラ100ha分を収集してたい肥の水分調製材として活用しており、地域産業の副産物を地域の土地に還元する体制を構築している。

【飼料生産組合の結成】

平成22年にデントコーン栽培のために近隣の酪農家4戸と飼料生産組合を結成し、デントコーン収穫に必要な農機具類の共同購入・管理を行うことで、個々の農場における導入負担を軽減している。

牧草・デントコーンは全てサイレージに調整して通年給与を行い、1頭当たりの年間粗飼料購入コストを159,961円、乳飼比44.9%（新潟県指標値50%以内）まで低減している。

【ジェラートを中心とした加工品販売】

平成18年に妹が牧場近くで喫茶店「sanasicafe(サナシカフェ)」をオープンした。店舗では自家産生乳を用いたジェラートや、特別栽培米と地元産の食材を用いた料理を提供している。

また、平成22年、市内の月岡温泉にある直売所の運営企業から誘いを受けたことを契機に同直売所内にジェラートショップ「なちゆるらじえらーと」を開店、妻が加工・販売の担当となって本格的な加工品販売を開始した。

自家産牛乳と地元の旬の野菜・果物を素材とすることにこだわり製造したジェラートを、店舗のほか、自農場のホームページ等で通信販売している。

また、近年は積極的な販路拡大によって地元の温泉旅館から業務用注文も入るようになり、ジェラート販売は稲作・酪農にらんで、経営における大きな柱となっている。

【無借金経営の実現】

酪農・稲作に加えてジェラート販売が軌道に乗ったことで、借入金に頼らない経営が実現した。

複合経営の利点を生かし、総合的な経営計画の中で当面の投資先を1部門に集中させることで、自己資金のみで設備投資・機械更新を行っている。

【導入牛に頼らない牛群づくり】

後継牛はできるだけ外部からの導入に頼らず、自家育成牛により確保する方針であり、飼養牛は1頭を除き全て自家育成である。確実に後継牛を確保するため、公共牧場では乳用牛性判別精液を積極的に活用している。さらに、育成牛を全頭、牧場に預託することにより育成牛管理労働の軽減が図られ、労力を人工授精業務や自給粗飼料生産に活用し低コスト化を図っている。

日々の飼養管理では、ミルクカー搬送レール2本と搾乳器具運搬用レール1本を設置して、搾乳時の機械等の運搬作業労力の軽減を図っている。また、自動離脱装置を利用した後ろ搾り方式の導入、自動給餌機の利用、カウトレーナーの設置により、省力的な飼養管理体系を確立することで、1回の搾乳時間を1時間に短縮している。

こまめな清掃に加えて、厚さ40mmの牛床マットの導入により肢蹄の負担軽減と、消石灰を混合したオガクズを敷料としてふん

(表2) 経営実績

経営の概要	労働力員数 (畜産・2000hr換算)	家族・構成員	3.2人
		雇用・従業員	0.1人
	経産牛平均飼養頭数		52.5頭
	飼料生産実面積		1,300a
	年間総搾乳量		436,151kg
	年間総販売乳量		427,026kg
収益性	年間子牛販売頭数		22頭
	酪農部門年間総所得		7,894,580円
	酪農部門所得率		12.8%
	加工品販売部門年間総所得		5,616,326円
生産性	牛乳生産	加工品販売部門所得率	30.3%
		経産牛1頭当たり年間産乳量	8,134kg
		平均分娩間隔	14.2ヵ月
		受胎に要した種付回数	2.1回
		平均産次数(期首)	2.3産
		平均産次数(期末)	2.4産
		牛乳1kg当たり平均価格	122円
		牛乳1kg当たり生産費用	138.3円
		乳脂率	3.91%
		乳蛋白質率	3.31%
		無脂乳固形分率	8.72%
		体細胞数	39万個/ml
		借入地依存率	69%
		飼料TDN自給率	19.3%
乳飼比(育成・その他含む)	44.9%		

に牛床へ散布することで牛床の衛生・乾燥の維持に努めている。

また、地元の農協に依頼して月に1回薬剤噴霧による畜舎消毒を実施しており、疾病の発生予防に取り組んでいる。

飼料給与作業では、自動給餌機を活用して、1日5回の濃厚飼料の個体別適正給与を行うとともに、ニューヨークタイストールの繫養方式と手作りの盗食防止パイプによって、適正量を採食しやすい環境を整え、飼料に無駄が生じないように工夫している。

これらの対策によって、令和3年は死亡事故が年間1頭(事故率1.9%、県指標値5%以下)と極めて事故の少ない飼養管理を実現している。



(写真7) 畜舎消毒



(写真8) 小学校への出前授業1



(写真9) 小学校への出前授業2

【食育の活動】

新発田市公民館が実施する地域の小学生の酪農体験（搾乳、飼料給与、バター作り等）の受け入れ牧場となっているほか、農協女性部が企画して実施する小学生、中学生を対象とした体験学習も受け入れている。また、地域の酪農組合の青年部活動では役員として、消費者が酪農体験を行うイベントの受け入れや、地域の「まつり」に参加して牛乳の無料配布を行い、酪農に対する理解促進や牛乳の消費拡大活動に努めている。

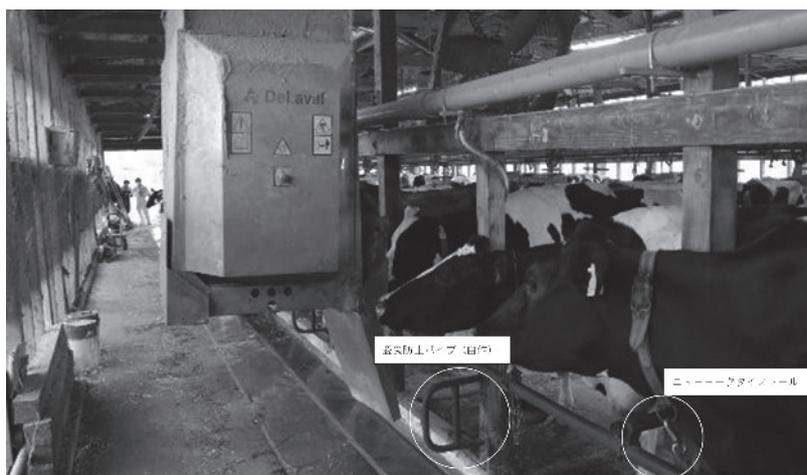
また、浩一さんは平成24年に酪農教育ファームファシリテーターの認証を取得しており、「酪農を通じて食やしごと、いのちの学びを支援する」という酪農教育ファーム活動

の目的の下、積極的に小中学校への出前授業（学校訪問）を行って、食育に取り組んでいる。

【経営における女性の活躍】

母は日常的に牛舎に入り、主に子牛管理を担当しているとともに、平成27年度から地元北越後農業協同組合の経営管理委員を務めている。現在は就任から3期目となり、この間に同農協の経営改革・金融店舗再編などの意思決定に参画してきた。

また、ジェラート販売においては妻の美代子さんが責任者を務めており、店舗での販売の他に新商品の開発、地元で行われるイベントへの出店、インスタグラムを通じた情報発信など、様々な方法で加工品の販路開拓に携わっている。



(写真10) 自動給餌機

【地元農業者とのつながり】

浩一氏は地元酪農組合の青年部活動に積極的に参加して役員も務めるとともに、日本酪農青年研究連盟に加入して、全国の酪農経営との交流を図っている。

ジェラート販売においても、新発田市の産地直送販売を志す農業者が集まって結成した農業者グループ「teamしばもん」へ参画、耕畜種を超えた新発田産農畜産物のネット販路拡大に積極的に取り組んでいる。

将来の方向性

【近年の農業情勢を受けて】

長期的な米価の低迷や、高齢化による担い手農家への農地の集中により、稲作経営において食用米以外の栽培面積の拡大が急務となっている。酪農経営においても、飼料価格の高騰による自給飼料生産の増産の必要性から稲WCS生産と利用のさらなる拡大について検討が必要となった。

これらの農業情勢を取り巻く変化を受けて、地域酪農家が共同利用できる稲WCS専用収穫機の導入を計画しており、来年度からの利用を目指して準備を進めている。

【持続可能性に関する取り組み】

人が消化できない草を、牛乳や牛肉、たい

肥として利用できるかたちにするのが酪農の本来のあり方として、草主体の酪農経営を目指し、草主体の少量の生乳生産量でも経営が成り立つような、ジェラート製造をはじめとした付加価値販売にも取り組んで行く。

【これからの経営について】

これまで主に稲作部門を担当し、酪農部門でも飼養管理・飼料栽培ともに補助的に作業に携わってきた父が老齢となり、今後は労働力の減少が予想される。また、現在中学生の三女が経営参画に積極的な意思を見せているが、彼女が将来働きやすい農場にするためには、日常の労力負担をいかに減らすかが重要なテーマとなっている。

また、義父が富山県で大動物の獣医師をしていることに憧れた次女が獣医学部の受験を志しており、将来的には次女・三女の二人が経営の中心となって農場を営むことができるよう、健全な経営を維持したいと考えている。

そのために、今後はICT機器を中心とした省力化機械を農場に整備するとともに、新たなスタッフを雇用することで労働力の若返りを図り、飼養規模を維持したまま効率の良い農場運営ができる基盤を整えることに取り組んで行きたい。

集落と連携し、景観保全と 「丹後 牛の里」を実践する法人経営

—畜産を活かした 地域づくり、人づくり、絆づくり—

株式会社いちがお畜産 (肉用牛繁殖経営・京都府京丹後市)

地域の概要

京丹後市は、京都府最北端、丹後半島に位置し、沿岸部は山陰海岸国立公園、丹後天橋立大江山国立公園に指定され内陸部には標高400～600mの山々が存在する。

株式会社いちがお畜産は、丹後半島唯一の関西百名山である依遅ヶ尾山(いちがおさん)の南麓にあり、農場名の由来にもなっている。気象条件は、年平均気温は15.0℃、最高気温は17.8℃である。春から夏にかけては晴天が広がる一方、冬にかけては、「うらにし」と呼ばれる雨や雪を交えた湿度の高い南西風が発生し吹き荒れ、最深積雪は平均40cmを記録する年もある。

農林水産業では、平成の初めころまでは葉タバコと水稻の産地で、国営農地開発が進め



(写真1) 家族写真(右から良樹氏、従業員の蒲田氏、良樹氏夫人、健人氏夫人、健人氏)



(写真2) 繁殖牛舎及び畜魂碑

られてからは、水稻に加えて野菜、果樹(メロン、ブドウなど)も主要産地であり、良質な漁港を基地とした間人カニ、丹後トリガイといった特産品もある。

畜産では、丹後地域は但馬地域に隣接し、昭和の頃までは京丹後市において子牛市も開催されるなど、和牛の伝統的な産地の一角を占めている。

経営・活動の推移

【本格的に畜産経営を開始】

昭和55年に現代表の大江良樹氏(以下「良樹氏」。)が大学卒と同時に親元就農し、水稻を中心とする耕種農業とともに地元で開始された丹後地域国営農地開発事業による開発農地(以下、「国営農地」)での営農に参加した。それと同時に肉用繁殖雌牛1頭を導入し、昭和48年頃まで両親が取り組んでいた畜産経営を再開した。

(表1) 経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭(羽)数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和55年	肉用牛繁殖 稲作	成雌牛1頭		・大学を卒業後、22歳で就農 ・繁殖牛を導入し、畜産経営を開始
昭和56年	肉用牛繁殖 稲作	成雌牛10頭	150 a	・国庫事業で牛舎を建設 ・10頭規模に拡大
平成元年	肉用牛繁殖	成雌牛16頭	340 a	・丹後地域国営開発農地にタバコ ・廃作跡地での飼料作物栽培開始
平成5年	肉用牛繁殖	成雌牛18頭	〃	・国庫事業で牛舎を建設 ・20頭規模に拡大
平成10年	肉用牛繁殖	成雌牛24頭	〃	・地域集落内の農地で放牧開始
平成15年	肉用牛繁殖	成雌牛30頭	〃	・農林漁業金融公庫からの借入金で子牛育成牛舎を建設
平成18年	肉用牛繁殖	成雌牛25頭	1000 a	・子供が大学卒業と同時に就農 ・親子による共同経営を開始
平成22年	肉用牛繁殖	成雌牛30頭	〃	・自己資金で牛舎を増設 ・30頭規模に拡大
平成26年	肉用牛繁殖	成雌牛32頭	〃	・国庫事業で牛舎を増設
平成26年	肉用牛繁殖	成雌牛32頭	1200 a	・経営を法人化 ・『株式会社 いちがお畜産』
平成28年	肉用牛繁殖	成雌牛32頭	〃	
平成29年	肉用牛繁殖	成雌牛34頭	〃	・第11回全国和牛能力共進会に出場
令和元年	肉用牛繁殖	成雌牛38頭	〃	
令和4年	肉用牛繁殖	成雌牛42頭	〃	・第12回全国和牛能力共進会に出場

昭和56年に、牛舎を建設し、規模拡大を図るなど、畜産経営への注力を進めていた頃、地域では、国営農地でのタバコ栽培縮小による作物転換が呼び掛けられ、良樹氏の提案により、飼料作物へ切り替えられていった。

これをきっかけに、良樹氏は、畜産経営に重点的に取り組むようになり、牛舎建設(平成5年、15年)や血統を重視した繁殖雌牛の導入により、生産性向上を目指した。また、丹

後地域の和牛の伝統を受け継ぎ、多くの人々と連携して和牛を活用した地域づくり「丹後牛の里」を目指す取組みを進めた。

経営管理・生産技術の特色

【集落との連携】

いちがお畜産の経営理念の基本は集落との連携である。

その取り組みの一つが、耕作放棄地化が懸念される土地を利用した自給飼料生産であり、良樹氏は一部管理を引き受ける形で稲WCS生産に取り組んでいる。

具体的には、移植(田植え)までの作業と水管理は耕種農家が担当し、移植後の栽培管理及び収穫作業は良樹氏が担当している。

もう一つは中山間部の水田を活用した放牧で、積雪期を除き、妊娠確認後から分娩2カ月前までの成雌牛を放牧している。これによ



(写真3) 仲間とつくる「丹後牛の里」

り春から秋にかけては放牧、冬は舎飼いという飼育形態となり牛のストレス回避になっている。

当初は、これらの取組に対し、一部の耕種農家からは牛ふん堆肥の施用、牛の蹄による水路及び畔の損傷を懸念する声もあった。しかし、良樹氏らの人柄や説明、実践によって集落の景観保全及び水田機能の保持への貢献が認められ、今日では集落全体から高い評価が得られている。

【先進技術の導入】

経営規模の拡大に伴い、生産性向上と事故防止のため先進技術も導入している。まず、平成22年に監視カメラの設置をした。これにより、夜間も含めて牛群の監視が可能になり、子牛の事故を未然に防ぐことや育成率の向上につながった。さらに、育成時期に、自給粗飼料を多給することにより、子牛セリ市（令和3年）での成績は、体重が府全体対比95.9%であったのに対し、販売価格は府全体対比100.6%、キロ単価105.0%と高い評価を得ている。

令和2年には、母牛を温度センサーで監視し分娩時期を予測する「牛温恵」を3基導入しており、これにより、受胎率の向上、平均

(表2) 経営実績 (令和3年度)

経営の概要	労働力員数 (畜産・2000hr換算)		家族・構成員	2.6人	
			雇用・従業員	0.4人	
	成雌牛平均飼養頭数			42.5頭	
	飼料生産	実面積		1,100 a	
	年間子牛分娩頭数			44頭	
年間子牛販売頭数	雌子牛 (肥育素牛生体販売)		15頭		
	雄子牛 (肥育素牛生体販売)		19頭		
収益性	所得率			30.0%	
	成雌牛1頭当たり生産費用			850,082円	
生産性	成雌牛1頭当たり年間子牛分娩頭数			1.04頭	
	成雌牛1頭当たり年間子牛販売頭数			0.80頭	
	平均分娩間隔			11.8ヵ月	
	繁殖	雌子牛	販売日齢		296日
			販売体重		279kg
			日齢体重		0.943kg
			1頭当たり販売価格		736,120円
	繁殖	雄子牛	販売日齢		273日
			販売体重		281kg
			日齢体重		1.029kg
			1頭当たり販売価格		737,637円
	粗飼料	成雌牛1頭当たり飼料生産延べ面積			33.3 a
		肥育牛1頭当たり飼料生産延べ面積			a
借入地依存率			96.0%		
飼料TDN自給率			55.0%		

分娩間隔の短縮につながった。

集落との連携による自給飼料給与、水田放牧に加えて、これらの先進技術導入の集大成として、第10回～第12回と3回連続で全国和牛能力共進会に京都府の代表として出場した。



(写真4) 集落との連携による稲WCSづくり



(写真5) 第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会へ出発



(写真6) ゆったり寛ぐ子牛

【近隣畜産農家との連携】

良樹氏は畜産経営開始後、若手のホープとして早くから丹後和牛生産組合の役員として地域のまとめ役を担い、京丹後市を含む丹後地域の畜産農家の相互協力、情報交換に取り組んでいる。

更には、子息の健人氏たけひと（以下「健人氏」。）は、就農以降、経営内で家畜の人工授精を実施するとともに、JA等の要請に応じて、地域の畜産農家の人工授精も手伝っている。さらに、良樹氏、健人氏親子は、地域の畜産農家が夜間等に分娩介助が必要な際には、農場まで出向き、作業を手伝うなど地域の肉用牛生産の

支えとなっている。

また、府内酪農家とも連携し、和牛の受精卵移植を活用した高能力な子牛の増産にも取り組んでいる。

【しっかりとした環境、衛生対策】

家畜排せつ物は、堆肥舎で全て堆肥化し、自給飼料生産に利用している。また、集落内で堆肥の利用を希望する農家にも供給しており、堆肥の需要に応えられない時期もあるほど、多く利用されている。

放牧地においては、適切な頭数で放牧し、また、毎日の観察も欠かさず行っているため、家畜排せつ物にかかる近隣住民からの苦情は

ない。

衛生対策は、平成30年に導入した燻煙消毒器により牛舎内消毒を行っている。また、家畜保健衛生所の助言を基に、母牛、子牛それぞれの疾病予防プログラムを確立し、疾病対策を徹底している。

これらの取組みにより、牛舎は清潔に保たれ、母牛、子牛ともゆったり寛ぐことができている。このことは、飼育管理の省力化にもつながっている。

【高い粗飼料自給率】

現在では、国営農地でのスーダングラス等の栽培、サイレージ利用、転作等による飼料稲の作付け、稲WCS利用（300kg、200個）及び約15haの放牧により、粗飼料自給率はおおむね50%を達成している。

地域に対する貢献

【ふるさと共援活動スタート】

平成20年に良樹氏が代表となり集落、立命館大学研究室、学生、都市住民が連携し、ふるさと共援組織が立ち上げられ、集落の活性化、再生を図る活動がスタートした。

具体的には、共援者である立命館大学の学生とともに、依遅ヶ尾山（いちがおさん）の登山道の整備、登山口での植樹（桜20本）、鳥獣被害防止のための柵の設置及び低利用な



（写真7）ふれあい音楽祭～集会所横の広場にて～

竹やぶの手入れなどの活動を通じて、地域資源の活用と景観の保全を図ってきた。

これらの活動により、幅広い人材とのネットワークが形成され、「京丹後矢畑の郷ふれあい音楽祭」が開催されるなど、京丹後市内でのふるさと共援活動の先駆的事例となっている。

【地域づくり協力隊】

当地区をはじめとする市内での共援活動により大学、学生、都市住民との交流が広がり、移住して京丹後市を応援したいとの声が寄せられたため、平成22年に京丹後市地域おこし協力隊制度が創設された。

現在も市内各地で地域おこし協力隊員が活動しており、当地区においても地域協力隊との交流が続けられている。

【住民等との連携】

近年、一部、自家産牛の肥育に取組み、生産した牛肉を京丹後市ふるさと納税の返礼品や地元住民への謝礼として提供し、京丹後市及び地元振興に全面協力している。

また、良樹氏は、狩猟免許を取得し、主にシカを対象に獣害防除に取組み、地元の農作物の被害防止にも尽力している。

女性の活躍・働きやすい職場環境づくりの取組み

【女性の活躍】

いちがお畜産では、良樹氏、健人氏それぞれの夫人及び地元出身の女性従業員が経営に参加している。

子牛セリ市には、両夫妻、女性従業員を連れだって子牛市出場に臨み、他の生産者等との交流や研鑽に努めている。

また、女性従業員は、京丹後市の自然・産業を案内する観光ガイドでもあり、いちがお畜産での経験を活かしている。

このように、いちがお畜産では、働きがい、



(写真8) 地元への感謝

生きがい、学びがいのある職場環境の整備に努めている。

【働きやすい職場づくりの取組み】

経営への従事においては概ね分業制を執っており、良樹氏は主に対外的な用務、自給飼料生産及び放牧を、健人氏は、主に肉用牛の飼養や繁殖の管理を担っている。また、両夫人、女性従業員は他に仕事や育児を担っていることから、限られた時間帯で子牛の哺乳、朝の飼料給与、牛舎内の清掃及び消毒等の細やかな目配りや観察が必要な軽作業等にそれぞれのペースで従事し、お互いに他の用務等ある場合にはそれぞれで補完し合うことで、無理なく経営に参画できている。

将来の方向性

【今後の経営計画】

現在、20頭程度の規模拡大を目指し、新たに牛舎を建築している。

引き続き、肉用牛繁殖農場として集落を守ってゆくとともに、今後は、直接の購買者である肥育農家や消費者が気軽に農場に来場できる環境を整備し、子牛の品定めや意見交換等ができる場を提供することで、京都府の畜産振興に貢献したいと考えている。

【次世代への継承】

現在、健人氏と良樹氏が協力して経営しているが、健人氏の技術向上に合わせて経営委譲を進めつつある。

その第1歩として、平成26年に今までの経営改善の成果を活かし、一層の経営管理の徹底、さらには健人氏への経営委譲のため法人化を行った。

今年度の牛舎等の建築も、経営移譲を見据えたものであり、今後とも家族で相談しながらスムーズに経営継承を進めるとともに、健人氏の世代でも地域で仲間と集い、ともに地域を守りながら持続的な経営を担ってもらいたいと考えている。

牛にも人にも優しい！

—積極的にICTを活用した肉用牛繁殖経営—

守川 仁（肉用牛繁殖経営・熊本県山鹿市）

地域の概況

守川氏が経営を営む山鹿市は熊本県の北部に位置し、北は福岡県・大分県と接し、気候は温暖で、豊かな自然と、歴史・伝統に育まれた文化の薫り高い地域である。同市の農業産出額合計1,955千万円のうち、畜産は830千万円で、割合も42.5%と高い。



(写真1) 守川氏と通勤用自転車(左)と弟(右)

(表1) 経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
平成21年				・実家で畜産業従事(手伝い程度)
平成22年				・家畜人工授精師免許取得 ・大型特殊免許取得
平成23年	肉用牛繁殖	育成牛20頭	イタリアン 167 a イネWCS 500 a	・就農22歳 ・新規就農円滑化事業で育成牛20頭導入、スタンション整備 ・実家から離れ、牛舎を賃借
平成24年	肉用牛繁殖	成雌牛20頭 育成牛5頭	イタリアン 250 a イネWCS 500 a	・畜産協会の経営診断を開始
平成25年	肉用牛繁殖	成雌牛25頭 育成牛5頭	イタリアン 300 a イネWCS 700 a	(以後現在も継続中)
平成26年	肉用牛繁殖	成雌牛30頭 育成牛5頭	イタリアン 400 a イネWCS 900 a	・哺乳ロボットを導入
平成27年	肉用牛繁殖	成雌牛35頭 育成牛5頭	イタリアン 500 a イネWCS 1000 a	・子牛に肺炎等が蔓延し大打撃
平成28年	肉用牛繁殖	成雌牛40頭 育成牛5頭	イタリアン 500 a イネWCS 1200 a	・哺乳ロボットを廃止し、カウハッチへ移行
平成29年	肉用牛繁殖	成雌牛40頭 育成牛5頭	イタリアン 520 a イネWCS 1200 a	・従業員雇用 ・牛温恵を導入 ・ミルクシャトルを導入 ・青色申告を開始
平成30年	肉用牛繁殖	成雌牛40頭 育成牛5頭	イタリアン 620 a イネWCS 1200 a	・賃借していた牛舎、器具及び車両を買い取り
令和元年	肉用牛繁殖	成雌牛44頭	イタリアン 710 a イネWCS 1200 a	・ファームノートで飼養管理開始 ・従業員が独立就農し、新従業員(弟)を雇用 ・受精卵移植及び採卵開始
令和2年	肉用牛繁殖	成雌牛44頭	イタリアン 800 a イネWCS 1200 a	
令和3年	肉用牛繁殖	成雌牛44頭	イタリアン 815 a イネWCS 1200 a	・U-motion導入(ファームノートから移行) ・冷房加湿器装置設置 ・ミルクタクシーを導入

経営・活動の推移

親元就農では、自分がやりたい事が制限されるため、独立したい思いが強かった。そこで、平成23年に独立を決意し、知り合いであった地域の肥育農家から、牛舎・機械類などを賃借して繁殖経営を開始した。

賃借した牛舎は、状態も良く、成雌牛が最大60頭程度繋留可能なものであったが、肥育牛舎の造りであったため、連動スタンションを整備した。

平成30年には、賃借していた牛舎、機械類を肥育農家から買い取り、自己所有とした。

なお、牛舎等を譲った肥育農家は、現在、繁殖経営へ転換し、逆に守川氏から牛舎の一部を借りる形で成雌牛を数頭飼養し、守川氏が種付けするなど、良好な関係が続いている。

経営管理・生産技術の特色等

【経営管理】

元々、経理関係の知識は無かったが、経営主になるにあたり、基礎的知識が必要だと感じていた。そこで、行政職員へ相談し、経理

関係に詳しい方の紹介を受けて、熱心に複式簿記を学んだ。その後、パソコンへ簿記ソフトを入れ、自ら費用等の管理を行ってきた。最終的な税務申告書の作成は、税理士へ依頼しているものの、基礎となる帳票類を自ら整備することで、収益性の要因等、中身を分析し把握することができている。

また、就農2年目から、(公社)熊本県畜産協会の経営診断を受診し、経営や畜産の情報を積極的に取り入れるとともに、技術分析など税理士とは違った視点での指導を経営に活かすことができている。

【繁殖管理 (ICT技術の活用)】

経営開始当初から、繁殖技術の重要性を認識し、母牛毎の種付け・分娩・治療履歴等について、自ら作成した繁殖台帳 (Excel) へ入力して管理してきた。平成29年には、“モバイル牛温恵”を導入し、分娩前アラートがスマートフォンへ通知されることで、気持ち的な余裕も得ることができた。更に、遠隔でも牛舎内の様子が確認できるよう、高性能な監視カメラを設置し、分娩事故防止などにも繋げている。



(写真2) 繁殖牛舎内部 (肥育牛舎にスタンションを設置)

令和元年には、当時無料であった“ファームノート”の個体管理機能を利用し、従来の繁殖台帳では難しかったリアルタイムでの個体管理が可能となった。その後、令和3年からは、市のスマート農業推進の補助金を活用して、“U-motion”へ移行し、同時に牛の行動検知センサーを連動させたことで、個体管理とリアルタイムでの牛の状態を常に手元で確認できるようになった。

このことにより、感覚的であった牛の状態（気持ち）が、より明確に把握でき、行動の変化で発情や疾病の兆候を探ることができるなど、より高度な飼養、繁殖管理を実現した。

その後は、U-motionの加湿度センサーと連動し、THI（不快指数）が高まると自動で稼働する冷房加湿装置を導入した。常に牛の快適性と飼養する側の省力化を迫及し、まさに“牛にも人にも優しい肉用牛繁殖経営”の実現を目指した一例である。

【環境保全（耕畜連携）】

良質な堆肥生産を目指し、徹底した糞尿処理を行っている。毎年、県主催の堆肥共励会へ出品し、高品質な堆肥として高く評価されている。

現在、生産した堆肥は、自身の飼料畑に還元しているが、更に堆肥供給を拡大していきたい考えである。



(写真3) 牛舎横管理室でシステム確認中

【繁殖技術】

就農前に家畜人工授精師免許を取得していたため、人工授精は自身で行っている。

それにより、母牛毎の発情兆候や子宮の状態等が把握しやすく、気になるときは直ぐに触診ができることが強みである。

分娩後は、子宮の回復を待ち、原則60日以内に種付けを行い、発情が微弱な場合は、獣医師と相談してイージーブリード等の処置をして90日以内の種付け完了を目指している。

また、令和4年度には、超音波診断装置を導入する予定で、子宮内の状態確認や妊娠鑑定などに活用する計画である。

繁殖管理には、積極的にICT機器を活用しているが、機械任せにならないよう、従来の目視観察や触診を怠らないよう気を付けている。

(表2) 経営実績（令和3年度）

経営の概要	労働力員数 (畜産・2000hr換算)		家族・構成員	1.1人
			雇用・従業員	0.9人
	成雌牛平均飼養頭数			44.0頭
	飼料生産	実面積		2,015 a
収益性	年間子牛分娩頭数			32頭
	年間子牛販売頭数	雌子牛（肥育素牛生体販売）		16頭
		雄子牛（肥育素牛生体販売）		23頭
	所得率			35.0%
成雌牛1頭当たり生産費用			824,747円	
生産性	成雌牛1頭当たり年間子牛分娩頭数			0.73頭
	成雌牛1頭当たり年間子牛販売頭数			0.89頭
	平均分娩間隔			12.2ヵ月
	雌子牛	販売日齢		280日
		販売体重		287kg
		日齢体重		1,025kg
		1頭当たり販売価格		739,888円
	雄子牛	販売日齢		271日
		販売体重		293kg
		日齢体重		1,081kg
		1頭当たり販売価格		727,578円
	粗飼料	成雌牛1頭当たり飼料生産延べ面積		
肥育牛1頭当たり飼料生産延べ面積			a	
借入地依存率			99.0%	
飼料TDN自給率			95.0%	

【子牛の管理】

平成26年に子牛発育の均一化や省力化を目的に、哺乳ロボットを導入した。導入当初は、発育も順調であったが、翌年にマイコプラズマ肺炎等が発生。飛沫などの直接接触や哺乳ロボットを介して畜舎内の子牛に病気が蔓延した。早期に懸命な治療を行うものの、多数の子牛が死亡し、経営に大打撃を与えた。

このことから、哺乳ロボットでの一元管理は、病気の蔓延や離乳の環境変化によるストレスが懸念されるため、見直しが必要と感じた。

そこで、カウハッチを自ら作成し、平成28年から個別管理へ切り替えた。また、日齢が進んだ子牛用に大きめのカウハッチを購入し、発育ステージで使い分けることとした。

カウハッチへ切替えたことにより、子牛管理に必要な労働力は増したものの、病気の発生は大幅に減少した。

令和3年には、ミルク調整が一度に行え、カウハッチのバケツまで運搬できる「ミルクタクシー」を導入し、労力軽減を図っている。

【暑熱や防寒対策】

牛舎周辺は風通しが良く、敷地内に日陰樹があるため、夏場は恵まれた立地にある。

しかし、最近の猛暑下では、換気扇だけでは不十分であり、特に暑さに弱い子牛をカウ

ハッチで飼養するためには、温度上昇に細心の注意が必要である。カウハッチは、容易に移動可能であり、状況に応じて設置ができる利点があるため、夏場は直射日光を避けて設置し、細霧装置を使っている。また、成雌牛の暑熱対策については、冷房加湿装置を利用している。

冬場は、風を防ぐため、牛舎にロールカーテンを設置している。また、カウハッチの子牛には、必要に応じてカーフジャケットを着用させる。ジャケットは、守川氏の妻が手作りしたものを使うこともある。

守川氏は、牛が快適に過ごせる環境でないと、成績改善につながらないと考えていることから、今後もアニマルウェルフェアに配慮しながら、生産性の向上を図っていく。

【地域に対する貢献】

守川氏は現在、熊本くろ牛改良組合城北支部の副部長、熊本県畜産農協肉用牛青年部会城北支部副会長を務め、昨年までは、山鹿市青年農業者クラブ副会長を務めていた。

地域の後継者が不足するなかで、組織のリーダーとなることで、担い手育成の一助となればという思いがある。

具体的な活動としては、研修等で飼養管理技術や血統情報などの意見交換を行い、会員



(写真4) カウハッチ（左が哺乳バケツ、右は哺乳ビン）第一段階は牛舎内



(写真5) カウハッチ（シングル管理）第二段階は屋外に移動



(写真6) カウハッチ (ツイン管理) 第三段階は2頭飼

全体の技術向上に取り組むことや、自身の課題解決に向けた経営・飼養管理改善等を発表し、ICT機器を活用した生産技術などの先進的な取り組みを紹介している。

守川氏は、畜産を営む仲間を増やし、互いに発展させるため、自身の経験や知識を惜しみなく伝えている。実際、平成29年に雇用した従業員には、経営管理及び生産技術を熱心に指導し、2年後には独立して繁殖経営を開始させることができた。

また、近隣農家の人工授精も一部請け負っており、地域全体の受胎率向上を目指している。

女性の活躍・働きやすい 職場環境づくりの取り組み

守川氏の妻は、県内の大型畜産会社に勤務



(写真7) U-motion+冷房加湿装置連動システムで噴霧器作動中

し、酪農の繁殖部門を担当している。

守川牧場では、繁殖性が高い優秀な血統の後継牛確保を目指して、令和元年から採卵及び受精卵移植を開始しているが、採卵した受精卵の移植は、技術を持った妻が担当する。

現在は、妻が経営に入るよりも、お互いの将来に向けた技術向上のため、それぞれの環境で奮闘している状況である。

また、守川牧場では、妻が講師となり、若い人工授精師に練習用の繁殖牛を準備して技術研修を行っている。県内でも女性の人工授精師が増えているが、実地研修の機会が少ないため、とても感謝されている。

将来の方向性

【経営の課題】

規模拡大とともに、生産性向上を目指して繁殖性や増体、産肉能力の優れた系統の後継牛確保を行っているが、資金の確保が最大の課題となる。今後も、受精卵技術の向上などで収益性の向上を図るとともに、事故による損失がないよう取組んでいく。

また、哺乳期から育成期へ移行する際、飼料の切替えや、移動のストレスにより、子牛の増体が落ち込む時期があるが、結果を常に検証して、より良いステージへ移行するため



(写真8) カウハッチのミスト機作動中

の技術の確立を図っていく。

育成期は、離乳後の下痢発生が永遠の課題であり、その要因は様々あるが、薬品のみに頼ることなく、専門家の意見を取り入れながら、あらゆる手法を試みるつもりである。

【将来の目標】

将来的には、守川氏（長男）と雇用している弟（次男）、それに親元へ就農した弟（三男）の兄弟3人の力を合わせ、法人化ができないか模索中である。

当面の目標としては、黒毛和種を中心に繁殖牛80頭までの増頭を考えているが、県の特定期品種である褐毛和種も引き続き飼養して、改良や増頭に寄与していきたいと考えている。

また、地域の高齢化によって耕作放棄地が増えていかないよう、「田畑を使ってほしい」と依頼があれば、なるべく断らず、営農組織と連携して飼料畑への利用を検討し、循環型農業を目指した耕畜連携に努めていくつもりである。



(写真9) 女性の活躍(妻が作成したカーフジャケット)

また、地域の後継者となりえる人材確保に向け、今後、地域の人材を雇用し、担い手育成に力を入れていきたい考えである。

まずは、自らが地域の良いモデルになるよう、ICT機器の活用を成熟させながら、“牛にも人にも優しい肉用牛繁殖経営”の確立を目指す。

がんばる後継者、 おやじ 親父に負けるな！

—地元での粗飼料調達による低コスト和牛スモール肥育経営の挑戦—

渕上 浩一・加奈子（肉用牛肥育経営・佐賀県杵島郡江北町）



（写真1）家族写真（後右端 経営主 浩一さん、隣 加奈子さん）

地域の概要

渕上牧場のある江北町は、町制施行70周年を迎え、佐賀県のほぼ中央にある人口1万人弱の小さな町であるが、交通の利便性が高く、近年人口の増加が続く、温暖で風光明媚な地域である。

当経営が所属する佐賀県農業協同組合（以下、「JAさが」という）は、県連機能を有した県域の大型農協であり、米・麦・大豆の土地利用型農業を中心に野菜、果樹、そして「佐賀牛」生産を中心とした畜産など幅広い農業が盛んである。

経営・活動の推移

平成13年に浩一さんは佐賀県農業大学校を卒業し、父親が経営する交雑種スモール肥育

経営（肥育牛220頭）へそのまま後継者として就農した。就農時に、就農支援資金を借入れ、畜舎を増築し、肥育牛80頭を増頭した。

平成15年に（公社）佐賀県畜産協会の経営診断の助言により、他の肥育経営に先駆けて粗飼料（イタリアンライグラス）の生産・給与を開始し、コスト低減に取り組んだ。以降、夏作はスーダングラスから稲WCSへ、冬作はイタリアンライグラスからエンバクを経て大麦WCSへと種類を変えながら、作付面積を延べ12haまで拡大した。

平成24年に畜産部門は全ての名義を浩一氏に変更した。

また、酪農情勢の変化により交雑種スモール牛の調達が難しくなったため、浩一氏の強い意向により和牛スモール牛主体へ経営方針を変更した。

平成29年以降は、肥育もと牛の高止まりや購入飼料費の高騰の影響が大きくなったため、肥育成績の向上のため育成牛舎を1房4頭飼いから2頭飼いに変更したり、暑熱対策のため屋根に断熱資材を利用するなど工夫を重ねている。

経営・技術の特色等

当経営は、平成12年に父親が全国優良畜産経営管理技術発表会において優秀賞を受賞している。当時は、交雑種スモール肥育牛の飼

(表 1) 経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭数	飼料作付面積 (a)	経営・活動の内容
平成5～6年	肥育牛 (F1・黒)	肥育牛 220頭	稲わら収集 50.0ha	・鉤公害復旧のため仮設牛舎に移転 ・肥育成績が低下 ・経営診断結果により、肥育牛を黒毛和種若齢肥育から交雑種スモール牛主体へ導入を切り替え ・和牛ETスモール牛の哺育も試みたが事故が多発
平成12年	肥育牛 (F1)	肥育牛 220頭	稲わら収集 50.0ha	・中央畜産会主催の全国優良畜産経営管理技術発表会にて優秀賞を受賞
平成13年	肥育牛 (F1)	肥育牛 223頭	稲わら収集 50.0ha	・現経営者が農業大学校を卒業し就農 ・就農支援資金により畜舎増築・増頭を開始 ・補助付きリース事業で堆肥舎を増築 ・BSE発生で枝肉価格が急落
平成14年	肥育牛 (F1)	肥育牛 300頭	稲わら収集 60.0ha	・結婚(現経営者)
平成15年	肥育牛 (F1)	肥育牛 300頭	稲わら収集 60.0ha イタリアンライグラス 0.5ha	・現経営者の妻が就農 ・経営診断の助言により、自給粗飼料の生産を開始 (以後、種類、面積を拡大)
平成24年	肥育牛 (F1・黒) 水稲 タマネギ	肥育牛 300頭	稲わら収集 60.0ha エンバク 6.0ha スーダングラス 5.5ha 稲WCS 0.5ha	・畜産部門は全て現経営者名義に変更 ・和牛スモール牛主体の導入へ経営方針を変更 ・稲WCSの生産開始
平成29年	肥育牛 (黒)	肥育牛 200頭	稲わら収集 60.0ha 稲WCS 6.0ha 大麦WCS 6.0ha	・大麦WWCSへの完全移行 ・子牛価格の高騰と疾病防止のため、育成牛舎を4頭から2頭群飼へ変更
令和元年	肥育牛 (黒)	肥育牛 234頭	稲わら収集 60.0ha 稲WCS 8.0ha 大麦WCS 6.0ha	・後継者の進路、就農と経営方針について家族で検討
令和3年	肥育牛 (黒)	肥育牛 216頭	稲わら収集 60.0ha 稲WCS 8.0ha 大麦WCS 4.0ha	・ゆとりあり経営を目指し、環境条件の良い牛房を利用して飼育頭数を調整 ・屋根断熱や採光など牛舎環境を改善(JA助成)

養管理を確立しており、稲わらやオガクズの収集・販売、たい肥販売を合わせた収益性の高い肥育経営を実現させていた。

浩一さんは、父親が確立した交雑種スモール肥育経営を稲WCSなどの粗飼料を調達しコスト低減を実現した和牛スモール肥育経営へと進化させ、所得向上と安定経営を図った。

また、水田の代掻きなど積極的に作業を受託したり、耕作放棄地等の管理を担うことで農地の荒廃を防ぎ、地域農業の発展に貢献したいと強い決意を持って取り組んでいる。

(1) 粗飼料を生産・利用した和牛スモール肥育経営の確立

令和3年販売牛の肥育成績は、主体の黒去

勢では出荷月齢29.1か月齢(肥育日数774日)で出荷体重769.6kg、枝肉重量513kg(県平均513kg)、1日増体量0.809kgと増体が良好であり、肉質も枝肉格付等級が4・5率95%(県平均94%)、5率67.3%(県平均64%)と優秀である。

肥育日数が774日と長いものの、黒去勢の1日増価額は961円と高く、増価額(販売額-導入価格)は743,989円と非常に大きい。

平成24年から浩一さんの強い意向により、交雑種スモールから和牛スモールへ肥育もと牛の品種を変更し、産地や導入月齢を調整しながら、飼料給与などの管理方法の習得に努めた。

和牛肥育に転換して10年ほどであるが、常

(表2) 経営実績 (令和3年度)

経営の概要	労働力員数 (畜産・2000hr換算)		家族・構成員	4.3人	
			雇用・従業員	0.7人	
	飼料生産	実面積		1,200 a	
	肥育牛 平均 飼養頭数	肉用種		221.5頭	
		交雑種		0.0頭	
		乳用種		0.0頭	
	年間 肥育牛 販売頭数	肉用種		105.0頭	
		交雑種		0.0頭	
		乳用種		0.0頭	
	収益性	所得率			17.6%
出荷肥育牛1頭当たり生産費用			1,402,697円		
生産性	肥育 (品種・肥育タイプ)	(黒毛和種去勢若齢)	肥育開始時	日齢(月齢)	111日
				体重	143.1kg
			肥育牛 1頭当たり	出荷時	885日
				出荷時生体重	769.6kg
			平均肥育日数		774日
			販売肥育牛1頭1日当たり増体重(DG)		0.809kg
			対常時頭数事故率		1.0%
			販売肉牛1頭当たり販売価格		1,429,774円
			販売肉牛生体1kg当たり販売価格		1,858円
			肉質等級4以上格付率		95.0%
	もと牛1頭当たり導入価格		685,785円		
	もと牛生体1kg当たり導入価格		4,792円		
	肥育 (品種・肥育タイプ)	(黒毛和種雌若齢)	肥育開始時	日齢(月齢)	126日
				体重	129.8kg
			肥育牛 1頭当たり	出荷時	861日
				出荷時生体重	662.8kg
			平均肥育日数		735日
			販売肥育牛1頭1日当たり増体重(DG)		0.725kg
			対常時頭数事故率		0.0%
			販売肉牛1頭当たり販売価格		1,094,092円
販売肉牛生体1kg当たり販売価格			1,651円		
肉質等級4以上格付率			100.0%		
もと牛1頭当たり導入価格		478,700円			
もと牛生体1kg当たり導入価格		3,688円			

に肥育成績の向上を目指し、飼槽間口への仕切り棒の設置や暑熱対策として肥育牛舎への外気導入・強制通気のための換気扇の追加設置、ガルバニウム材への屋根張替え、細霧装置の設置など飼育環境の改善に取り組んでいる。

また、経営診断のほか、パワフルさが畜産実践プロジェクト(現さが畜産GO×2(ゴーゴー)プロジェクト)により関係団体から助言指導を受けた。

なお、当経営の和牛スモール(黒去勢)肥育形態は、県内では他に無いので、他の肥育農家と競合しにくいと、比較的安価にもと牛を導入することができている。

(2) 粗飼料生産・給与への取組み

当経営は、以前より稲わら収集用の機械装置を完備し、牛舎周囲で大規模に稲わら収集とたい肥交換を行い、稲わら以外の飼料は購入していた。



(写真2) 肥育牛舎全景

平成15年はBSEや口蹄疫による経営不安が強い頃であったが、経営診断の助言により、機械装置が完備されていることから稲わら以外の粗飼料を地元（江北町・白石町）から調達することを検討し、まずイタリアンライグラス（冬作）を0.5ha作付けし、粗飼料生産に取り組み始めた。

収穫調整も当時普及し始めたラッピングサイレイジにするか、どのくらい給与するかなど、牛の状態をみながら、関係者からの情報収集と肥育成績をチェックしながら試行錯誤を繰り返し、肥育牛への利用方法を習得していった。

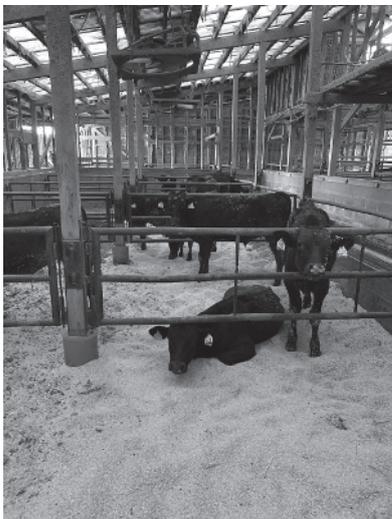
平成16年には夏作のスーダングラスの生産・給与にも取り組み、平成24年から夏作はスーダングラスから稲WCSへ、平成29年に

は冬作はエンバクから大麦WCSへ切り替えを図り、現在の飼料生産体系となった。

周囲は、米・麦・大豆を中心とした農業が盛んな地域だが、農家の兼業化や高齢化が進み、当経営への圃場管理の依頼が多く、飼料生産に利用できる稲WCSの生産政策は追い風となった。

大麦WCSは、稲わらや稲WCSと収穫時期にずれがあるため、機械装置の有効活用と粗飼料調達の労働時間を分散させることができ、労働負担を平準化させることができている。1年を通して粗飼料を調達できるため、天候の影響による粗飼料の品質低下を最小限に止めている。

一方で、集落営農のブロックローテーションが盛んな地域のため、粗飼料生産を増やす



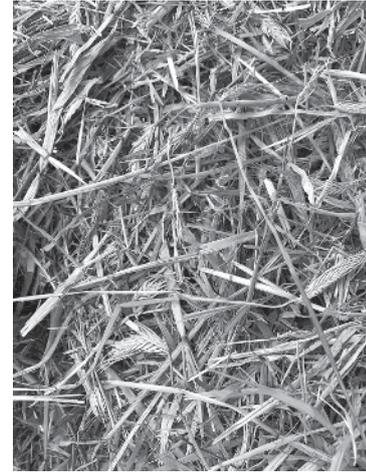
(写真3) 育成牛舎



(写真4) 仕上牛舎



(写真5) 田植え後のWCS用イネ



(写真6) 大麦WCS

上で、大きな課題が2つあった。

1つは、牧草を作付けした圃場で翌年以降に牧草の発芽がみられること。クレーンにより牧草の除草を経験したため、水稻と大麦の種子を利用したWCS体系へ集約するきっかけになった。

2つ目は、湿気を嫌う大豆圃場の隣で、稲WCSを栽培すると水田に冠水した水が大豆圃場にしみ出すことであった。試行錯誤の結果、圃場境界の畔だけでなく、専用機械を導入して内側にもう1つ畔を作り、二重の畔による対策を実践した。

これらの対応策により、現在では稲WCS（8ha）及び大麦WCS（4ha）を生産・調達して、ハイキューブ以外の粗飼料を全て地元から調達している。

(3) 粗飼料生産・調達による購入飼料費の低減

和牛スモール肥育経営は肥育期間が長いいため、稲WCS、大麦WCSを自給し、稲わら地域の耕種農家と連携して継続的に自家調達することにより、購入飼料費の低減に努めている。

粗飼料生産に係る機械装置の減価償却費や燃料代等を考慮しても、自家調達した方が粗飼料を購入した場合より、販売牛1頭当たり31,923円安価である。

購入飼料費の高騰は、先行きが不透明であり、粗飼料だけでも安価に調達できることは経営面で非常に有利であり、安心できる材料となっている。

地域に対する貢献・共生

(1) 堆肥供給や耕畜連携等による地域農業との共生への取組み

当経営のたい肥は、ショベルローダーによる切り返しに加え、マニアスプレッターを2回利用して粉碎し発酵を促しており、きめ細やかで利用しやすいたい肥として口コミで人気がある。

稲WCSや大麦WCSなどの粗飼料生産・調達（延べ12ha）により耕種農家との利用計画やたい肥散布契約などを通して、またたい肥と稲わら交換（延べ50ha）を通じた良質たい肥の生産・供給を行い資源循環型農業への取組に力を入れている。

また、稲わらとたい肥交換を行う過程で、当経営では機械装置を利用して積極的に耕耘や代掻きを作業受託することで、兼業化や担い手不足で高齢化する耕種農家の圃場管理を行うなど、地域の中核的な農家としてポジションを確立するとともに、地域農業との共生を図っている。



(写真7) 耕種農家への堆肥販売

(2) 「佐賀牛」生産への貢献

「佐賀牛」は、枝肉格付で肉質等級が5等級または4等級で、かつ脂肪交雑のBMSナンバーが7以上のものであるが、佐賀県やJAさが、肥育農家などの積極的なPR等により好評を得ている。

浩一氏は、肥育牛部会及び青年部会の一員として、食肉センターや流通業者等と意見交換を行いながら、消費者が望む牛肉づくりに邁進している。

女性の活躍・働きやすい 職場環境づくりの取組み

(1) 女性の活躍

現在、妻と母の2名が従事しており、ともに大型特殊免許を持ち、トラクターやショベルローダーを駆使している。

業務は、妻は子育てと家事が中心だが、肥育牛の飼養管理や粗飼料調達に携わり、母はパソコン会計ソフト（ソリマチ）を利用して会計業務も担当している。

(2) 働きやすい職場づくりの取組み

当経営では、杵島農業振興センター(旧杵島農業改良普及センター)や江北町に指導を受けながら家族経営協定を締結しており、粗飼料収穫時期以外は自由に休みを取ることができ、無理・無駄のない家族経営を目指して

いる。

職場である肥育牛舎やたい肥舎が自宅横に、粗飼料生産の圃場が自宅近くにあることから、これ以上ない職場環境である。

将来の方向性

(1) 次世代への継承

当経営は、肥育成績や経営収支、財務内容が優秀で安定している。

今後、長男が佐賀農業大学校（畜産専攻）卒業後に就農予定であり家族労働力が増えるため、家族に無理、無駄が無いように、かつ家族での時間や余暇を満喫できるように労働時間に余裕のある経営を目指したい。

また、肥育経営の生産基盤、経営基盤を強固にするため、かつ経営の継続性や信用を高めるために法人化を検討している。

(2) 今後の経営計画

県内の肥育農家と連携し「佐賀牛」生産にこだわり、消費者に安全、安心な牛肉を供給するとともに、たい肥や農作業を通して地域農業の下支えに努めたい。また、外部環境に影響を受けないように、後継者が就農した後に繁殖部門への取組を検討したいと考えている。

「地域に根ざし、100年続く経営作り」

— 伝統的技術の継承と先進的技術の融合 —

有限会社高田牧場（肉用牛肥育経営・大分県豊後高田市）



（写真1）経営主 高志さん（写真中央）右隣 父光則さん

地域の概況

豊後高田市は、大分県の北東部、国東半島の西側に位置し、豊かな自然と温暖で過ごしやすい瀬戸内式気候に属しており、「国東半島・宇佐地域」のクヌギ林とため池によって持続的に維持されている原木しいたけ生産をはじめとする「循環型の農林水産業」の営みは、世界農業遺産にも認定されている。

地域の農業では、平坦地域は米麦中心に白ネギ、いちご、菜花、花きなどの園芸作物が栽培され、丘陵地帯には肉用牛団地や柑橘畑、ブローラーの産地が形成されており、干拓地における白ネギは西日本でも屈指の一大産地を形成している。肉用牛は29戸あり、特に肥育牛は県内最大の産地となっている。

（表1）経営実績（令和3年）

経営の概要	労働力員数 (畜産・2000hr換算)		家族・構成員	4.1人	
			雇用・従業員	3.7人	
	飼料生産	実面積		2,545 a	
	肥育牛 平均 飼養頭数	肉用種	18.0頭		
		交雑種	1,116.5頭		
		乳用種	-頭		
	年間 肥育牛 販売頭数	肉用種	7頭		
		交雑種	620頭		
		乳用種	-頭		
	収益性	所得率			5.0%
出荷肥育牛1頭当たり生産費用			600,673円		
生産性	肥育 (品種・肥育タイプ)	肥育開始時	日齢(月齢)	54.9日	
			体重	86.3kg	
		肥育牛 1頭当たり	出荷時	676日	
			出荷時生体重	703.6kg	
		平均肥育日数		621日	
		販売肥育牛1頭1日当たり増体重(DG)		0.994kg	
		対常時頭数事故率		1.07%	
		販売肉牛1頭当たり販売価格		666,531円	
		販売肉牛生体1kg当たり販売価格		947円	
		肉質等級4以上格付率		14.3%	
	もと牛1頭当たり導入価格		255,187円		
	もと牛生体1kg当たり導入価格		2,967円		
	肥育 (品種・肥育タイプ)	肥育開始時	日齢(月齢)	5.9日	
			体重	35.8kg	
		肥育牛 1頭当たり	出荷時	820.9日	
出荷時生体重			657kg		
平均肥育日数		815日			
販売肥育牛1頭1日当たり増体重(DG)		0.762kg			
対常時頭数事故率		5.6%			
販売肉牛1頭当たり販売価格		1,004,845円			
販売肉牛生体1kg当たり販売価格		1,529円			
肉質等級4以上格付率		100.0%			
もと牛1頭当たり導入価格		166,211円			
もと牛生体1kg当たり導入価格		3,865円			

(表2) 経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和45年	肉用牛肥育 (黒毛和種)	10頭		・12月より、祖父が肉用牛肥育(黒毛和種)を開始 ・(有)高田牧場として4戸で経営を開始(各戸10頭規模: 牛舎4棟)
昭和52年	肉用牛肥育 (乳用種)	50頭	・トウモロコシ (3ha) ・イタリアンライグラス (3ha)	・父(32歳)は、民間会社を退職し、就農。牛舎1 棟を新設。 ・(有)高田牧場は、1戸離農3戸の体制となった。
昭和57年～ 63年	肉用牛肥育 (乳用種)	300頭	・トウモロコシ (3ha) ・イタリアンライグラス (3ha)	S57 育成牛導入からヌレ子での導入に変更し増頭 を図る。 S62 牛肉・オレンジ輸入自由化の中、国際化を見 据え、アメリカ研修で10万頭の牧場を視察。 S63 祖父より父(42歳)へ経営移譲。
平成2年～ 13年	肉用牛肥育 (交雑種)	400頭	・トウモロコシ (3ha) ・イタリアンライグラス (3ha)	H5 (有)高田牧場の組合員2戸が廃業し、1戸1法人 の形態となる。 H13 BSEにより、乳用種の枝肉価格が暴落したた め、今後、高い利益率が見込める交雑種へと 経営方針を切り替えた。
平成14年～ 30年	肉用牛肥育・ 一部繁殖 (交雑種・黒 毛和種)	1,000頭	・稲WCS (16.3ha) ・飼料用米 (5ha) 合計: 21.3ha ・放牧地: 20ha ※放牧(パヒアグラス3ha)	H16 経営主(28歳)が、民間会社を退職し、就農。 H21 山口型放牧を視察し、地域の荒廃地の解消を 目的に、水田放牧を開始。 H23 豊後・米仕上牛販売拡大協議会設立。初代会 長となる。 H30 父より経営主(42歳)へ経営移譲。
令和元年～ 令和3年・ 現在	肉用牛肥育・ 一部繁殖 (交雑種・黒 毛和種)	1,200頭	・稲WCS (16.3ha) ・飼料用米 (8.3ha) 合計: 24.6ha ・放牧地: 20ha ※放牧(パヒアグラス10ha)	R3 父は、11月に畜産並びに地域貢献が認められ、 黄綬褒章を受章。 R4 10月に農場HACCP認証取得。 現在 飼養頭数1,200頭、牛舎15棟、堆肥舎3棟。

経営・活動の推移

有限会社高田牧場は、昭和45年に祖父が仲間3人と計40頭の黒毛和種の肥育経営を開始し、昭和63年に父の光則さんへと引き継がれ、平成30年に現在の経営主の高志さんが継承した。

父は、牛肉・オレンジ輸入自由化が大きな社会問題となっていた昭和62年に、アメリカの農場視察に参加し、10万頭規模の農場を目の当たりにし規模拡大で高い収益が確保できると確信を得た。順調に規模拡大を図ってきた中、平成5年にもと畜費や飼料費の上昇など、経営を取り巻く環境が悪化したことで、共同経営者であった2名が離農に追い込まれ、その資産・負債を引き継いだことや、平

成13年のBSE発生による枝肉価格の暴落という大きな2つの経営危機を経験した。父は就農して以来、コスト削減や省力化、肉質の向上などの経営シミュレーションを重ね農協や行政機関、税理士などの協力を仰いで資金調達を行うなど、もと畜価格の暴落を逆手にチャンスと捉え、肉質面でより国際競争力がある、それまでの乳用種肥育から高い利益率が見込める交雑種肥育へと一気に切り替える決断をした。現在の牛舎15棟で交雑種飼養頭数、1,200頭規模経営の礎となっている。

本牧場は、地域や関係者の信頼を大切にすることで「地域に根ざし、100年続く経営作り」を経営理念とし、新しい時代にも耐えうる持続可能な経営を目指すことを心がけている。



(写真2) 経営検討会

経営・技術の特色等

【生産基盤強化】

(1) 規模拡大による高い収益性の確保

現在の常時飼養頭数1,135頭は、交雑肥育経営としては、飼養規模や収益性において県内トップクラスの肥育経営体である。

経営の特色は、まず交雑種雌牛肥育であり、肥育回転率向上に向けて22か月齢での早期出荷を行っており、令和3年の肥育回転率は

55.2%となっている。

次に、県普及員の指導の下に作成した管理システムで経営シミュレーションを行い、設備投資のタイミングや運転資金等の借りに活用し、安定した収益の確保に努めている。

(2) 生産コスト低減の取り組み

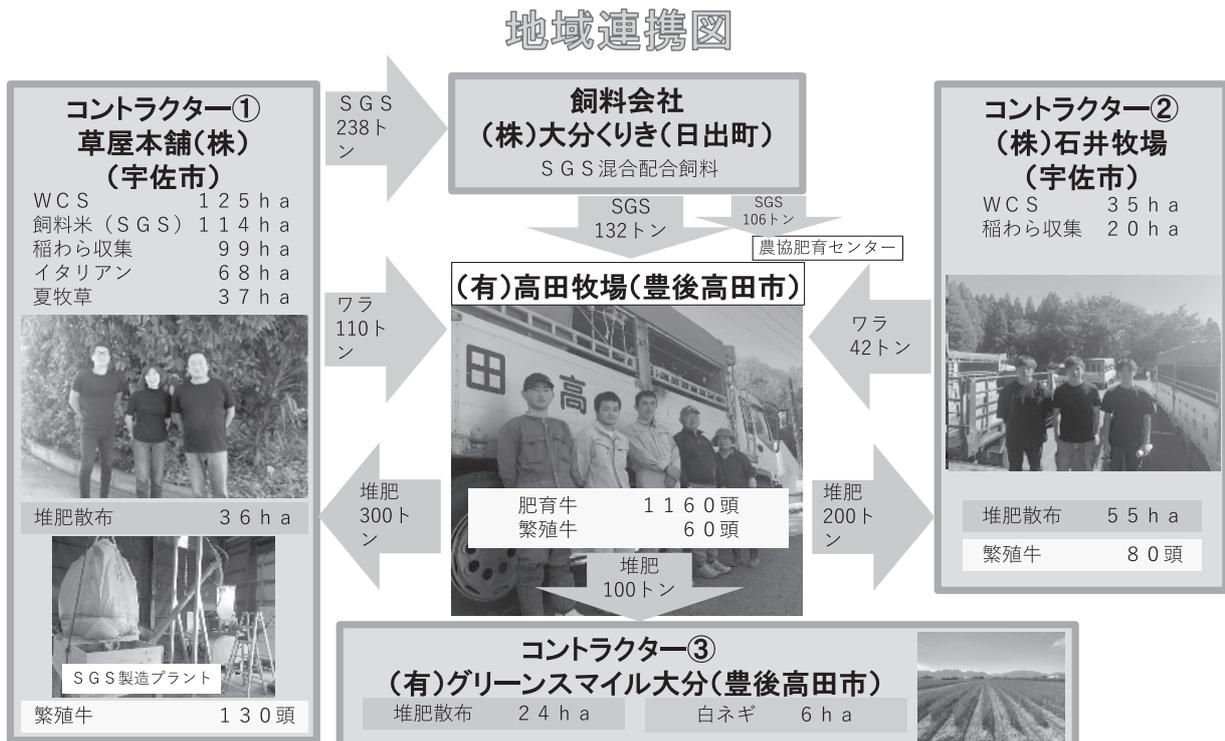
経営の特色として、出荷牛1頭当たりの購入飼料費の低コスト化である。

配合飼料については、地域のコントラクターや飼料関連会社と連携して、飼料用米・飼料用米SGS、食品製造粕を混合した農場特注の飼料を製造している。

特注飼料については、地域のライスセンターや大規模コントラクターとも連携を取り、飼料用米や飼料用米SGSを確保して『豊後・こめしあげぎゅう 米仕上牛』のブランドを確立している。また、国産飼料の活用は、国際情勢で大きく変動する配合飼料価格の安定にもつながっている。

自給飼料生産については、稲WCS・飼料用米、バヒアグラスを延べ34.6ha作付けし、

(図1) 地域連携図



稲わらもたい肥交換を行いながら20haの収集を行っている。粗飼料は哺乳期の購入乾草を除き自給できており、出荷牛1頭当たりの購入飼料費は、『経営診断全国集計』と比較して8割程度に低減されている。

【「豊後・米仕上牛」の販売戦略】

(1) 豊後・米仕上牛販売拡大協議会の設立

平成23年、父が中心となり、飼料用米を利用している地域の牧場2件と一緒に、ライスセンター、飼料会社、食肉卸業者、小売店、行政機関なども参加した「豊後・米仕上牛販売拡大協議会」を設立した。

飼料用米を200kg以上食べて育った牛を「豊後・米仕上牛」と命名して商標権を取得し、新たなブランドとして立ち上げた。

現在では県内の有名老舗スーパーの主力商品として、年間400頭が販売されている。

(2) 高付加価値化・高品質化

飼料用米の給与は、オレイン酸などの不飽和脂肪酸が高まり、脂肪の質が向上すると言

われている。交雑牛特有のほどよい霜降りの赤身肉は、最近の健康・食味志向とマッチしており『豊後・米仕上牛』は、地域で生産された飼料米の給与や、生産者の顔が見える、安全・安心な食肉として最近ではレストランでの利用も拡大している。

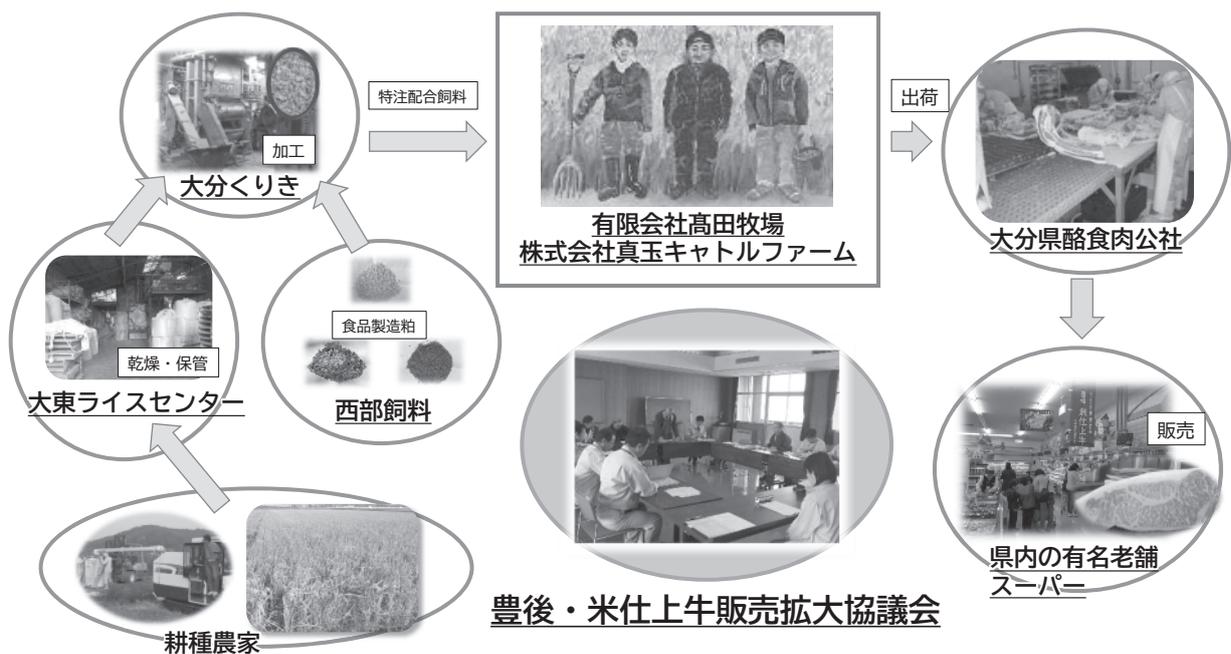
こうした畜産物の高付加価値化の取り組みが評価され、令和2年度「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」で公益社団法人中央畜産会会長賞を受賞している。

また、大阪市食肉市場で開催された第55回農林水産祭参加行事第35回全農肉牛枝肉共励会で最優秀一席を受賞するなど、数多くの品評会で好成績を収めている。

【農場HACCPの取り組み】

規模拡大に伴い増加傾向にあった死亡廃用牛対策や、従業員の飼養管理技術の向上、消費者に対する「豊後・米仕上牛」の安全・安心の理解醸成として、平成29年8月から農場HACCP認証への取り組みを決意した。

(図2) 豊後・米仕上牛の流れ



毎月、場内会議や勉強会を行うことで従業員の意識改革、事故率の低減、枝肉成績の向上、ICT機器等の省力化が実現できている。特に事故率の低減と枝肉成績の向上に効果が出ており、年間死亡率は1%に低減し、枝肉成績としてはロース芯面積や枝肉重量が増加した。

令和4年10月6日に農場HACCP認証を取得しました。

地域に対する貢献

【耕畜産連携による持続可能な肥育経営】

生産堆肥は地域の営農組織との契約による稲わらとの交換や、地域の園芸農家や地域おこし団体などへの販売により、全量を地域の農地に還元し、持続可能な農業や地域おこし団体が発展の一因となっている。

【地域の荒廃農地並びに共有林を利用した放牧】

「国東半島・宇佐地域」は、世界農業遺産に認定されていることもあり、市では、自然景観維持の活動に力を入れている。こうした中、地域の荒廃農地15haと共有林5haにバヒアグラスを作付けし、林間放牧を行うことで自然景観の維持に貢献している。また、放牧地にはため池があり、毎年、地域の青年有志に周りの草刈りを行ってもらっており、御礼として「豊後・米仕上牛」を提供している。放牧地のため池での自然景観維持活動を通じて、地域との連携も図っている。

【食育活動】

市内の小・中学校では、食育事業の一環として毎月1回「食育の日」を実施しており、小学校のPTA役員でもある経営主は、「食育の日」に合わせて地域の小学校へ「豊後・米仕上牛」を提供し、生徒に畜産業への理解や命の大切さを伝える活動も行っている。



(写真3) 食育活動

【ふるさと納税品】

「全国トップレベルの子育て支援」を掲げる市は、その財源としてふるさと納税に力を入れており、園芸作物や柑橘類など市内で生産される多くの農産品が返礼品にラインアップされている中、「豊後・米仕上牛」は抜群の人気を誇っており、市の財源確保に大きく貢献している。

女性の活躍・働きやすい職場環境作りの取り組み

【女性の活躍】

法人構成員の4名のうちの2名が女性(母、妻)である。

母は、特に観察が重視される哺育部門と会計事務も担当している。当牧場の経営の基礎となる哺育部門として重要な役割であり、現在の経営に至ったと強く感じている。

妻は、原則、母と同じ勤務時間、勤務内容で、現在は子育てのため補助的な仕事をしているが、将来母の後継者として活躍を夢見ている。

【高田牧場の働き方改革】

(1) 労働環境と福利厚生等

本牧場は、働きやすい環境を目指し母と妻は家事を考慮し1日5.5時間勤務し、2名の従業員は1日8時間勤務とし2週に3日の休日を確保している。

労働環境の更なる改善に向けて、「くにし



(写真4) 家族写真※4代目の後継者予定 (左から3番目)

き西部ヘルパー利用組合」を月に20日程度利用している。ヘルパー組合は平成15年に発足した大分県では初となる定休型ヘルパー組織であり、設立に尽力した父が組合長を務めている。

さらに、シルバー人材センターを月10日程度利用することで、全員が計画どおり休日が取得できており、今後益々労働環境、福利厚生の上昇に努めたい。

また、牧場に携わる全員が、創意工夫し実践して得た利益は、決算手当として従業員に還元している。

将来の方向性

将来の方向として「地域に根ざし、100年続く経営作り」の基本的な経営理念を保ち、それを実現するために「経営基盤の強化」、「豊後・米仕上牛」の販売戦略、「農場HACCPの取り組み」を軸にして、4代目の後継者に経営をバトンタッチすることを目標としている。

本牧場を持続可能な経営とするため、1,500頭まで拡大を行う計画を持っている。今後新たな雇用確保、自動給餌器の導入など、従業

員の働き方も見直しを行っていく。規模拡大に伴うたい肥処理は、ペレット化による広域流通の取り組みも視野に入れている。

さらに地域の荒廃農地を活用し、放牧地を30haまで拡大することで、黒毛和種繁殖雌牛を50頭まで増頭し、和牛の一貫生産の強化を図るとともに、飼料コスト削減に向けて、地域との更なる連携を図っていききたい。

また「豊後・米仕上牛」についても、食肉卸業者と協力し、東京・大阪への販路拡大や自動販売機による販売も検討をしていきたい。

最後に、農場HACCP認証の取得後は、「豊後・米仕上牛」のPRにも活用し、飼養衛生管理を徹底強化することで、本牧場の更なる発展を図っていくこととしている。

地域粗飼料資源をフル活用して 資材価格高騰と温室効果ガス削減に挑む

株式会社有田牧場（肉用牛一貫・酪農経営・熊本県球磨郡錦町）

地域の概要

株式会社有田牧場（代表取締役有田耕一、以下「有田牧場」）が立地する球磨郡錦町は、熊本県南部に位置し、周囲は急峻な山並みに囲まれた人吉盆地にあり内陸型の冷涼な気候の地域である。日本三大急流の一つ球磨川の豊かな水脈や特有の気候を活かした、稲、麦、茶、たばこ、野菜、果樹等、多様な耕種農業が盛んである。また、豊富な草資源を活かし



（写真1）家族・従業員（下右から2番目 有田耕一さん）

た酪農・畜産業も盛んで町内には家畜市場、食肉処理施設等も立地している。

（表1）経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭（羽）数	飼料作付面積	経営・活動の内容
平成20年	肉用牛繁殖 酪農	成雌牛8頭 経産牛80頭		・父の逝去に伴い31歳で就農 ・繁殖牛舎新設
平成25年	〃	成雌牛96頭 経産牛195頭		・第2牧場取得（牛舎2棟）
平成29年	〃	成雌牛233頭 経産牛147頭		・繁殖牛舎、哺育育成舎新設 ・堆肥舎新設
平成30年	〃	成雌牛288頭 経産牛177頭		・哺育育成舎新設（2棟）
令和元年	肉用牛繁殖 肉用牛肥育 酪農	成雌牛353頭 肥育牛77頭 経産牛114頭	355ha （うち、耕畜連携287ha）	・第3牧場取得（酪農経営跡地）
令和2年	〃	成雌牛420頭 肥育牛127頭 経産牛116頭	369ha （うち、耕畜連携301ha）	・5年後を目標とする計画策定 ・肥育牛舎整備事業申請 ・全国肉牛事業協同組合理事就任
令和3年	〃	成雌牛461頭 肥育牛178頭 経産牛114頭	396ha （うち、耕畜連携328ha）	・繁殖牛の目標はほぼ達成。 ・肥育牛舎新設（8棟）

※年次：法人化（平成26年）以降は、決算期（2～1月）

(表2) 土地利用状況 (水田及び畑による作付体系)

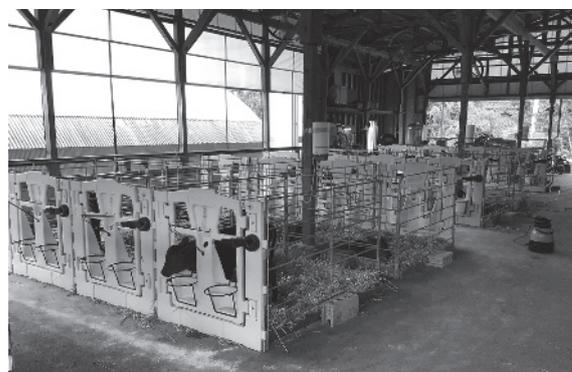
土地利用状況 (水田及び畑による作付体系)

作目名	作付けの状況											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
イタリアンライグラス				□ ← → □ 1番草 2番草						○ ← → ○ 播種		
トウモロコシ			○ 1期作目					○ 2期作目				□
夏草 (ヒエ)						○	□ 1番草	□ 2番草	□ 3番草			
稲WCS								□ ← → □ 収穫作業			□	
麦わら					□ ← → □ 麦わら収集							
稲わら								□ ← → □ 稲わら収集				

○ 播種
□ 収穫



(写真2) 耕種農家との連携による稲WCS収穫作業



(写真3) ペンによる哺育牛の管理

経営・活動の推移

【酪農を基礎とする肉用牛繁殖・肥育一貫経営】

耕一さんは、平成6年高校卒業後実家の酪農経営を手伝い、その後研修として、熊本県内大規模酪農経営で従業員として2年間就農し、酪農における群管理での経営手法を学んだ。

平成20年に父親の逝去に伴い就農し、8頭の繁殖雌牛から肉用牛経営を開始。その後、

国の事業等を活用しつつ経営規模を拡大し、平成26年に法人化した。

現在、有田牧場は錦町に3牧場を有する酪農を基礎とした肉用牛繁殖・肥育一貫の乳肉複合経営であり、第1牧場を酪農・繁殖部門、第2牧場を繁殖・育成部門、第3牧場を肥育部門に分けている。令和3年の平均飼養頭数は、黒毛和種繁殖雌牛460.5頭、育成牛108頭、子牛290頭、肥育牛177.5頭、ホルスタイン種経産牛114.4頭の合計1,150.4頭である。



(写真4) ミルクシャトルによる代用乳給与



(写真5) 肥育牛に装着したチェックセンサー



(写真6) 自作の温水配給システム (第3牧場)



(写真7) 品質に優れた稲WCSのラッピング作業

経営管理・生産技術の特色

【地域粗飼料資源のフル活用】

有田牧場の強みは豊富な自給飼料生産に裏打ちされた高い飼料自給率にある。令和3年の作付面積は、錦町と隣接するあさぎり町の延べ396haに上り、その内訳は、飼料用トウモロコシ28ha（二期作）、ミレット10ha、河川敷牧草（一番イタリアンライグラス（以下「イタリアン」）10ha、二番イタリアン10ha、三番野草10ha）、これに耕畜連携による稲WCS150ha、一番イタリアン82ha、二番イタリアン30ha、その他牧草・青刈り稲8ha、稲わら30ha、大麦わら28haとなっている。

また、ほ場が2つの町に広域的に分布すること、夏場は複数の作目の作業が重なっていること、更には天候に左右されることを踏ま

え、各町に1か所ずつ機械やロール、堆肥などを一時的に保管するストックポイントを設置し、飼料生産用機械の効率的な稼働、収穫したロールの効率的な運搬等が行えるよう工夫している。

自給飼料の積極的な作付けにより飼料TDN自給率は、肥育を含む肉用牛で44.3%、酪農で75.4%まで向上し、飼料基盤に基づく安定した経営を展開している。

【地域の仲間との耕畜連携】

耕畜連携による自給飼料生産は、地域の耕種農家の理解と協力が不可欠であることから、耕一氏と弟の和重氏がほ場の集積や作業日程の調整、実際の収穫作業に直接あたることによって信頼関係を構築。更に、耕種農家との円滑な関係を築き連携の輪を広げるため、年に数回、有田牧場が主催する親睦会（バーベ

(表3-1) 肉用牛一貫経営実績 (令和3年)

経営の概要	労働力員数 (畜産・2000hr換算)		家族・構成員	1.5人
			雇用・従業員	2.5人
	成雌牛平均飼養頭数			460.5頭
	飼料生産	実面積	20,800 a	
	年間子牛分娩頭数			430頭
	肥育牛 平均 飼養頭数	肉用種	177.5頭	
		交雑種	0.0頭	
		乳用種	0.0頭	
	年間 肥育牛 販売頭数	肉用種	40頭	
		交雑種	0頭	
乳用種		0頭		
収益性	所得率			30.0%
	出荷肥育牛1頭当たり生産費用			11,622,886円
生産性	繁殖	成雌牛1頭当たり年間子牛分娩頭数		0.93頭
		成雌牛1頭当たり年間子牛販売頭数		0.50頭
		平均分娩間隔		11.9 ヶ月
	肥育 (品種・肥育タイプ) (黒毛和種去勢若齢)	肥育開始時	日齢(月齢)	270日
			体重	308kg
		肥育牛 1頭当たり	出荷時	879日
			出荷時生体重	787kg
		平均肥育日数		609日
		販売肥育牛1頭1日当たり増体重(DG)		0.787kg
		対常時頭数事故率		0.0%
販売肉牛1頭当たり販売価格		1,402,468円		
販売肉牛生体1kg当たり販売価格		1,782円		
肉質等級4以上格付率 ※		100.0 %		
もと牛1頭当たり導入価格		401,337円		
もと牛生体1kg当たり導入価格		1,303円		

キュー)に耕種農家等を招き交流を深めてきた。今では、地域の飼料生産を担う仲間として、WCS用の飼料用稲の作付けや収穫時のロール運搬を耕種農家が担っている。

【酪農の牛群管理を基礎とした肉用牛繁殖経営への発展】

就農当時、8頭いた繁殖雌牛のうち優良な個体の受精卵を自家乳用牛へ移植し和子牛を生産・保留するとともに、市場からも積極的な導入を図り、現在461頭まで拡大した。枝肉成績に係る推定育種価等を判断材料に、肉質・肉量・歩留等バランスの良い雌牛を選抜することで、市場価値の高い子牛が生産できる雌牛群を造成してきた。

また、雌牛群の繁殖・育種管理、子牛・育

(表3-2) 酪農経営実績 (令和3年)

経営の概要	労働力員数 (畜産・2000hr換算)		家族・構成員	2.4人	
			雇用・従業員	2.6人	
	経産牛平均飼養頭数			114.4頭	
	飼料生産	実面積	5,600 a		
	年間総販売乳量			907,418kg	
	年間子牛販売頭数			61頭	
	年間育成牛販売頭数			1頭	
	年間経産牛販売頭数			38頭	
	収益性	所得率			50.8%
		経産牛1頭当たり生産費用			895,084円
生産性	牛乳生産	経産牛1頭当たり年間産乳量		7,932kg	
		平均分娩間隔		13.8 ヶ月	
		受胎に要した種付回数		1.9回	
		平均産次数(期首)		2.7産	
		平均産次数(期末)		2.6産	
		牛乳1kg当たり平均価格		119.6円	
		牛乳1kg当たり生産費用		113.0円	
		乳脂率		3.90%	
		乳蛋白質率		3.00%	
		無脂乳固形分率		8.78%	
		体細胞数		20.0万個/ml	
		借入地依存率		93.1%	
		飼料TDN自給率		75.4%	
乳飼比(育成・その他含む)		21.8			

成牛も含めた肉用牛群の健康管理、飼料設計・給与方法等の飼料給与管理は、酪農部門で培われた管理技術が基盤となっている。

【人工哺育による徹底した個体管理】

就農当初から0日離乳を実践しており、獣医師の指導の下、子牛管理プログラムに基づき哺乳子牛を個体ごとに管理している。子牛の免疫付与のためには、搾乳牛の初乳を低温殺菌したものを出生直後に給与している。40日齢までは独自改良した換気性の高い組立式ペンで個別に飼養し、マイコプラズマ対策等徹底的な衛生管理を実践している。

その後、5か月齢までは5頭ごとの群飼いと、子牛用授乳マシンを利用し代用乳を給与している。また、移動式5連ストールを自作し哺乳時に個体ごとの細かな観察やワクチン接種などを行えるよう工夫している。



(写真8) 哺育作業を担う女性リーダー

【優れた観察眼とIoT機器活用による高度な個体管理】

優れた観察眼による毎日数回の巡回を欠かさず、飼養管理のステージ毎に最適なIoTシステムを導入し、徹底した個体管理を実践している。具体的には、①哺育期の活動量異常早期発見のためのネックタグ、②発情発見のための歩数計、③分娩監視カメラ、④肥育期の起立困難発見のための横臥継続時間チェックセンサーを活用している。

また、観察継続により冬期の飲水量の大幅な減少を認めたことから、地元業者と組んで自作の温水配給システムを第2、3牧場へ整備し、寒冷期の肥育牛の体調不良発生を大幅に減らした。

【肥育牛への高品質な粗飼料の給与】

肥育前期の粗飼料の自給にこだわり、「牛が食べる」粗飼料、具体的には収穫時期を限定した品質の高い稲WCSのみを飽食させることで牛の腹づくりを徹底し、その後の濃厚飼料の食い込み増へつなげ優れた肥育成績の礎となっている。

【各部門における高い生産成績と収益性】

繁殖部門では、平均分娩間隔が11.9か月（県平均13.6か月）であり、一年一産を実現している。また、雌子牛の販売価格は723千円／頭と県平均（691千円）より4.6%、去勢子牛が861千円／頭と県平均（797千円）より8.0%

高く販売している。

肥育部門では、出荷牛すべてが自家産であり、生産コストが401千円／頭ともと畜費を大幅に圧縮。販売実績は、雌牛が上物率95%、販売価格1,317千円／頭、去勢牛が上物率100%、販売価格1,402千円／頭であった。酪農部門では、自給飼料多給による飼料費の大幅減を実現（乳飼比21.8）。

年間総所得は、肉用牛76,623千円及び酪農76,604千円で、所得率は、それぞれ30%及び50.8%となっている。

地域に対する貢献

【畜産環境対策の徹底と地域内資源循環の実践】

酪農部門のスラリーと肉用牛部門の排せつ物は、混合して水分調整の上、ブローを整備したたい肥舎で発酵処理しており、生産された良質たい肥は、耕畜連携先の水田を含む自給飼料生産ほ場へ散布することで地域内資源循環を実践している。

【地域の担い手との連携や将来の担い手の育成】

近隣の畜産農家10戸及び耕種農家15戸との飼料や肥料・種子など資材の共同購入の取りまとめ役を担い、地域一体となった生産コスト低減に寄与している。

また、担い手育成のため、地域の農業高校、県農業大学校等の実習生・研修生を積極的に



(写真9) 移動式自動給餌機 (第2牧場)

受け入れている。その中から繁殖経営を開始した人材も現れ、平成30年には県指導農業士にも認定されている。

【農福連携への取組み】

令和元年から、県障害者就業・生活支援センターと連携し、障害者雇用に積極的に取り組んでおり、本年5月から就農した1名が、哺育部門で活躍中である。

【温室効果ガスの削減に向けて】

耕一さんは、飼料用トウモロコシ、飼料用稲、イタリアン等の粗飼料の地産地消を通じ、輸送に係る温室効果ガス（GHG）の大幅削減を実践している。また、自らが理事を務める全国肉牛事業協同組合で、肉用牛からのGHG削減に向けた実証事業の立ち上げを提唱した。今年度から、東京農業大学と共同で関係機関、生産者等との連携による事業がスタートしている。

女性の活躍・働きやすい 職場環境づくりの取組み

【女性の活躍】

有田牧場は、現在、構成員4名、従業員8名の12名体制となっており、うち女性が4名と全体の1/3を占めている。哺育部門では女性従業員がリーダーを務め、他従業員の指導・監督にあたっている。

従業員の快適な労働環境を整えるため、自動給餌機やレーン搬送式搾乳ユニットの導入

など作業の機械化・省力化による労力負担の軽減を図っている。また、福利厚生面では、社宅の整備を始め第1～第3牧場それぞれにトイレと休憩場を配備している。

将来の方向性

【地域のほ場管理の担い手】

耕一さんは45歳と若く、稲作農家の高齢化が進んでいる中、地域のほ場管理の担い手として期待されている。このため、今後とも耕畜連携での自給飼料作付けによる管理ほ場面積の拡大が見込まれる。一方で、60歳定年を視野に15年間で投資資金の償還が終わるよう、牛舎など大型の設備投資は令和3年までに済ませている。

【今後の経営計画】

令和2年に今後5年間の事業計画を策定。酪農部門は乳飼比を重視し飼養規模は現状維持とし、肉用牛部門は、繁殖牛500頭、子牛・育成牛500頭、肥育牛500頭の計1,500頭規模を目指して経営を展開してきた。繁殖部門は、粗飼料の確保が順調に進み、繁殖成績も良好であることからすでに目標を達成した。肥育部門は令和4年10月現在では400頭規模まで増頭しており、今後は飼料高騰や枝肉相場等を考慮し頭数を調整することで、生産環境の変動に柔軟に対応し得る経営を目指していく。

おいしい笑顔がみたいから

—伝説の下妻金豚—

倉持ピッグファウム株式会社（養豚経営・茨城県下妻市）

地域の概要

下妻市は、茨城県南西部、東京から約60km圏に位置し、緑と水に恵まれた田園都市で、総面積は80.88平方キロメートルである。

農業の状況は、水稻を軸に、果樹・野菜・畜産を組み合わせた複合経営が主体となっており、主に、北部地区は梨、南西部はスイカ、白菜等の野菜の栽培が盛んであり、南東部地区では、カントリーエレベーターを核とした土地利用型農業が展開されている。

養豚においては、かつて日本一の飼養頭数があり、現在でも約4万頭が飼養される県内有数の産地である。近年は、環境対策として、



(写真1) 家族（左から長男 朝成さん、代表 倉持勝さん、次男 暁成さん）

(表1) 経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和56年	養豚経営	種豚生産 種雌豚20頭	—	・茨城県立下妻第一高等学校 卒業
昭和58年	養豚経営	種豚生産・肉豚生産 種雌豚80頭	—	・茨城県立農業大学校 卒業 ・家業である養豚業に就農
平成2年	養豚経営	種豚生産・肉豚生産 種雌豚100頭	—	・茨城県青年農業士 認定
平成20年	養豚経営	種豚生産・肉豚生産 種雌豚200頭	—	
平成21年5月	養豚経営	種豚生産・肉豚生産 種雌豚200頭	—	・倉持ピッグファウム(株) 設立
平成26年	養豚経営	種豚生産・肉豚生産 種雌豚200頭	—	・6次産業化総合化計画 認定
平成28年4月	養豚経営	種豚生産・肉豚生産・加工販売 種雌豚200頭	—	・食肉加工・直売所 「ぶうーぶー～豚職人工房～」開業

(表2) 経営実績 (令和3年度)

経営の概要	労働力員数 (畜産・2000hr換算)		家族構成員	2.0人		
			従業員	3.0人		
	種雌豚平均飼養頭数		200.0頭			
	肥育豚平均飼養頭数		1,983.0頭			
	年間子豚出荷頭数		0頭			
	年間肉豚出荷頭数		4,400頭			
収益性	所得率		5.2%			
	種雌豚1頭当たり生産費用		1,253,267円			
生産性	繁殖	種雌豚1頭当たり年間平均分娩回数		2.30回		
		1腹当たり分娩子豚頭数		10.0頭		
		種雌豚1頭当たり年間分娩子豚頭数		23.0頭		
		1腹当たり哺乳開始子豚頭数		9.5頭		
		種雌豚1頭当たり年間哺乳開始子豚頭数		21.8頭		
		1腹当たり離乳子豚頭数		9.0頭		
		種雌豚1頭当たり年間離乳子豚頭数		20.7頭		
		種雌豚1頭当たり年間出荷頭数(肉豚)		20.5頭		
		肥育豚事故率(離乳時からの事故率)		4.3%		
		肥育開始時	日齢	70.0日		
			体重	30.0kg		
		肉豚出荷時	日齢	180日		
			体重	118.0kg		
		平均肥育日数		110.0日		
		出荷肉豚1頭1日当たり増体重		0.800kg		
		トータル飼料要求率		—		
		肥育豚飼料要求率		—		
		枝肉重量		78.0kg		
		販売価格	肉豚1頭当たり平均価格		—円	
			枝肉1kg当たり平均価格		—円	
		枝肉規格「上」以上適合率		45.0%		

悪臭・ハエ等の対策に取り組み、「住農混在化」の進んだ地域の市民生活に配慮した畜産経営の確立を目指している。

経営管理・生産技術の特色

親子三代に渡り養豚業を行っている。先代は種豚生産を行い、全日本豚共進会に3期連続で入賞を果たす成績を残している。現在、代表取締役の2代目倉持勝^{まさる}さんは、一貫経営へと経営を転換すると共に、規模拡大を行ってきた。3代目は長男(朝成^{ともあき}さん)が農場長として生産部門を担当し、次男(暁成^{としあき}さん)は店長として加工・販売部門を担当している。

現在、生産農場は勝さん、長男を含め5名で管理、加工・直売所は勝さん、次男とパート10名含めた16名で運営を行っている。

勝さんは先代の種豚生産から一貫経営へ転換の際の畜舎改築については、資金調達がままならない中でのスタートであったため、基礎工事などは自身で行うなどし、経費削減に取り組みつづけた。また、その後の規模拡大においては、資金計画をしっかりと立てたのち、少しずつ規模拡大を行ってきた。

加工・直売所建設にあたっては、当初計画していた1/2の補助事業が大幅に変更され3割補助になったが、整備予定だった加工機



(写真2) 食肉加工・直売所



(写真3) 精肉



(写真4) ハム



(写真5) ソーセージ



(写真6) 総菜

械等を見直す経費削減に取組みつつも、「お客さんのおいしい笑顔がみたいから」の信念の基、前進あるのみと自己負担増となっても完成させた。

【経営改善のための努力】

種豚生産のみでの経営に対する不安から一貫経営に経営を転換し、また、海外依存度の高い配合飼料の価格高騰に対する不安から飼料用米の使用を開始した。そして、季節的変動の大きな市場価格頼みの肉豚販売だけで、

会社を運営できるかの不安から、会社全体の売上高に対する飼料代の比率を低減させるため加工・販売部門を設置した。

【地域・関係者と連携した経営改善の取組み】

平成26年に6次産業化総合化事業計画の認定を受け、平成27年に6次産業化ネットワーク活動事業を活用し、平成28年4月に食肉加工・直売所「ぶうーぶー～豚職人工房～」を開業した。

豚肉加工品は、下妻市のふるさと納税返礼



(写真7) ストール舎



(写真8) 分娩房



(写真9) 肥育豚

品としても活用されると共に、地元企業との連携も積極的に行っている。自社銘柄豚「伝説の下妻金豚」を使用したカレーパンを地元のパン屋さんが販売、地元酒造店の大吟醸の酒粕を使用したコラボ商品を開発するなど精力的な活動を行っている。

現在、農場HACCP認証を取得すべく、動物医薬品メーカーの農場HACCP指導員、畜産協会の指導員と共にHACCP会議を月1回のペースで開催し、構築に取り組んでいる。

【販売戦略】

直売所では、自社生産の肉豚の約2割を販売している。無駄なく全ての部位を販売するために、精肉で販売しにくい部位はベーコンやソーセージ等の加工品や総菜で使用している。常時50種類以上の商品が店頭で並んでいる。

新型コロナウイルス感染拡大の影響による緊急事態宣言や外出の自粛など、直売所のみでの売上げ減少に対応すべく、ECサイトによるネット販売も開始した。某有名サイトにおいて部門売上No. 1になったこともある。コロナの影響は大分落ち着き、来店者数も回復基調となるも、ネット販売においてもリピーターが付き、開店当時の3倍程度の売上げが毎月確保できるようになっている。引き続き、ネット販売にも力をいれるため、配送会社とも価格交渉等を行い配送料の低減に努

めている。

【先進機器の導入】

豚が快適に過ごせるように豚舎内の環境を管理している。

設定された温度より気温が上下すると自動で開閉する自動カーテンと、インバータ制御の換気ファンによる換気で舎内温度を、タイマー運転及びミスト装置で舎内湿度を管理している。

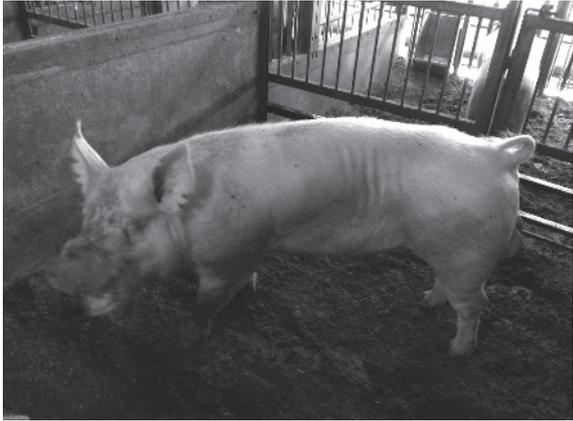
農場内における全ての機械、部品については常に交換、修理用をストックしている。農場において、災害や機械の突然の故障により農場運営に支障が出ないように、その際の対処法として、いつ、何があっても、常に対応できるよう準備してある。非常用電源も農場に2台（25Kva、10kva）、加工・販売所にも1台（50kva）設置してある。

【高品質化】

消費者に好まれる肉質・味を持った肉豚を生産するために、自ら種豚の育種改良を行っている。

健康な子豚に育てるために、幼豚期の飼料に独自のプレミックスを給与し、体調管理を徹底し、生後70日以降に動物性飼料は一切与えず、米を中心とした植物性飼料を給与している。

飼料用米の利用は積極的で、40%の飼料用



(写真10) 大ヨークシャー雄

米が配合されている肥育用飼料に、自身が購入している飼料用米を製粉し、上乘せで添加している。都合、50%以上の飼料用米が配合された飼料が仕上げ期に使用されている。

肉豚は、自社銘柄豚「伝説の下妻金豚」として、出荷先の東京食肉市場においても高く評価されている。

地域に対する貢献

【畜産環境対策】

生産農場は繁殖を中心とした第1農場と、肥育を中心とした第2農場がある。

第1農場で排出される家畜排せつ物は、固形物、液状物それぞれ1次処理し、その後第2農場の家畜排せつ物と1次処理した第1農場の排せつ物を合わせて、固形分については縦型コンポスト2台でたい肥処理している。



(写真12) 縦型コンポスト



(写真11) 飼料用米

生産されたい肥はダンプによるバラ販売と、袋詰め（15kg/袋）により販売を行なっている。液状物については浄化処理施設を用いて処理し、浄化処理した液状物は河川放流している。放流する処理水は毎月、水質検査を実施し、国土交通省へ報告している。

常に予備・余裕をもって経営を行うスタンスは、家畜排せつ物の処理も同様であり、製品たい肥をストックするたい肥舎も常に余裕がある状態となるよう設置されている。

【耕畜連携等の地域産業への貢献】

農場で生産されるたい肥のほとんどは、袋詰めし、農場の一面に設置されている無人販売所で販売している。時期によっては、軽トラックで行列が出来るほどで、近隣の耕種農家、家庭菜園で利用されており、地域の耕畜連携に貢献している。



(写真13) 製品たい肥



(写真14) たい肥販売所



(写真15) たい肥販売所の待ち行列

女性の活躍・働きやすい 職場環境づくりの取組み

【女性の活躍】

農場で1名、直売所で1名の女性従業員と10名のパートを雇用。農場、直売所それぞれで就業規則が整備されている。

農場の女性従業員は繁殖分娩部門の主要な業務を任されている。また、農場HACCP構築のチーム員としても活躍中である。直売所の女性従業員はレジでの接客のほか、加工品の製造、商品・備品の在庫管理から顧客データ管理業務を行っている。

今後は役職へ登用するなどを検討している。

【働きやすい職場づくりの取組み】

農場では、女性専用の更衣室・休憩室・トイレを設置している。

将来の方向

【次世代への継承】

長男の担当する生産農場、次男の担当する加工・直売所においてそれぞれが一人前の仕事ができる様、職場環境を整備し、次世代への継承がスムーズに行われるよう三人四脚で会社を運営していく。

【今後の経営計画】

販売店舗2号店の出店計画がある。常に良い豚肉を選抜・加工し、直売所で使用するためには、もう少し生産農場の拡大が必要で、種雌豚300頭までに規模拡大することも検討中である。しかし、現在の、飼料高、資材高の状況では実行する時期ではないと判断しており、農場成績の向上や直売所での売上げ向上に向けて、今できることをしっかり行い、将来への準備期間として経営を行う計画である。

ゼロから創めて40年、 10億円肉用鶏への挑戦

—地域の飼料用米を活用したブランド「やまがた最上どり」の確立に向けて—

農業生産法人株式会社アイオイ(肉用鶏経営・山形県鮭川村)



(写真1)
従業員集合写真(前列右から6番目 経営主の五十嵐忠一さん、右から5番目 妻のまゆみさん)

地域の概要

農業生産法人(株)アイオイは、山形県北東部の最上地域の鮭川村に位置している。鮭川村は県内でも豪雪地帯で、村の中心部を清流「鮭川」が流れている。農業は、キノコ栽培が盛んな産地で、畜産農家は4戸で、肉用牛、養豚、採卵鶏、肉用鶏、各1戸となっている。

経営・活動の推移

【ブロイラーにゼロから挑戦】

～「水稻専業+出稼ぎ」から「肉用鶏の周年農業」へ～

農業高校卒業後、昭和49年に水稻4haの専業農家の後継者として就農した。しかし、冬季期間は出稼ぎに行く生活であったため、なんとか周年農業が出来ないかと考え、収益性が高いブロイラーに興味を持ち挑戦することにした。しかし、地域には、ブロイラーの生産者はいなかったため、県外のブロイラー

農家で研修を行い、昭和54年に融資により飼育羽数24千羽規模の「観音寺ファーム」を設立し、ブロイラー経営を開始した。

【法人の設立】～10億円農業を目指して～

本県には、村山地域に「山形牛」、置賜地域には「米沢牛」、庄内地域に銘柄豚があるが、最上地域には代表する畜産物がないと思っていた。そこで肉用鶏を最上地域を代表する畜産物として育てていきたいと思った。

このため、更なる規模拡大と将来の加工への取組のため、資金調達や農地の取得、雇用の確保を進め、平成18年に法人化し、「農業生産法人株式会社アイオイ」を設立した。社名の「アイオイ(相生)」には、従業員や地域の人達と共に生きる、一緒に育つという意味が込められている。

(図1) 農業生産法人(株)アイオイのロゴマーク



(表1) 経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭(羽)数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和49年	稲作	水稲4.02ha		・農業高校卒業後18歳で就農(稲作専業、冬季出稼ぎ)
昭和52年	稲作	水稲4.02ha		・秋田県でブロイラー研修(3カ月間)
昭和54年	肉用鶏 稲作	ブロイラー24千羽 水稲4.02ha		・融資を活用し、観音寺ファーム(ウインドレス鶏舎4棟)建設
平成18年	肉用鶏 そば	ブロイラー24千羽 そば3.48ha		・農業生産法人株式会社アイオイを設立、認定農業者に認定
平成19年	肉用鶏 そば	ブロイラー60千羽 そば3.48ha		・融資で鶴ヶ平ファーム(ウインドレス鶏舎4棟)建設し、60千羽に規模拡大
平成24年	肉用鶏 そば	ブロイラー60千羽 そば3.48ha	飼料用米1戸 0.6ha 3t	・日本コップ会ブロイラーコンテスト優秀賞受賞(秋・冬) ・日本チャンキー協会「坪産肉量の部」で全国1位受賞
平成27年	肉用鶏 そば	ブロイラー132千羽 そば3.48ha	飼料用米9戸 25ha139t	・県単事業で三ノ平ファーム(ウインドレス鶏舎4棟)建設し、132千羽に規模拡大
平成28年	肉用鶏 そば	ブロイラー132千羽 そば3.48ha	飼料用米10戸 39ha235t	・国の畜産クラスター事業で飼料用米倉庫2棟を建設
平成29年	肉用鶏 そば	ブロイラー150千羽 そば3.48ha	飼料用米20戸 56ha336t	・畜産クラスター事業で三ノ平ファーム(ウインドレス鶏舎1棟)建設し、150千羽に規模拡大 ・日本チャンキー協会「坪産肉量の部」で全国1位受賞
平成30年	肉用鶏 そば	ブロイラー150千羽 そば3.48ha	飼料用米35戸 3団体83ha501t	・山形県ベストアグリ賞受賞(農林水産大臣賞) ・ブロイラーで全国初の農場HACCP認証
平成31年・ 令和元年	肉用鶏 そば	ブロイラー290千羽 そば3.48ha	飼料用米32戸 3団体84ha505t	・食品加工販売(委託製造)開始 ・畜産クラスター事業で新鶴ヶ平ファーム(ウインドレス鶏舎10棟)建設し、290千羽に規模拡大 ・第58回農林水産祭参加行事で日本農林漁業振興会長賞受賞
令和2年	肉用鶏 そば	ブロイラー290千羽 そば3.48ha	飼料用米34戸 3団体5農協 640ha1,729t	・畜産クラスター事業で食品加工施設整備 ・飼料用米とビーナッツのブロイラーに対する飼料給与技術で特許出願
令和3年	肉用鶏 そば	ブロイラー290千羽 そば3.48ha	飼料用米45戸 5団体6農協 722ha4,031t	・第4回飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテストで農林水産省政策統括 ・直営店「やきとり・からあげ米っこ最上」開店(鮭川村)、キッチンカー1台導入
令和4年	肉用鶏 そば	ブロイラー290千羽 そば3.48ha	飼料用米(計画) 50戸5団体 6農協 800ha4,500t	・「最上どり」商標登録 ・融資で鶴ヶ平ファームに飼料用米低温倉庫1棟整備 ・直営店「やきとり・からあげ米っこ最上」2号店開店(酒田市) ・JGAP認証

当面、10億円農業を目指して、平成19年以降、計画的に融資、県単事業及び国の畜産クラスター事業により4回の規模拡大を行い、新たに3つのファームを整備し、合計4ファーム・23棟、常時飼育290千羽、年間出荷1,700千羽となり、県内で最大、東北でトップクラスのブロイラー規模となった。

経営管理・生産技術の特徴

【生産技術の高い経営】

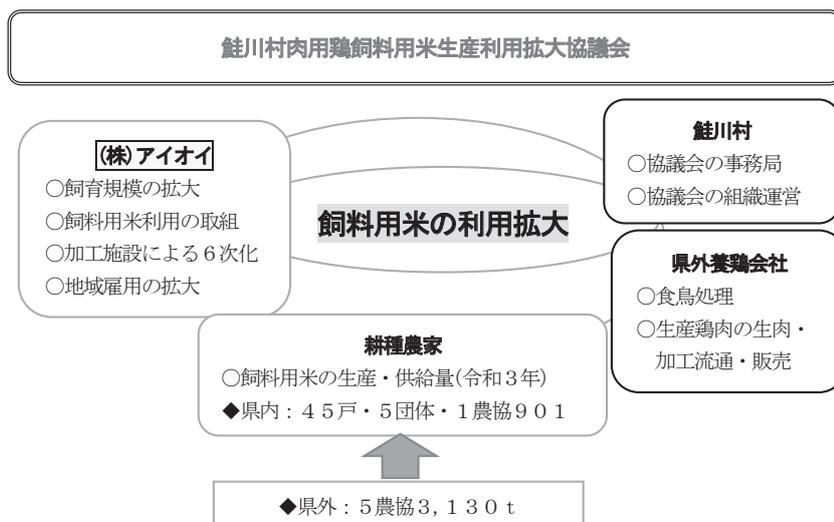
～全国トップクラスの技術レベルを実現～

生産技術は、出荷日齢49.2日、出荷回転率6回、平均出荷体重3kg、飼料要求率1.77、育成率98.2%となっている。日本チャンキー協会で、毎年実施しているコンテストにおいて、平成24年、29年に「坪産肉量の部」で2度の全国1位を受賞しており、生産技術では全国トップクラスである。

(表2) 経営実績

経営の概要	労働力員数 (畜産・2000hr換算)	家族・構成員	2.4人
		雇用・従業員	30.5人
	肉用鶏平均飼養羽数		289,397羽
	肉用鶏年間飼付羽数		1,715,650羽
	肉用鶏年間出荷羽数		1,685,195羽
収益性	所得率		9.0%
	肉用鶏100羽当たり生産費用		42,140円
生産性	出荷回転率		6.0回
	平均飼育日数		49.2日
	平均休室日数		10.8日
	平均出荷日齢		49.2日
	肉用鶏出荷100羽当たり出荷時体重		299.8kg
	肉用鶏出荷100羽当たり年間鶏肉生産量		149.9kg
	育成率		98.2%
	飼料要求率		1.77
	生体1kg当たり販売価格		179.7円
	鶏舎1m ² 当たり年間出荷羽数		110.4羽
肉用鶏出荷100羽当たり投下労働時間		1.60時間	

(図2) 鮭川村肉用鶏飼料用米生産利用拡大協議会の構成



【飼料用米の利用の取組み】

～地域資源を活用した安全安心な鶏肉生産～

地域資源である飼料用米を活用し、安全・安心な地域ブランドの鶏肉を生産したいという思いから取組みを開始した。飼料用米の安定確保を図るため、平成28年に耕種農家と関係機関・団体からなる「鮭川村肉用鶏飼料用米生産利用拡大協議会」を設立した。現在、飼料用米の生産は、地元の鮭川村を含め12市町村・45戸・5団体・1農協に加え、県外の5農協から協力してもらっており、令和3年には4,031 t（玄米換算）を確保している。

(表3) 飼料用米の生産面積及び生産量の推移

年次	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	H31・ R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (計画)
農家・ 団体・ 農協数	10戸	20戸	36戸・ 3団体	32戸・ 3団体	34戸・ 3団体・ 5農協	45戸・ 5団体・ 6農協	50戸・ 5団体・ 6農協
面積※	39ha	56ha	83ha	84ha	307ha	722ha	800ha
生産量	235 t	336 t	499 t	505 t	1,729 t	4,031 t	4,500 t

※：推定面積

【自社生産のプロイラーのブランド化】

～「やまがた最上どり」の商標登録～

地名の「最上（もがみ）」と掛け合わせて「最上（さいじょう）=NO1」のプロイラー生産を目指したいとの思いを込めて、「やまがた最

上（もがみ）どり」というブランド名とし、令和4年1月に商標登録した。「やまがた最上どり」の認証基準は、『飼料用米を3週齢以降に50%以上給与したもの』とし、現在、全てを「やまがた最上どり」として出荷している。

【安全安心な鶏肉の高品質化】

～農場HACCP・JGAP手法による高品質生産の取組～

平成30年に農場HACCP認証を全国で初めてプロイラーで取得し、また、令和4年にJGAP認証を取得し、その手法に即した衛生管理の徹底と防疫体制の強化及び疾病予防に万全の対策を行い、安全・安心に拘った生産・販売に努めている。また、JGAPの取組やチェックリストの活用を通じてアニマルウェルフェアを推進している。

また、給与飼料を見直し、ハーブ添加の配合飼料に飼料用米及びピーナッツ（食味向上効果：山形大学農学部共同研究令和2年特許

(図3) やまがた最上どりの登録商標





(写真2) 加工施設 (右) 及び直営店1号店 (左)



(写真3) キッチンカーでの販売状況

申請中) を混合し、臭みがなく、歯ごたえがあり、遊離アミノ酸が多く味にコクとうま味がある高品質の鶏肉に仕上げている。

【6次産業化の取組み】

～やまがた最上どりの付加価値化販売～

平成30年から「やまがた最上どり」を原料とした加工品の委託製造を行い、6次産業への取組みを始めた。令和2年に食品加工施設を整備し、自社製の焼き鳥用の串刺し肉の製造や精肉加工を行っている。また、消費者に直接販売するため、令和2年に直営店1号店をオープンし、令和3年にキッチンカーを導入した。令和4年には観光名所の酒田港に直営店2号店をオープンし、さらに、県内各地の道の駅や産直施設等において販売している。

食品加工施設では、需要に基づいた製造を開始したが、新型コロナウイルス感染症の影響で計画どおりの販売ができない状況になった。このため、営業部門を強化し、農場 HACCP・JGAP認証で飼料用米50%給与の「やまがた最上どり」という特長を活かし、県内外の精肉店、スーパーやホテル及び飲食店での販売、自社を含め6カ所のネット販売を開設し、販売のチャンネルの拡大を図り、直接販売の割合を高めている。

【配合飼料価格高騰への対応】

～地域資源利用による飼料費の更なる削減～

飼料用米の確保量は、4,000 t の用途がついたことから、令和4年から混合割合を1週



(写真4) やまがた最上どりの加工品 (一部)

齢10%、2週齢20%、3週齢以降は50%にして給与を実施している。また、県内の菓子メーカーの工場で廃棄されていたピーナッツに注目し、3週齢以降はピーナッツの混合割合を2%とし飼料費の削減を行っている。

令和5年からは、3週齢以降の混合割合を飼料用米は60%、ピーナッツは2.5%に高める予定にしており、配合飼料のみに比べ、飼料費の削減率は41.7%、飼料自給率は48.8%、ME自給率は49.3%に大幅に高まると試算され、更なる配合飼料価格の高騰対策も計画している。

(表4) 飼料用米等の利用による飼料及びME自給率、飼料コスト削減の推移

区 分		H30	R元	R 2	R 3	R 4 (実施中)	R 5 (計画)	
配合飼料のみ	飼料価格	100	100	100	100	100	100	
	ME量	100	100	100	100	100	100	
飼料用米 + ピーナッツ	飼料価格	93.3	96.9	93.9	80.8	64.1	58.3	
	飼料自給率	10.9	5.1	12.7	29.0	41.2	48.8	
	ME自給率	11.2	5.2	13.0	29.6	41.6	49.3	
混合割合	飼料用米	1週齢				10.0	10.0	
		2週齢			4.0		20.0	20.0
		3週齢以降	20.7	11.8	23.2	40.0	50.0	60.0
	ピーナッツ	3週齢以降					2.0	2.5

注：配合飼料価格は、令和4年10月時点の価格で試算

【飼育管理の省力化】

～肉用鶏出荷100羽当たり労働時間1.6時間を実現～

全自動ウインドレス鶏舎で、鶏舎内外に無人カメラを設置し、その画像を事務所でモニターやスマホで鶏舎内の鶏の状況をリアルタイムに確認することができる。これにより飼育環境の調節や鶏の異常の早期発見などで省力管理を実現している。

また、飼料製造、飼料給餌、たい肥製造・袋詰め及び出荷後の洗浄・消毒等の機械化を推進し、労働の省力化と負担軽減を図っている。農場HACCP及びJGAPの取組みにより、業務が見える化され、職員の意識が変化し、作業効率が向上した。肉用鶏出荷100羽当たりの労働時間は、1.60時間と大幅な短縮になった。



(写真5) 鶏舎内の監視モニター

(表5) 肉用鶏飼育管理等の労働時間の推移

項目	H30	H31・R元	R2
従業員数(2000時間換算)(人)	9.0	14.2	13.5
鶏舎数(面積)(棟/m ²)	13(8,250)	23(15,899)	23(15,899)
肉用鶏100羽当たり労働時間(h)	2.06	1.70	1.60
従業員1人当たり	管理羽数(羽)	16568.3	20342.9
	管理鶏舎数(棟)	1.44	1.62
農場HACCP等の認証取得状況	農場HACCP認証		JGAP指導員資格

【環境保全の取組み】

～畜産のイメージアップの取組～

「畜産をやっているように見えない畜産業を」との想いから臭いがほとんどなく、施設周辺を清掃し、大型鉢花飾りなどを行い、畜

産のイメージアップの取組みを行っている。

鶏糞を燃料にした鶏糞温水ボイラーを床暖房に活用し、鶏舎内の生糞を適度に乾燥することにより、鶏舎内の環境改善及び臭気対策にもなっている。また、燃料にした鶏糞の焼却灰は、リン酸・加里肥料として飼料用米を生産している耕種農家に利用してもらうほか、県内の水稲、果樹及び野菜農家等の特殊肥料として販売している。

【持続可能な経営の取組み】

～SDGsの推進～

持続可能な経営を目指し、SDGsの開発目標9項目の取組を行っており、取組みを内外に明確に示すため、「SDGs取組み宣言書」を社内に掲示している。

地域貢献

【耕畜連携による地域農業への貢献】

～循環型農業の実践～

地域の耕種農家と連携し、県内の45戸・5団体1農協から901tの飼料用米の供給を受け水田農業の活性化に貢献するとともに、鶏糞の焼却灰を特殊肥料として飼料用米生産農家に供給して耕畜連携及び循環型農業を実践している。

(図4) 耕畜連携図



【地域経済への貢献】

～地域の関係業者と連携し、共に発展～

飼料用米生産をしている県内耕種農家・団体・農協、その他食品製造会社、加工品材料の供給業者、加工製造委託業者などと連携し、共にWIN - WINとなる関係を構築し、水田農業や地域経済の発展に貢献している。

【地域の雇用への貢献】～地域雇用80人を計画～

当社の従業員の雇用割合は、最上地域94%のうち地元の鮭川村が42%で、また、出荷作業の臨時雇用人数延べ690人のほとんどが最上地域の住民で、令和4年に雇用80人を目指し地域の雇用創出に貢献している。

女性の活躍・働きやすい 職場環境づくりの取組

【女性の活躍】～会社の成長を支える～

会社の従業員は7割が女性で、ほとんどが事務及び加工部門に所属しており、事務担当者は、事業計画、補助事業、農場HACCP・JGAP、ネット販売を含めた営業などを担当し会社の成長を支えている。加工担当者は、女性ならではのアイデアを活かして商品化や、直営店等の対面販売での料理法の紹介などが喜ばれ、売上げの増加にもつながっている。

【働きやすい職場づくりの取組み】

～モチベーションを高める職場環境づくり～

全自動ウインドレス鶏舎でモニター管理や管理作業を機械化により労働の省力化及び軽労化を推進し働きやすい職場環境に努めている。また、女性従業員が多い事務及び加工部門では、標準勤務時間8時間を7.5時間とし、パートタイムの人は希望に応じて2.5～7.5時間から選択できるようにし、働きやすい環境づくりをしている。

将来の方向性

【次世代への継承及び今後の経営計画】

～更に規模拡大・食鳥処理施設を整備～

後継者の長男は、現在、会社経営の勉強のため、中小企業を支援する団体に勤務し、外部から勉強しているところである。現在計画している規模拡大と食鳥処理場の整備する段階で、経営に参加する予定にしている。

規模拡大に伴い、必要となる雇用や飼料用米の確保、また、更に自給率の向上を図るため、新たに未利用大豆及び子実用トウモロコシの利用を予定している。今後とも、地域に支えられて誕生した「やまがた最上どり」のつながりを通じて、地域貢献や地域に愛される持続可能な経営を進めながら最上地域を代表する肉用鶏産地を目指し、頑張っていきたいと考えている。



これまでの受賞事例（昭和61年度～令和3年度）

※昭和61年度～平成5年度までは「全国優良畜産経営技術発表会」として開催。

平成6年度以降は「全国優良畜産経営管理技術発表会」として開催。

【昭和61年度】

開催期日：昭和61年7月28日

開催場所：東京都千代田区一番町 全国町村議員会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	花岡 信重	香川県仲多度郡琴平町	肉用牛	肥育経営の精密経営を目指して
優秀賞	和田八十三	長野県諏訪郡富士見町	酪農	我が家の経営改善と地域の酪農発展を目指して
	入沢 三郎	岡山県真庭郡八束村	酪農	ジャージー牛にかけるわが家の酪農経営
	上田 快晴	高知県高岡郡窪川町	肉用牛	野シバ草地による繁殖牛経営
	山下 正人	長崎県南松浦郡三井楽町	肉用牛	肉用牛専業経営を旨として
	坂上 光芳	新潟県岩船群神林村	養豚	低豚価時代に対応する私の養豚経営の取り組み
	石田 勝彦	広島県広島市	養豚	父から引き継いだ私の養豚経営
	多田 菊久	京都府宇治市	養鶏	都市近郊における私の採卵養鶏経営の歩み

【昭和62年度】

開催期日：昭和62年7月21日

開催場所：東京都千代田区九段南 九段会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	矢田 栄蔵	島根県出雲市	肉用牛	未利用資源活用による肉用牛繁殖経営の確立（蚕糞、蚕渣、残桑）
優秀賞	渡辺 暁	岩手県胆沢郡金ヶ崎町	酪農	低コスト健全酪農の実践
	木口 源己	大分県大野郡野津町	酪農	低コスト生産を目指した私の酪農
	上路 光男	青森県下北郡東通村	肉用牛	林間放牧による肉用牛の低コスト生産
	山城 善彦	沖縄県国頭郡伊江村	肉用牛	私の肉用牛繁殖経営
	納田 伸春	徳島県板野郡上板町	養豚	養豚経営と地域のコミュニケーション
	末吉 広美	鹿児島県鹿屋市	養豚	養豚一貫経営の安定を目指して
	北川 富蔵	滋賀県神崎郡五個荘町	養鶏	簿記記帳を生かした養鶏経営について

※ 矢田 栄蔵氏は第26回農林水産祭日本農林漁業振興会長賞（畜産部門）を受賞。

〔昭和63年度〕

開催期日：昭和63年6月30日

開催場所：東京都千代田区二番町 番町グリーンパレス

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	宮良 當成	沖縄県八重山郡竹富町	肉用牛	離島における低コスト生産をめざした私の肉用牛経営
優秀賞	工藤 一幸	青森県東津軽郡平内町	酪農	苦悩15年、そして明日へ（良質粗飼料生産に伴うコスト低減）
	大平賢一郎	新潟県南魚沼郡六日町	酪農	安定した酪農経営をめざして
	伊藤 幸	宮城県桃生郡桃生町	肉用牛	地域とともに歩む和牛繁殖経営
	若山 巖	岐阜県高山市	肉用牛	私の和牛繁殖経営
	荒牧 弘幸	熊本県阿蘇郡高森町	肉用牛	試練から立直り肉用牛一貫経営（地域・経営内）への挑戦
	小林 秀雄	群馬県前橋市	養豚	基本に忠実な我が家の養豚経営
	中西 嘉幸	和歌山県有田郡広川町	養鶏	グループ活動と私のプロイラー経営

※ 宮良 當成氏は第27回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞。

〔平成元年度〕

開催期日：平成元年7月12日

開催場所：東京都千代田区九段南 九段会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	鈴木 孝則	宮崎県児湯郡新富町	肉用牛	肉用牛の専業農家をめざして
優秀賞	南 雄司	群馬県渋川市	酪農	経営向上を目指す乳肉複合
	伊東 誠一	大分県宇佐郡安心院町	酪農	兄弟で築くゆとりある酪農経営をめざして
	富田 重正	滋賀県東浅井郡浅井町	肉用牛	低コスト生産による収益性の向上
	植田 光隆	兵庫県美方郡温泉町	肉用牛	低コストを目指した肉用牛経営に取り組んで
	野尻 健一	熊本県阿蘇郡高森町	肉用牛	肉用牛の共同放牧と投資抑制による低コスト生産への挑戦
	昆野 雅敏	岩手県北上市	養豚	種雌豚1頭当たり肉豚出荷24頭をめざして
	木村 勝芳	奈良県北葛城郡當麻町	養鶏	一代できずいた採卵養鶏経営

※ 鈴木 孝則氏は第28回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞。

〔平成2年度〕

開催期日：平成2年6月29日

開催場所：東京都千代田区永田町 全国町村会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	明見孝一郎	香川県綾歌郡飯山町	肉用牛	合理的な肉用牛肥育経営を目指して
優秀賞	佐久間貴弓	千葉県君津市	酪農	低コストによる経営の安定を目指して
	高野 守康	群馬県佐波郡東村	酪農	堅実な向上を目指す酪農経営
	星 正喜	宮城県登米郡迫町	肉用牛	肉用牛一貫経営の確立をめざして
	原田 道明	宮崎県西諸県郡高原町	肉用牛	粗飼料完全自給の肉用牛専業経営実現を目指して
	森本 芳雄	滋賀県蒲生郡安土町	養豚	精密養豚に取り組んで25年
	中村 正則	岩手県上閉伊郡宮守村	養鶏	開放鶏舎による山間寒冷地帯のプロイラー生産
	小林 倉雄	神奈川県津久井郡城山町	養鶏	私の鉄分強化「もみじ卵」の生産販売について

※ 明見 孝一郎氏は第29回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞。

〔平成3年度〕

開催期日：平成3年7月3日
開催場所：東京都千代田区麹町 麹町会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	川村 千里	島根県大田市	肉用牛	自由化に打ち勝つための「川村家の戦略」－牛に学びながら－
優秀賞	泰藤 孝次	広島県賀茂郡福富町	酪農	飼料作物の共同生産による安定経営をめざして
	山下 英雄	熊本県菊池郡七城町	酪農	魅力ある酪農経営をめざして
	小松 久平	秋田県由利郡鳥海町	肉用牛	肉用牛一貫経営の定着・安定をめざし奮闘
	中西垣富夫	兵庫県豊岡市	肉用牛	ゆとりある農業を目指して
	阿部 茂昭	山形県酒田市	養豚	ゆとりある養豚経営を目指して
	上原 章男	埼玉県秩父市	養豚	魅力の農家養豚を継承して
講殿 城明	滋賀県高島郡安曇川町	養鶏	消費者ニーズを重視した私の養鶏経営	

※ 川村 千里氏は第30回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞。

〔平成4年度〕

開催期日：平成4年7月1日
開催場所：東京都港区赤坂 三会堂ビル

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	平岡 平一	石川県加賀市	養鶏	アイデアを生かした堅実な養鶏経営
優秀賞	田中 久一	青森県東津軽郡平内町	酪農	酪農生産技術の向上と経営安定に取り組んで－牛群検定成績を利用して－
	森島 定彦	岐阜県海津郡平田町	酪農	河川敷草地を有効活用した酪農経営
	藤原 隆博	香川県観音寺市	肉用牛	一貫肥育経営で肉質向上をめざして
	甲斐 知博	大分県大野郡野津町	肉用牛	肉用牛の繁殖專業経営にかける
	平沢 良治	茨城県結城市	養豚	規模拡大による養豚経営の安定を目指して
	斉藤 春敏	新潟県西蒲原郡巻町	養豚	経営診断と共に歩む我家の経営
葉山 義高	奈良県香芝市	養鶏	産地直送による採卵経営	

※ 平岡 平一氏は第31回農林水産祭日本農林漁業振興会長賞（畜産部門）を受賞。

〔平成5年度〕

開催期日：平成5年7月6日
開催場所：東京都千代田区九段南 九段会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	万庭 正勝	岡山県真庭郡八束村	酪農	ジャージーに夫婦の夢とゆとりを求めて－脱サラ、33歳からの出発－
優秀賞	小関 徳男	宮城県柴田郡川崎町	酪農	魅力ある「楽農」を目指して！
	内田 清文	三重県三重郡菰野町	酪農	草作りで酪農経営の安定を目指して
	松田 典房	熊本県菊池郡合志町	酪農	激動期を勝ち抜く－一貫した堅実酪農経営を通して－
	藪内千恵子	兵庫県洲本市	肉用牛	繁殖和牛にロマンを託した女性の多頭経営
	山岡 正美	広島県高田郡美土里町	肉用牛	繁殖地域の中で取り組む肥育経営
	昆野 先男	岩手県北上市	養豚	手づくりハム・ソーセージ加工を取り入れた農家養豚経営－家族労働力主体による地場産品化への挑戦－
桜井富佐子	新潟県北魚沼郡広神村	養豚	養豚後継者の道を選んで	

〔平成6年度〕

開催期日：平成6年7月6日

開催場所：東京都千代田区九段南 九段会館

(大家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	河合 将夫	岐阜県武儀郡上之保村	肉用牛	肉用牛一貫経営の定着、安定を目指して
優 秀 賞	瀧瀬 成喜	北海道野付郡別海町	酪 農	放牧新技術の導入による高収益経営の確立
	大上 浩也	広島県佐伯郡湯来町	酪 農	週休2日のゆうゆう酪農
	江藤 務	大分県宇佐郡安心院町	肉用牛	自由化の中「築きあげた夢の農業経営」を家族で守りぬくために

(中小家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	福元 和典	鹿児島県肝属郡高山町	養 豚	家族でささえるわが家の養豚経営
優 秀 賞	塩月 哲司	大分県南海部郡蒲江町	養 豚	ゆとりある養豚経営をめざして
	原 秀治	滋賀県彦根市	養 鶏	生産から販売まで地域密着型の経営
	笠原 勢一	徳島県名西郡神山町	養 鶏	山間傾斜地を利用したブロイラー専業経営の確立

※ 河合 将夫は第33回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞

〔平成7年度〕

開催期日：平成7年7月6日

開催場所：東京都目黒区大橋 こまばエミナース

(大家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	東 義秋	熊本県阿蘇郡西原村	肉用牛	農業は面白い！－あか牛で豊かな生活－
優 秀 賞	樋口 一彦	山形県西置賜郡白鷹町	酪 農	創意工夫、発想の転換で築いた酪農専業経営
	興 勝幸	鹿児島県熊毛郡中種子町	酪 農	寄らばいき（相互扶助の心）で支える酪農経営の展開
	志賀チヨ子	大分県直入郡久住町	肉用牛	豊かな地域資源を生かした低コスト子牛生産

(中小家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	影山 和夫	栃木県下都賀郡藤岡町	養 豚	低コスト化と省力化へのチャレンジ
優 秀 賞	佐々木章一	宮城県登米郡豊里町	養 豚	系統豚「ミヤギノ」利用をした銘柄化に取り組んで
	金城 栄	沖縄県浦添市	養 豚	飼育基本を忠実に守り高所得を目指す養豚経営
	山田 衛	滋賀県大津市	養 鶏	地域周辺の宅地化に適合した採卵経営

〔平成8年度〕

開催期日：平成8年7月3日

開催場所：東京都目黒区大橋 こまばエミナース

(大家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	小松 正幸	高知県香美郡野市町	酪 農	住宅化が進行する中での効率的酪農経営を目指して
優 秀 賞	吉沢 和幸	長野県南佐久郡南牧村	酪 農	開拓地にはばたく、酪農親子鷹（親子三代にわたる酪農経営）
	落合 雄二	広島県比婆郡高野町	肉用牛	地域に根ざした和牛繁殖経営
	和気 修	愛媛県東宇和郡野村町	肉用牛	国際化に対応できる肉用牛経営の確立をめざして

(中小家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	有限会社清水養鶏場 清水 茂	静岡県静岡市遠藤新田	養 鶏	ブランド卵『美黄卵』で2.5倍の売上げ－直売所を養鶏場の顔として－
優 秀 賞	立崎 明彦	青森県上北郡上北町	養 豚	夢はふくらむ－自立養豚を目指して20年－
	松沢 武弘	秋田県平鹿郡平鹿町	養 豚	地域農業と一体となって推める養豚複合経営
	村上 義満	高知県宿毛市橋上町	養 豚	生きのこりをかけての養豚経営

※ 有限会社清水養鶏場は第35回農林水産祭日本農林漁業振興会長賞（畜産部門）を受賞

〔平成9年度〕

開催期日：平成9年7月2日

開催場所：東京都目黒区大橋 こまばエミナース

(大家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	中島 薫	佐賀県武雄市	酪農	1万kgへの道のり
優秀賞	河又 潤	栃木県芳賀郡茂木町	酪農	改良に夢をのせて
	中曾 譲二	広島県三次市	肉用牛	脱サラを決め農畜産業へ
	黒木 誠	宮崎県児湯郡都農町	肉用牛	生産性を重視した低コスト肉用牛一貫経営

(中小家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	芦沢 益彦	山梨県南巨摩郡増穂町	養鶏	消費者と共に歩む採卵養鶏
優秀賞	高畑 孝市	石川県能美郡根上町	養豚	地域との調和をめざすわが経営
	佐藤 弘子	長野県飯山市	養豚	無我夢中で進んだ私の養豚経営－水害を乗り越えて－
	掛川銘柄豚振興協議会	静岡県掛川市	養豚	ひと味ちがったおいしさ自慢！銘柄豚「かけがわフレッシュポーク」

※ 大家畜部門最優秀賞 中島 薫 氏は平成10年度畜産大賞経営部門特別賞を受賞。

〔平成10年度〕

開催期日：平成10年9月25日

開催場所：東京都目黒区大橋 こまばエミナース

(大家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	島仲 治伸	沖縄県八重山郡竹富町	肉用牛	親から受け継いだ牛飼いの道－放牧による低コスト経営を目指して－
優秀賞	千葉 正勝	岩手県下閉伊郡岩泉町	酪農	草作り、牛作りで低コスト生産
	村田 信雄	富山県富山市	肉用牛	粗飼料自給率100%を達成している大型肉用牛肥育経営
	瓜生 貞之	福岡県嘉穂郡筑穂町	肉用牛	自給飼料利用による良質牛肉の生産

(中小家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	山口 一広	愛知県宝飯郡御津町	養豚	地域に融合した持続的養豚経営
優秀賞	山本 郁夫	群馬県吾妻郡中之条町	養豚	土壌菌を利用し、悪臭防止と良質堆肥の生産を図り、地域密着型養豚経営を目指す
	原 幸雄	滋賀県彦根市	養鶏	家族で築いた小規模企業型養鶏
	池端 武一	奈良県北葛城郡広陵町	養鶏	消費者との対面販売を主体に精密管理を実践した採卵鶏経営

※ 大家畜部門最優秀賞 嶋中 治伸 氏は第38回農林水産祭内閣総理大臣賞(畜産部門)、平成11年度畜産大賞経営部門最優秀賞を受賞。

〔平成11年度〕

開催期日：平成11年10月15日

開催場所：東京都千代田区九段南 九段会館

(大家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	前田 美雪	宮崎県都城市	肉用牛	女性でもやれる肉用牛繁殖100頭経営－合理的経営で若者の夢を実現－
優秀賞	柳沢 明義	長野県木曾郡木祖村	酪農	私の酪農人生－やればできる粗飼料100%の山間地酪農－
	川合 省吾	岡山県真庭郡八束村	酪農	自給飼料の高位生産利用による酪農安定経営の確立
	北崎 敏文	大分県豊後高田市	肉用牛	集落営農の中核的農家の肉用牛繁殖経営

(中小家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	七尾 久美	北海道広島市	養豚	ゆとりある生活をエンジョイする養豚経営
優秀賞	相馬 政春	新潟県新発田市	養豚	夫婦で築く精密養豚経営
	川満 一郎	沖縄県沖縄市	養豚	地道に築いてきた養豚経営
	清水 洋	大阪府茨木市	養鶏	小規模でも工夫次第－企画と実践で儲かる養鶏経営－

※ 大家畜部門最優秀賞 前田 美雪 氏は平成12年度畜産大賞経営部門優秀賞を受賞。

〔平成12年度〕

開催期日：平成12年10月13日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラル

(大家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	川名 正幸	千葉県館山市	酪農	循環型酪農をめざして —自給飼料生産基盤拡大、環境保全、計数管理のトータルマネージメント—
優秀賞	峯野 孝	静岡県引佐郡引佐町	肉用牛	牛を通じて人と自然の調和した経営を目指して —経営に携わる人々が畜産によって潤い、発展することを理想とする—
	湖上 吉隆	佐賀県杵島郡江北町	肉用牛	F1肥育で高品質牛肉生産がもたらす高所得・安定経営
	黒木 輝也	宮崎県西都市	肉用牛	“計り”と“パソコン”により、飛躍した肥育経営 —夫婦2人の経営努力の経緯—

(中小家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	北栄産業有限公司 市村 栄宗	石川県羽咋郡押水町	養鶏	衛生管理と生産性向上を追求する環境保全型養鶏
優秀賞	生越 利男	新潟県十日町市	養豚	夫婦で築く低コスト養豚経営
	有限会社協和養豚 黒敷 光廣	岡山県勝田郡奈義町	養豚	地域との連携による養豚繁殖・肥育一貫経営の安定化
	有限会社三田鶏園 三田 悌二	栃木県足利市	養鶏	嘘のないおいしい卵を生産（直売歴18年、売れる量だけ生産すること）

※ 大家畜部門最優秀賞 川名 正幸 氏は第40回農林水産祭日本農林漁業振興会長賞（畜産部門）、平成13年度畜産大賞経営部門優秀賞を受賞。

※ 中小家畜部門最優秀賞 北栄産業有限公司 市村栄宗 氏は第40回農林水産祭天皇杯（畜産部門）、平成13年度畜産大賞および経営部門最優秀賞を受賞。

〔平成13年度〕

開催期日：平成13年10月19日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラル

(大家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	小原 春美 美鈴	大分県速見郡山香町	酪農	三代続く本物の酪農経営
優秀賞	青木 雄治 佐知子	埼玉県大里郡妻沼町	酪農	「牛づくり、草づくり、土づくり」日本一の酪農経営を目指して
	山下 芳明 広子	鳥取県東伯郡大栄町	酪農	地域と共に歩む酪農経営
	池田 寛 富美子	岡山県津山市	肉用牛繁殖	水田基盤に立脚した肉用繁殖雌牛100頭規模経営の確立を目指して

(中小家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	有限会社島中育雛場 島中 兼雄	福岡県嘉穂郡穎田町	育雛採卵	経営を育雛から採卵・直売と多角化し、高付加価値商品の開発とインターネットなどを活用した販売の取り組み
優秀賞	農事組合法人三沢農場 山崎 伸	青森県三沢市	養豚	地元食肉処理センターを核としたセーフティポークの安定生産と流通をシステム化した大規模経営
	黒木 章夫	宮崎県日向市	養豚	生産技術の確立により高所得経営へ！～負債農家からの脱却～
	有限会社杉山養鶏場 杉山 哲朗	静岡県御殿場市	採卵鶏	親しまれて、こだわりの「小さなタマゴやさん」 —安全・安心・愛情一杯・もう一度行きたい店を目指した23年の軌跡—

※ 大家畜部門最優秀賞 小原 春美・美鈴 氏は第41回農林水産祭天皇杯（畜産部門）、平成14年度畜産大賞経営部門最優秀賞を受賞。

※ 中小家畜部門最優秀賞 有限会社島中育雛場 島中 兼雄氏は平成14年度畜産大賞経営部門優秀賞を受賞。

〔平成14年度〕

開催期日：平成14年11月18日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラル

(大家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	藤岡 数雄 藤岡 美江子	鹿児島県曽於郡大崎町	肉用牛繁殖	「低コスト化」追求で安定経営を築く子牛生産 ー楽しい牛飼い人生を息子たちにー
優秀賞	木戸 卓仁 木戸 和子	兵庫県宝塚市	酪農・肉用牛肥育	20年後も、酪農家であり続けるために ー地域ブランドに支えられ、都市近郊で展開する乳肉複合メガファームー
	奥野 吉雄 奥野 アキエ	宮崎県小林市	酪農	西南暖地に根付かせた堅実な酪農経営 ー自家育成の改良と自給粗飼料の確保ー
	白岩 修	愛媛県北宇和郡三間町	肉用牛肥育	家族経営を核とした地域一貫経営体制によるF1生産への挑戦

(中小家畜部門)

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	有限会社小林ファーム 小林 勝彦	三重県亀山市	養豚	消費者との交流と声が育てる養豚経営
優秀賞	長崎県開拓農協南部種豚改良組合「紅葉会」	長崎県西彼杵郡多良見町	養豚グループ活動	“雲仙うまか豚「紅葉」”小さな養豚集団が成し遂げた地場消費の拡大と銘柄定着
	農業生産法人黒富士農場 向山 茂徳	山梨県中巨摩郡敷島町	養鶏	消費者と環境保全を重視する採卵養鶏

※ 大家畜部門最優秀賞 藤岡 数雄・藤岡 美江子 氏は第42回農林水産祭天皇杯(畜産部門)、平成15年度畜産大賞経営部門最優秀賞を受賞。

〔平成15年度〕

開催期日：平成15年11月7日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラル

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	大矢根 督	北海道網走郡津別町	酪農	放牧等自給飼料の高度利用による高収益家族酪農経営 ー土づくり・草づくりを基本としたゆとりある中規模酪農経営ー
	長友 明 長友 真理子	宮崎県宮崎市	肉用牛繁殖	遊休地を活用し経営規模拡大を目指す都市近郊肉用牛経営 ー「頭と体を使うと肉用牛経営は儲かる」を夢にー
	有限会社 大窪養豚	鹿児島県肝属郡高山町	養豚	自信と責任もてるブランド「かごしま黒豚」の生産をめざして
	株式会社 地主共和商會	三重県多気郡勢和村	採卵鶏	常に新しい夢にチャレンジ ー若者に魅力のある自作農家になりたいと願ってー
優秀賞	山之内 浩一	新潟県北魚沼郡広神村	酪農	親子2代で築いた豪雪地域に根ざす安定酪農経営
	高橋 英雄 高橋 ナミ	大分県玖珠郡玖珠町	肉用牛繁殖	夢がかなった肉用牛繁殖経営 ー増頭の道しるべとなるー
	菅原 健一 菅原 宏子	新潟県村上市	肉用牛肥育	妻と二人で築いた「村上牛」と「岩船米」作りの複合農業
	桜井 富佐子	新潟県北魚沼郡広神村	養豚	名物かあちゃんと家族で築く低コスト養豚経営
	日野出畜産 有限会社	愛媛県八幡浜市	養豚	“こだわり”の豚肉生産を目指して
	有限会社 北群ファーム	群馬県利根郡新治村	採卵鶏	規模拡大を山間地に求め創意工夫で難局を克服
	森長 克忠 森長 真弓	徳島県名西郡神山町	肉用鶏	地域と調和した山間地域での養鶏経営
有限会社オコッペ フィードサービス	北海道紋別郡興部町	酪農グループ活動	生産現場の知恵と意志が家族経営の限界をやぶった ー有限会社オコッペフィードサービスの実践ー	

※ 大矢根 督 氏は第43回農林水産祭内閣総理大臣賞(畜産部門)を受賞。

※ 長友 明・長友 真理子 氏は第43回農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞(畜産部門)、平成16年度畜産大賞経営部門優秀賞を受賞。

〔平成16年度〕

開催期日：平成16年10月29日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラル

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	遠藤 昭男 遠藤 美智子	北海道標津郡中標津町	酪農	フリーストール方式の効率的な自給飼料活用によるゆとりある高収益経営
	石賀 博和 石賀 恵子	岡山県真庭郡川上村	肉用牛繁殖	地域資源を生かした低コスト肉用牛繁殖経営
	有限会社 大隅ポーク	鹿児島県曾於郡大隅町	養豚	高い生産性・収益性を生む養豚経営の実践
	有限会社 旭養鶏舎	鳥根県大田市	養鶏	採卵養鶏一途に35年 ーコスト削減より安心安全な鶏卵生産を目指してー
優秀賞	有限会社フジタファーム	新潟県西蒲原郡岩室村	酪農	耕畜連携による地域一体型農業の推進で食の安全と本物の味を消費者へ ～水田探索地域における酪農経営への展開方策～
	原澤 典雄 原澤かよ子	群馬県利根郡新治村	肉用牛繁殖	夏山・冬里方式の導入で「ゆとりある繁殖複合経営」の実現 ～放牧で得られた余剰労力を他部門に活かした和牛繁殖経営～
	手塚 正 手塚 優子	栃木県塩谷郡氏家町	肉用牛肥育	安心、安全な牛肉を低コストで消費者へ
	酒井 和昭 酒井 陽子	埼玉県大里郡岡部町	肉用牛肥育	兄弟で取り組む地域農業循環型肉用牛肥育経営
	村田 信雄 村田 秋美	富山県富山市	肉用牛肥育	大規模稲作との複合を目指す肉用牛経営
	有限会社ゲズント農場	北海道虻田郡豊浦町	養豚	ゲズント！---おいしさと安全への熱い思い 法人化、SPF化、そして、緻密な飼養管理と徹底した計数分析による、高位生産性と安定経営の実現、さらに、「ゲズント農場産SPFポーク」の実現
	横田 清廣 横田サチ子	長崎県南高来郡深江町	肉用鶏	家族経営によるゆとりある肉用鶏専門経営 ～家族経営協定でサラリーマンを超える所得の実現～
	はぐくみ農業協同組合 国府酪農部	群馬県群馬郡群馬町	組織 グループ活動	完全協業システムを取り入れた自給飼料生産と合理的な分配方式 ～地域に根づいた都市近郊畑作地帯の自給飼料給与型酪農の実践～

※ 石賀 博和・石賀 恵子 氏は第44回農林水産祭天皇杯(畜産部門)、平成17年度畜産大賞経営部門最優秀賞を受賞。

※ 遠藤 昭男・遠藤 美智子 氏は第44回農林水産祭内閣総理大臣賞(畜産部門)を受賞。

※ 有限会社 大隅ポーク は第44回農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞(畜産部門)、平成17年度畜産大賞経営部門優秀賞を受賞。

〔平成17年度〕

開催期日：平成17年10月20日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラル

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	柴田 輝男 柴田 誠子	秋田県由利本荘市	酪農	地域社会と調和しながら確立した草地形酪農
	佐藤 貢 佐藤 雪子	北海道沙流郡平取町	肉用牛一貫	自給飼料を最大限に生かし、省力管理によって黒毛和種の大規模一貫経営を確立した家族経営
	三留 武	神奈川県三浦郡葉山町	肉用牛肥育	資源循環型環境にやさしい高級牛肉生産！
	有限会社 横山養豚	神奈川県横浜市	養豚	都市と共存できる養豚経営の確立
優秀賞	農事組合法人 箬荷牧場	兵庫県多可郡加美町	酪農	農村活性の町、「加美町」の中心で“農業振興”をさげふ！！ ～地域農業の担い手のリーダーとして～
	有限会社 小野田牧場	愛媛県西予市	酪農	地域農業とともに歩む放牧を利用した酪農経営
	農業生産法人 有限会社 大海	沖縄県宮古島市	肉用牛繁殖	宮古地域の肉用牛振興を担う、先進的肉用牛繁殖経営
	漆間 平 漆間 マリ子	新潟県村上市	肉用牛肥育	和牛を肥育して32年・最愛の人にありがとう
	本宮 環 本宮 章加	愛媛県今治市	肉用牛肥育	地域と密着した肉用牛一貫経営の取り組み ～酪農家・耕種農家との連携～
	有限会社 ブラウンエッグファーム	長野県佐久市	採卵鶏	日本で一番笑顔にあふれるたまご屋をめざして
	山下 盛通 山下 恵美子	三重県松阪市	採卵鶏	地域と共に歩む養鶏経営
農事組合法人 尾鈴豚友会	宮崎県児湯郡川南町	養豚 グループ活動	飼料事業の共同化をバネに高生産性・安定経営に成長した尾鈴豚友会グループ	

※ 柴田 輝男・柴田 誠子 氏は第45回農林水産祭天皇杯(畜産部門)を受賞。

※ 佐藤 貢・佐藤 雪子 氏は第45回農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞(畜産部門)を受賞。

〔平成18年度〕

開催期日：平成18年11月2日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラル

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	佐藤 智好 佐藤 さくら	北海道足寄郡足寄町	酪農	多額負債からの脱却と「ゆとり」経営の確立
	田口 正一	新潟県長岡市	肉用牛肥育	借入金ゼロに向かって努力を続けてきた和牛肥育経営
	有限会社 中村牧場	佐賀県唐津市	肉用牛肥育	「佐賀牛」の低コスト生産プロジェクト
	有限会社 富田養鶏場	愛知県豊橋市	採卵鶏	One & Only のたまごを目指して －HACCPに基づいた生産・販売一貫システムの確立－
優秀賞	松原 久美 松原 たみえ	岩手県岩手郡雫石町	酪農	持続的酪農と6次産業化プランで高位安定経営を実現
	土屋 貴志	長野県上水内郡信濃町	酪農	私の酪農経営 －楽で自由でおもしろい酪農経営をめざして－
	久保 峰夫 久保 富士子	広島県広島市	酪農	量より質を －プライベート・ブランド「久保峰夫牛乳」の生産－
	藤原 久義	徳島県三好市	肉用牛繁殖	山地の急傾斜地を放牧利用した和牛繁殖経営
	齋藤農園	群馬県前橋市	養豚	混住化地域で環境に配慮した黒豚生産と地域に根ざした養豚経営
	有限会社 臼井農産	神奈川県厚木市	養豚	安心して美味しく食べられる豚肉生産
	中条 健 富永 治 富永 悦子	新潟県燕市 愛知県喜多郡内子町	養豚 養豚	地域の若手リーダーとして魅力ある養豚経営と活性化を目指して 家族で行う地域と一体化したSPF養豚経営

※ 有限会社 富田養鶏場は第46回農林水産祭日本農林漁業振興会長賞（畜産部門）を受賞。

〔平成19年度〕

開催期日：平成19年11月2日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラルホテル

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	小林 治雄 小林 富士子	北海道中川郡中川町	酪農	家族で楽しむ酪農生活 ー持続可能なシンプル経営ー
	増田 純一 増田 哉枝	宮崎県宮崎郡清武町	肉用牛繁殖	33年をかけ多頭経営を築き上げたモデル的肉用牛繁殖経営 ～極めて堅実な経営方針こそ着実な増頭につながる～
	農事組合法人 松永牧場	島根県益田市種村町	肉用牛一貫	国内食品残渣を活かした大型畜産経営の確立
	有限会社石井養 豚センター	徳島県名西郡石井町	養豚経営	生産効率よりも品質にこだわった養豚一貫経営
優秀賞	戸辺 久夫 戸辺 まちよ	茨城県久慈郡大子町	酪農	夢を求めて
	新海 益二郎 新海 尚子	長野県南佐久郡南牧村	酪農	私の酪農経営 ～ 家族を愛し、乳牛と共に歩む ～
	弓削牧場	兵庫県神戸市北区山田町	酪農	「論より食！ 農場で人を癒す、都会の牧場を現代の桃源郷に!!」 チーズづくりで切り開いた市街地の酪農経営
	有限会社 グリーンスト ック八幡	大分県玖珠郡玖珠町	肉用牛繁殖	コントラクターで地域を支え飼料の完全自給を目指す肉用牛経営
	山城畜産組合	沖縄県国頭郡伊江村	肉用牛繁殖	親子三代で築いた、肉用牛繁殖経営 ～地域特性に根ざした経営を目指して～
	有限会社 江 原養豚	群馬県高崎市上滝町	養豚	The 無投薬豚へのチャレンジ《抗生物質・合成抗菌剤完全不使用》 －「次世代に贈ります」健やかなライフスタイルと信頼を！－
	吉澤 博文 村田 重則 村田 里枝	新潟県南蒲原郡田上町 石川県七尾市能登島別所町	養豚 養豚	高い生産技術と営業努力が実を結んだ養豚経営 地域ぐるみで耕畜連携を推進する養豚経営

※ 農事組合法人 松永牧場は第47回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞。

〔平成20年度〕

開催期日：平成20年11月7日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラルホテル

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	鷲頭 栄治 鷲頭 洋子	大分県玖珠郡	肉用牛 繁殖	経営条件を活かした肉用牛から6次産業への展開 〔肉用牛を基盤とした農家レストランなどの取り組み〕
	有限会社 藤原牧場	宮崎県児湯郡	肉用牛 肥育	地域資源活用型/低コスト肉用牛肥育経営 ～飼料価格高騰に対応するモデル的な取り組み～
	株式会社 南勢養鶏	三重県度会郡	採卵鶏	地域に根ざした採卵経営の実践 ～地元で生まれ育った信頼の経営～
	有限会社 熊野養鶏	愛媛県四国中央市	採卵鶏	「元気な鶏から最高のたまごが生まれる」をモットーに直販の実践
優秀賞	菊地 光男 菊地 イチ	北海道厚岸郡	酪農	大好きな牛飼いを次世代へつなぐ ～パートナーと牛たちにやさしい酪農をめざして～
	細越 真利雄	長野県南佐久郡南牧村	酪農	酪農経営の高位安定へ向けた取り組み
	二若 信彦	岡山県真庭市	酪農	遊休農地を活用したジャージー牛経営 ー高品質牛乳生産ー
	八木山草地利用組合 渡辺 徹	新潟県東蒲原郡	肉用牛 繁殖	共同作業を基盤とした畜産基地入植者の和牛繁殖経営 ～地域農業活性化に向けた大きな役割を担って～
	大坪 操 大坪 秀子	佐賀県佐賀市	肉用牛 繁殖	酪農経営からの肉用牛経営への転換 ～「か・き・く・け・こ」の 実践～
	UKUカーフクラブ	長崎県佐世保市	肉用牛 繁殖	牛が主人公の島づくり 人口哺乳による多頭化と発育の向上を目指して
	有限会社マルナガファーム	島根県江津市	養豚	生産性（繁殖成績）向上で堅実な養豚一貫経営 ～適材適所でモチベーションアップ～
	株式会社 オクノ	兵庫県加古川市	採卵鶏	「信頼と絆」で広がる地産地消の輪 ～生産者主導の販売展開による100%有利販売の実現～

※ 鷲頭栄治・洋子夫妻は第48回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞。

〔平成21年度〕

開催期日：平成21年11月2日

開催場所：東京都文京区湯島 東京ガーデンパレス

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	生駒 一成 生駒 薫	岐阜県加茂郡富加町	酪農	ゆとりある乳肉複合経営を目指して！！
	松崎 隆 松崎 まり子	岡山県岡山市	酪農	今の私たち、酪農家冥利に尽きます！ ～市街化が進む中、土地循環型酪農で目指した地域のオアシス～
	有限会社 金子ファーム	青森県上北郡七戸町	肉用牛 肥育	地域と共存した資源循環型大規模畜産への挑戦 ～『三方良し』（消費者・生産者・地域社会）の商人道精神に根ざして～
	曾山 文彦 曾山 照代	宮崎県西諸県郡高原町	養豚	人工授精技術を取り入れたモデル的養豚経営 ～家族で育てる「我が子」豚～
優秀賞	久保 隆幸 久保 美恵子	北海道紋別郡湧別町	酪農	地域に根ざした家族酪農 ～自然体で高レベル経営を実現～
	高田 茂 高田 静子	埼玉県児玉郡上里町	酪農	乳質改善と乳牛改良を求めて ～都市近郊型酪農経営で行う粗飼料生産～
	須藤 裕紀 須藤 陽子	千葉県館山市	酪農	創り出す喜び・まきばライフ ～未来へChallenge～
	神田 豊広 神田 麻子	新潟県阿賀野市	酪農	優れた生産技術が生み出す高品質牛乳の直販を取り入れた酪農経営
	吉井 英之	兵庫県朝来市	酪農	生乳の加工直販主体の新たな酪農経営を切り拓く！ ジャージー牛10頭の牧場で売上高4千万円の酪農経営
	大松 修二 大松 法子	徳島県阿波市	酪農	飼料生産基盤の脆弱な地域における「安定とゆとり」を追求した酪農 経営
	株式会社 多田ファーム	愛媛県大洲市	養豚	苦境に打ち勝つ養豚経営 ～枝肉出荷2000kgを目指して～
	有限会社 鈴鹿ポーター	三重県鈴鹿市	採卵鶏	低炭素社会に向けた養鶏モデル経営の挑戦

※ 松崎隆・まり子夫妻は第49回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞

〔平成22年度〕

開催期日：平成22年11月8日

開催場所：東京都港区芝公園 機械振興会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	榛澤 保彦 榛澤 恵美子	北海道釧路市	肉用牛 一貫	未利用資源の活用と「土-草-牛」が調和して高い飼料自給率を実現した、環境にやさしい牛肉生産の取り組み
	大井 幸男	岐阜県羽島市桑原町	酪農	データを活用した経営改善 高次元の経営をめざす！！ ～経営改善から生まれた「ゆとり」を地域貢献に活かす～
	株式会社 西垣養鶏場	兵庫県豊岡市但東町	採卵鶏	「本当に美味しい農産物を消費者に届けたい！」 地域農産物の6次産業化で過疎化地域の活性化を図る 山の中の行列店 ” たまごかけご飯専門店「但熊（たんくま）」
	有限会社 黒木養豚	鹿児島県肝属郡肝付町	養豚	高い生産性・収益性の実践と多様なニーズに応えられるかごしま黒豚の生産を目指して
優秀賞	有限会社 リゲルファーム	北海道紋別郡遠軽町	酪農	地域資源を万遍なく利用して、地域に適合して地域に優しい、地域と歩む大型酪農経営の展開
	渡辺 健介 渡辺 恵子	福島県伊達郡川俣町	肉用牛 繁殖	遊休資源を活かした中山間地域における私の「肉用牛繁殖経営」5か年のあゆみ！ ～0頭からの増頭戦略～
	有限会社 三喜鶏園	群馬県高崎市下里見町	採卵鶏	こだわりたまごで挑んだ6次産業化 ～卵価に左右されない安定経営を目指して～
	関 克史	新潟県長岡市	肉用牛 一貫	新潟県中越大地震からの復興への道のり ～美しい故郷で日本一の牛作りを目指して～
	網野 一雄 網野 喜久美	長野県伊那市	酪農	親から子へ ゆとりと資源循環型の酪農経営をめざして
	有限会社 河井ファーム肉よし	三重県志摩市阿児町	養豚	美味しさは健康な豚から、安全は基本に忠実な防疫意識から ～地元へ愛される豚肉『パールポーク』に夢を託して～
	有限会社 関紀産業	大阪府泉佐野市	養豚	家族・仲間と築くエコブランド豚「川上さん家（ち）の犬鳴豚（いぬなきぶた）」
	永禮 淳一 永禮 明美	岡山県津山市	酪農	改革の序章 粗飼料地産地消への大転換 ～ 0 → 100 （零から百へ） ～

※ 株式会社 西垣養鶏場は第50回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞

※ 有限会社 黒木養豚は第50回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞

〔平成24年度〕

開催期日：平成25年3月7日

開催場所：東京都港区芝公園 機械振興会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	有限会社広野牧場	香川県木田郡三木町	酪農	経営管理の徹底による超効率経営でゆとりと地域活性化を実現
	関 克史	新潟県長岡市	肉用牛 一貫	震災を乗り越えた若き牛飼いの道のり ～美しい故郷で日本一の牛作りを目指して～
	有限会社哲多和牛牧場	岡山県新見市	肉用牛 一貫	地域資源フル活用で、地域を支える肉用牛牧場
	横田 清廣 横田 サチ子	長崎県南島原市	肉用鶏	雲仙普賢岳噴火災害で全てを失うが再起を誓い、 家族の経営参画で3億円を売り上げる
優秀賞	株式会社T・ユニオンデーリィ	福島県本宮市	酪農	T・から始める酪農 ～原発事故によって浜通りから中通りに経営移転～
	有限会社安瀬平牧場	広島県三次市	酪農	新規就農を支援する酪農経営 ～新たな経営継承にむけての一つの手法～
	高原 和光	長崎県南島原市	酪農	雲仙普賢岳噴火災害から共同で農用地を集積し酪農を再開
	埼玉県武州和牛組合	埼玉県本庄市	肉用牛 グループ	強力なリーダーシップと地域仲間の信頼で作上げた埼玉ブランド 「武州和牛」
	大吉商店株式会社	滋賀県高島市	肉用牛肥育	地域資源を有効活用し、地域から世界に羽ばたく
	有限会社中野目畜産	福島県西白河郡泉崎村	養豚	地域の養豚経営と歩んだ復興 ～自身の農場再建の取り組みや食肉製品販売店舗が直面した課題と被災地域の活性化に向けた活動など～
	新生養豚プロジェクト協議会	宮崎県児湯郡川南町	養豚 グループ	『特定疾病フリー』で新しい産地を目指す『新生養豚プロジェクト協議会』の取り組み
	株式会社社会津地鶏ネット	福島県会津若松市	養鶏 グループ	原発事故による風評被害からの脱却を目指す会津地鶏

※ 横田清廣・サチ子夫妻は第52回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞

〔平成25年度〕

開催期日：平成26年3月26日

開催場所：東京都千代田区 日比谷コンベンションホール

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	村山 昭雄 村山 裕子	北海道足寄郡足寄町	酪農	苦農から酪農（楽農）への道のり —酪農歴50年を目指して—
	佐藤 宏弥 佐藤 博子	茨城県常総市	肉用牛 一貫	水田活用で広がるドリームファームの歩み —『常陸牛』率100%の一貫経営—
	向 靖弘	広島県神石郡神石高原町	肉用牛 一貫	自分の肥育素牛は自分で造る。肥育経営から始める、和牛繁殖・肥育 一貫経営
	有限会社鈴木養鶏場	大分県速見郡日出町	採卵鶏	人・鶏・環境いやさしい経営による地域農業の活性化を目指して
優秀賞	村田 一浩 村田 美幸	北海道広尾郡足寄町	酪農	「草から搾る」をモットーに経営収支を改善 —既存経年チモシー牧草地へのペレニアルライグラス追播による草地植生改善—
	佐藤 弘	秋田県雄勝郡羽後町	肉用牛 繁殖	耕畜連携による粗飼料生産が経営改善の糸口になる
	有限会社 三重カドワキ牧場	三重県四日市市	肉用牛 肥育	カドワキ流肉用牛一貫経営 —4本の矢で父の遺志を受け継ぐ6次化への道—
	有限会 社中村ファーム	長野県千曲市	養豚	環境問題に取り組みながら HACCP を取り入れた、私の養豚経営

※ 佐藤宏弥・博子夫妻は第53回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞

〔平成26年度〕

開催期日：平成26年11月14日

開催場所：東京都千代田区 日比谷コンベンションホール

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	佐藤 匠	秋田県大仙市	肉用牛 繁殖	飼養管理技術の確立と資源循環型畜産への取り組み
	有限会社 星種豚場	栃木県那須郡那賀川町	養豚	消費者ニーズを重視した種豚改良と、そこから派生した六次化への取り組み
	東の匠SPF豚研究会	千葉県香取郡東庄町	養豚	安全安心を届ける新ブランド肉豚で町おこし —大利根の大地が育んだ豚「東の匠SPF豚」—
	アルム 株式会社	岡山県赤磐市	採卵鶏	養鶏事業の多様性を切り拓く！（人とたまごの未来づくり）
優秀賞	有限会社 渡辺ファーム	宮城県角田市	酪農	東日本大震災からの復興、そして次の世代へ...
	合同会社 久井高原牧場	広島県三原市	酪農	第三者継承による安定した酪農経営の継続
	長與 和則 長與 輝代	長崎県東彼杵郡波佐見町	肉用牛 肥育	中山間地域における手作り牛舎による低コスト肥育経営の実践
	有限会社 松葉ビッグファーム	三重県いなべ市	養豚	昭和の庭先養豚から平成の6次産業化への道 ～親から受け継ぎ、子に引き継いだ養豚経営～
特別賞	長谷部将一	宮崎県児湯郡高鍋町	肉用牛 一貫	銘柄牛肉への取り組みと口蹄疫からの復興・再生

※ 有限会社 星種豚場は第54回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞

〔平成27年度〕

開催期日：平成27年11月12日

開催場所：東京都千代田区 日比谷コンベンションホール

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	株式会社竹信牧場	岡山県笠岡市	酪農	干拓地におけるトウモロコシ二期作生産による大規模酪農への挑戦
	黒木 松吾 黒木 小夜子	宮崎県串間市	肉用牛繁殖	アンテナ高く、垣根は低く、一歩先を行く攻めの経営
	有限会社コマクサファーム	岩手県八幡平市	養豚	マルチサイトシステム
	農事組合法人 会田共同養鶏組合	長野県松本市	採卵鶏	環境のふるさと作りを目指した養鶏 —目標：農業を営んで人生の意義と幸福を体得する！—
優秀賞	安達 政弘 安達 敏子	茨城県笠間市	肉用牛肥育	高度な管理で臨む常陸牛生産 (経営管理で未来を見つめる)
	有限会社細川農興	秋田県横手市	養豚	繁殖技術改善による繁殖成績の向上
	有限会社 一志ビ ックファーム	三重県津市	養豚	「日本一美味しい豚肉の創造で共に幸せになる」をモットーに
	有限会社大成畜産	鹿児島県曾於市	養豚	地域ブランド認証品目の産地形成確立と信頼される「美味豚の探求」

※ 農事組合法人 会田共同養鶏組合は第55回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞

※ 有限会社 コマクサファームは第55回日本農林漁業振興会会長賞（畜産部門）を受賞

〔平成28年度〕

開催期日：平成28年11月22日

開催場所：東京都港区芝公園 機械振興会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	守谷 学 守谷 恵里	北海道宗谷郡猿払村	酪農	後輩農業者を育てながら、自給飼料を生かした先進的酪農経営に挑む —放牧を取り入れたフリーストール酪農の実践—
	有限会社 高秀牧場	千葉県いすみ市	酪農	中山間地域における国産飼料資源での自給率向上への挑戦（地域農業とともに歩む循環型酪農と6次産業化の中で）
	株式会社 玉牧場	鹿児島県霧島市	肉用牛繁殖	肉用牛の発育・生理を考慮した施設整備・飼養管理技術が高収益性を実現—幅広い情報収集・共有化と細やかな心配りで家族の夢を叶える—
	有限会社 香川畜産	宮崎県児湯郡川南町	養豚	口蹄疫からの復興と地域貢献
優秀賞	生駒 一成 生駒 薫	岐阜県加茂郡富加町	酪農	ゆとりある乳肉複合経営を目指して PART2 ～全国優良畜産経営管理技術発表会を経験して～
	株式会社 桑原畜産	佐賀県嬉野市	肉用牛肥育	中核企業としてブランド牛『佐賀牛』の生産と食肉販売等による地域振興への取組み
	種村 繁徳 種村 フサ子	長崎県島原市	肉用牛一貫	酪農経営から議員活動と黒毛和種の経営内一貫経営による地域振興を目指して
	有限会社 日笠農産	岡山県津山市	養豚	こだわり黒豚の生産・加工・流通一貫経営、消費者の声で品質向上！

※ 有限会社 香川畜産は第56回天皇杯（畜産部門）を受賞

※ 株式会社 玉牧場は第56回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞

〔平成29年度〕

開催期日：平成29年11月30日
開催場所：東京都港区 機械振興会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	牧舎みねむら 峯村 誠太郎 峯村 伊世	長野県東御市	肉用牛 一貫	家族と牛の「しあわせ」を目指して 家族経営の利点である、チームワークと各々のスキルを活かした卓越した繁殖肥育一貫経営
	農事組合法人 伍協牧場	岡山県勝田郡奈義町	肉用牛 一貫	三世代にわたって歴史を刻む協業経営 ～地域と連携して協業と個別経営を両立させる多様な取組～
	株式会社 五十嵐ファーム	山形県鶴岡市	養豚	飼料米利用による養豚経営の改善と、堆肥を利用したアスパラガスを主体とした野菜の栽培と六次化による経営改善
	近藤畜産 近藤 武雄	新潟県新潟市	養豚	家族で展開する地域に根ざした養豚6次産業化の取り組み
優秀賞	岩見 智成	大分県日田市	酪農	”牛と人と地域”の能力を最大限に引き出す基本に忠実な酪農経営
	佐藤 綾	山形県飽海郡遊佐町	肉用牛 繁殖	綿密な飼養管理と減反田を活用した十分な粗飼料確保による繁殖成績の向上および堅実な規模拡大を目指して
	有限会社 秋吉台肉牛ファーム	山口県美祢市	肉用牛 一貫	中山間地域におけるエコフィードとWCSを活用した地域密着型国産牛肉一貫経営 ～地域に愛される秋吉台高原牛ブランドづくりを目指して～
	有限会社横山養豚	神奈川県横浜市	養豚	都市型養豚として環境や地域貢献に注力 3人の後継者と共に更なる規模拡大を目指す

※ 牧舎みねむら 峯村誠太郎・伊世夫妻は第57回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞

※ 株式会社 五十嵐ファームは第57回農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞（畜産部門）を受賞

〔平成30年度〕

開催期日：平成30年11月27日
開催場所：東京都港区 機械振興会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	きもつき大地 ファーム株式会社	鹿児島県鹿屋市	肉用牛 繁殖	肉用牛1,000頭の大規模繁殖経営における分業体制の構築 ～肉用牛繁殖と子牛育成の分業体制による繁殖牛生産基盤の維持・拡大に資する～
	株式会社百姓屋	佐賀県伊万里市	肉用鶏	逆境をバネに“挑戦と工夫”でプロイラー経営 ～百姓屋に夢をのせて～
	有限会社安富牧場	岡山県岡山市	酪農	地域・信頼・思いやり ～消費者に届ける、信頼と安全の酪農を目指して～
	株式会社オーケー コーポレーション	群馬県北群馬郡榛東村	養豚	「むりをしない」「むだをしない」「むらをつくらない」養豚経営の挑戦 ～群馬の中山間地域が育んだ豚「榛名ポーク」～
優秀賞	有限会社中川スワイ ンファーム	大分県豊後高田市	養豚	家畜・地域・消費者・経営に、バランス感覚に富んだ持続可能な養豚経営
	株式会社あずみ野エコ ファーム	長野県大町市	養豚	エコフィード飼料も活用したブランド肉の 確立と作業効率の向上
	株式会社能登牧場	石川県鳳珠郡能登町	肉用牛 肥育	「能登牛 かわいいよ 能登牛」 ～ニートの僕が牛飼いになって能登牛を全国へ届けたい～
	高橋 正	秋田県横手市	酪農	経営改善に向けて ～飼養規模と個体に合わせた飼養管理の実践～

〔令和元年度（平成31年度）〕

開催期日：令和元年11月25日

開催場所：東京都文京区 東京ガーデンパレス

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	ヨシダファーム有限会社	北海道枝幸郡枝幸町	酪農	計画的な規模拡大と従業員雇用でゆとりある高収益経営～家族経営から地域NO.1の酪農法人～
	有限会社花田養豚場	新潟県十日町市	養豚	第三者継承により養豚経営に参画したイケメンTwinsの挑戦～仲間とともに広げる地域農業活性化の輪～
	宮崎 陽輔さん 宮崎 舞さん	佐賀県唐津市	肉用牛肥育	経営診断が「きっかけ」で儲かる肉用牛肥育経営の実践～素牛選定から枝肉出荷まで、全ては肥育成績の詳細分析から始まる～
	株式会社中野ファーム	鹿児島県鹿屋市	肉用牛繁殖	ICT等を活用した家族で築くゆとりある肉用牛繁殖経営
優秀賞	野脇 広夢	北海道勇払郡むかわ町	肉用牛繁殖	手間を掛けない飼養管理で高所得を実現～繁殖牛1年1産！子牛の早期出荷と高単価販売を実践する経営～
	有限会社小田切畜産	長野県東御市	肉用牛一貫	地域社会に貢献する愛される牧場をめざして
	末吉 久美 末吉 富美子	長崎県松浦市	肉用牛繁殖	建設業からの参入による定休型ヘルパーを活用した「ゆとりある肉用牛繁殖経営」を目指して
	荒牧 光博 荒牧 慶子	熊本県阿蘇郡高森町	肉用牛一貫	阿蘇の草資源を利用した褐毛和種の繁殖・肥育一貫で低コスト経営を実現

〔令和2年度〕

開催期日：令和2年11月25日

開催場所：東京都文京区 東京ガーデンパレス

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	久保 拓也 久保 環	北海道紋別郡湧別町	酪農	Working hours 1920 ～子供たちにカッコイイと思ってもらえる農業がやりたい～
	有限会社飯田養豚場	青森県上北郡横浜町	養豚	家族パワーで築く堅実な養豚経営 —ブランド肉豚「ほろよい豚」の生産拡大をめざして—
	株式会社老岐ファーム	宮崎県児湯郡新富町	肉用牛一貫	仲間と共に取り組む黒毛和牛一貫経営の発展 ～肉用牛の新たなビジネスモデルとして～
	森岡 良輔 森岡 恵理香	鹿児島県曾於市	肉用牛繁殖	両親からのバトン 異業種夫婦の肉用牛繁殖経営への挑戦（取組） —細やかな飼養管理技術による高収益性を実現—
優秀賞	武熊 俊明 武熊 浩美	茨城県石岡市	養豚	地道なデータ蓄積と、常に前向きにチャレンジし続ける養豚経営
	株式会社渡辺農場	新潟県上越市	肉用牛一貫	次世代に繋ぐ畜産経営を模索する ～笑顔で働ける、儲かる牛飼いを目指して～
	農事組合法人中国牧場	島根県仁多郡奥出雲町	肉用牛一貫	地域と共に歩む畜産経営を目指して —行政と連携した地域への堆肥供給と自然交配を生かした一貫経営を実践—
	有限会社大西海ファーム	長崎県西海市	養豚 肉用牛繁殖	J A出資法人による「所得増大」、「生産拡大」、そして「地域活性化」への取り組み ～大西海ファームの取り組みは第4ステップへ～

※ 森岡 良輔・恵理香夫妻は第60回天皇杯（畜産部門）を受賞

※ 有限会社飯田養豚場は第60回日本農林漁業振興会会長賞（畜産部門）を受賞

〔令和3年度〕

開催期日：令和3年11月26日

開催場所：東京都千代田区 都市センターホテル

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	株式会社なごみ農産	山形県天童市	肉用牛肥育	安全で美味しい国産原料 100%飼料の牛肉で地域を活性化 ー地域農家・企業と共に育つ「和の奏（なごみのかなで）」ブランドー
	株式会社小野ファーム	神奈川県横浜市	肉用牛一貫・酪農	都市の中での乳肉複合による多角経営 ーゲノミック評価の活用による肉用牛生産の取り組みー
	農事組合法人萩原養豚生産組合	宮崎県都城市	養豚	生き残りをかけた経営基盤の再編 ー進化を続ける「観音池ボーク」ー
	山中 健治 様 山中 菜美 様	鹿児島県鹿屋市	肉用牛繁殖	夫婦2人で実現した効率的肉用牛繁殖経営
優秀賞	石田 敦 様 石田 紀子 様	北海道別海町	酪農	酪農は天職 ー牛さんにうまい草を腹一杯たべさせたいー
	株式会社鬼や福ふく	新潟県津南町	養豚	フリーストール豚房と ICT 技術による母豚の健康維持と繁殖成績の向上 ー豚の幸せが私たちの幸せですー
	妹尾 始 様 妹尾 睦美 様	岡山県岡山市	酪農	これが 家族経営の生きる道
	平川 修 様 平川 美穂 様	大分県日田市	肉用牛繁殖	指導員から実践へ、そして、今、家族型肉用牛経営のインフルエンサーへ



令和4年度全国優良畜産経営管理技術発表会開催要領

令和4年度全国優良畜産経営管理技術発表会開催要領

3年度発中畜第6870号

令和4年2月25日

1 趣 旨

公益社団法人中央畜産会（以下「中央畜産会」という。）は、中央畜産会の会員団体等（以下「畜産会等」という。）が行う支援活動を通じて明らかにされた優秀な実績を収めている畜産経営またはグループ（以下「畜産経営」という。）ならびに経営の課題解決に取り組んでいる畜産経営を広く求め表彰するとともに、全国優良畜産経営管理技術発表会（以下「発表会」という。）を開催し、もってこれら畜産経営の成果とそれを支えた経営管理技術の普及拡大に資する。

2 主催者（実施主体）

この発表会は、中央畜産会が主催する。

3 参加資格

- 1) 畜産会等が行う支援活動の対象となった畜産経営であって、以下の条件のいずれか1つ以上を満たすもの。
 - (1) 優良な実績を収めており、その実績の内容ならびにそれを支える経営管理技術の内容が明確であるもの。
 - (2) 経営の課題解決のための取り組みを行っており、その取り組みや活動の内容ならびにその過程が明確であるもの。
 - (3) 個人又は組織の活動における女性の活躍を推進し、又は女性が顕著な貢献をしている取組又は経営管理を行っているもの。
- 2) 当該年度において、他の団体・機関の開催する「農林水産祭」参加行事に出品していないこと。
- 3) 当該年度前2カ年間に農林水産祭参加行事において、出品財「経営」での農林水産大臣賞を受賞していないこと。
- 4) 個別経営における家畜の飼養規模は、以下のとおりとする。
 - (1) 酪農経営にあつては、経産牛10頭以上。
 - (2) 肉用牛経営にあつては、繁殖牛・肥育牛5頭以上。
 - (3) 養豚経営にあつては、80頭以上の経営。ただし繁殖専門経営の場合は、子取りめす豚10頭以上の経営。

- (4) 採卵鶏経営にあっては、成鶏700羽以上。
- (5) 肉用鶏経営にあっては、年間出荷30,000羽以上。

4 参加畜産経営等の推薦

畜産会等は、参加畜産経営を5の2)の審査の視点に基づき事例を選定し、中央畜産会が別に定める様式により、中央畜産会へ正副2部提出するものとする。

5 審査の方法と視点

1) 審査の方法

中央畜産会は、学識経験者等を中心として構成する審査委員会により、畜産会等からの推薦のあった書類に基づき、最優秀事例、優秀事例を選考する。なお、審査委員会が必要と認めた場合は現地確認を行うことができるものとする。

2) 審査の視点

審査の視点は、畜産経営の生産性・収益性等の経営実績、それを支える経営管理技術および課題解決のための取り組みや活動の内容、その成果に関する以下の諸点とする。

- (1) 経営展開上の合理性、堅実性、普及性、持続・安定性
- (2) 地域との融和等に関する合理性、普及性、持続・安定性

6 表彰

1) 表彰の種類

- | | |
|--------------------------|----------|
| (1) 最優秀事例：農林水産大臣賞 | 4点 (予定) |
| 地方競馬全国協会理事長賞 | 4点 (予定) |
| 中央畜産会長賞 (最優秀賞) | 4点 |
| (2) 優秀事例：農林水産省畜産局長賞 | 4点 (予定) |
| 中央畜産会長賞 (優秀賞) | 4点 |
| (3) その他：審査委員会が特に必要と認める場合 | |
| 中央畜産会長賞 (特別賞) | 必要と認める場合 |

2) 表彰の対象

次に掲げる事項のいずれかに該当し、かつ経営主の配偶者の貢献度が高いと認められる個人経営の場合にあっては、夫婦連名で表彰することができるものとする。

ただし、表彰の対象は、農林水産祭参加行事の農林水産大臣賞、農林水産省畜産局長賞、地方競馬全国協会理事長賞、中央畜産会長賞 (最優秀賞・優秀賞) および審査委員会が特に必要と認める場合 (中央畜産会長賞 (特別賞)) に限る。

- (1) 家族経営協定を締結していること。
- (2) 経営主の配偶者の作業分担、経営主の従事日数に対して配偶者の従事日数が概ね5割に達していることが確認できること。
- (3) 農業改良普及センターまたは類似の普及指導組織等による意見書が添付されていること。

7 行 事

1) 発表会

参加畜産経営者等ならびに畜産会等関係者の参集のもと、令和4年11月に東京都内において発表会を開催し、優秀な実績および特色ある取り組みや活動内容について普及拡大に資する。

2) 農林水産祭への参加

この行事は「農林水産祭」に参加する予定である。

8 費用の負担

この事業に要する費用は、中央畜産会が負担する。

9 告知日

令和4年5月2日

10 その他

本要領に定めのない事項については、中央畜産会会長が別に定める。

協賛団体・企業一覧（順不同）

一般社団法人日本養豚協会
公益社団法人全国農業共済協会
一般社団法人日本草地畜産種子協会
一般社団法人家畜改良事業団
一般社団法人全国酪農協会
一般社団法人中央酪農会議
一般社団法人酪農ヘルパー全国協会
日本養豚事業協同組合
協同組合日本飼料工業会
公益社団法人日本獣医師会
公益社団法人日本食肉格付協会
公益財団法人日本食肉生産技術開発センター
公益社団法人畜産技術協会
一般財団法人畜産環境整備機構
全国肉牛事業協同組合
全国畜産農業協同組合連合会
日本酪農政治連盟
よつ葉乳業株式会社
株式会社コーンズ・エージ
株式会社ピュアライン
ライブストック・アグリテクノ株式会社
オリオン機械株式会社
株式会社チュウチク
デラバル株式会社
株式会社中嶋製作所
株式会社岡田製作所
フジ化成株式会社
株式会社農林放送事業団
株式会社コトブキソリューション
株式会社大建情報システム
株式会社南日本情報処理センター(MIC)

食べないなんて もったいない！

国産豚肉を生産している農場情報が分かる

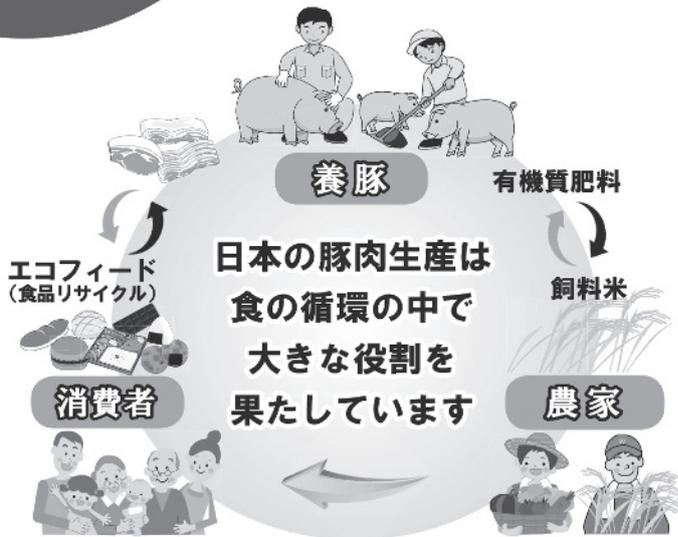


高品質で安全な 国産豚肉



(一社) 日本養豚協会 (JPPA)
〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-27-15-2F
TEL : 03-3370-5473 FAX : 03-3370-7937
ホームページ : <http://pig.lin.gr.jp/>

食品リサイクルを利用した豚肉生産



環境に配慮した持続的農業の実現

日本の豚肉生産は
食の循環の中で
大きな役割を
果たしています

日本の豚肉生産の応援団になって下さい！

一緒に見つけませんか



家畜診療

農業共済獣医陣唯一の

技術指導専門誌

月刊・定価九二〇円(送料共)

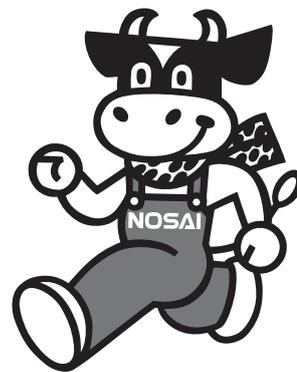
毎週水曜日発行

月ぎめ 四九五円
年ぎめ 五五二〇円 (送料共)



農業の明日

営農、暮らし、地域の活性化へ



ハーサイくん

どんな地方でも：
各戸に郵送される農業専門紙
中央と全国の農家とを
固く結ぶ定期便です



一般
社団法人

日本草地畜産種子協会

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町8 NCO 神田紺屋町ビル

TEL (03) 3251-6501 FAX (03) 3251-6507

E-mail info@souchi.lin.gr.jp URL <http://souchi.lin.gr.jp/>

北海道支所 〒069-0822 北海道江別市東野幌 406 TEL(011)382-8989 FAX(011)382-8999
 飼料作物研究所 〒329-2742 那須塩原市東赤田 388-5 TEL(0287)37-6755 FAX(0287)37-6757
 九州試験地 〒861-1114 熊本県合志市竹迫 1740 TEL(096)348-3445 FAX(096)348-3446

今こそ国産飼料の増産を！

<令和5年注目の品種>

イタリアンライグラス	「Kyusyu1」、「はやまき18」、「きららワセ」
ペレニアルライグラス	「夏ごしペレ」、「道東1号」
トウモロコシ	「ハヤミノルド」、「だいち」
ソルガム	「華青葉」
WCS用イネ	「つきあやか」、「つきはやか」、「つきすずか」、 「つきことか」



P照1125 ふくのつる
福之鶴

トップレベルの遺伝子が日本の畜産をサポート

▶優良遺伝子の生産・供給

▶能力検定と最新情報の提供

▶改良・繁殖技術の研究開発



〒135-0041 東京都江東区冬木 11-17 イシマビル
TEL: 03(5621)8911(代) FAX: 03(5621)8917



JP5H58237 ROCK
ロック

一般社団法人 全国酪農協会

会 長 砂 金 甚太郎
 副 会 長 佐 藤 哲
 副 会 長 隈 部 洋
 常 務 理 事 三 国 貢

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館5階
TEL03-3370-5341 FAX03-3370-3892



一般社団法人 **中央酪農会議**

会 長 中 家 徹

〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町2-6-1
堀内ビルディング4F
TEL 03-6688-9841
FAX 03-6681-5295
URL <http://www.dairy.co.jp>

協会ホームページ

全国の酪農家が あなたを待っています!!



一般社団法人酪農ヘルパー全国協会

TEL 03 (5577) 5135 FAX 03 (5577) 5136
E-mail: info@d-helper.lin.gr.jp

日本の養豚家を元気にする!日本養豚事業協同組合は生産者による生産者のための組織です。



日本養豚事業協同組合

Japan Swine Farm Business Cooperation

TONJIKYO

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-10 八重洲早川第2ビル6階
TEL:03-6262-8990 FAX:03-6262-8991
URL:<https://tonjikyō.or.jp> e-mail:info@tonjikyō.or.jp

日本の畜産を力強く支えていきます

協同組合 日本飼料工業会

〒106-0041 東京都港区麻布台2丁目2番1号
TEL 03-3583-8031 FAX 03-3583-8020
<http://www.jafma.or.jp/>

❖北海道支部 ❖関東支部 ❖中部支部 ❖関西支部 ❖九州支部

各支部連絡先：支部支援室【住所・TEL・FAXは上記と同じ】



公益社団法人

いのちみつめる。いのち育む。

日本獣医師会

会 長	藏 内 勇 夫
副 会 長	砂 原 和 文
副 会 長	村 中 志 朗
副 会 長 兼 専 務 理 事	境 政 人

〒107-0062 東京都港区南青山 1-1-1 新青山ビル西館 23 階
 電話 03-3475-1601 FAX 03-3475-1604



公益社団法人

日本食肉格付協会

会 長 大 野 高 志

〒101-0063
 東京都千代田区神田淡路町2-1-2 (NCO神田淡路町 2F)
 電 話 03(3257)0220 (代) FAX 03(3257)0224
 URL: <http://www.jmga.or.jp>



公益財団法人日本食肉生産技術開発センター
 東京都港区赤坂6-13-16 (アジミックビル4F)

TEL. 03-5561-0786 FAX. 03-5561-0786

理 事 長 宮 坂 亘



公益社団法人 畜産技術協会

会 長 石 原 哲 雄

月刊「畜産技術」

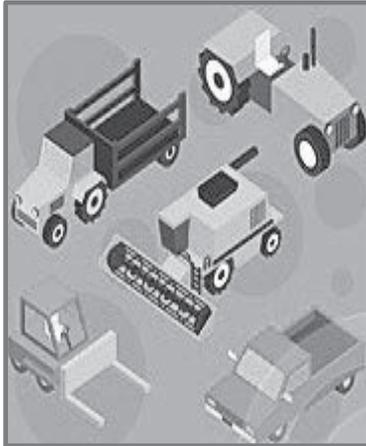
「牧草・毒草・雑草図鑑」

「和英・英和畜産用語集」

「全国畜産関係者名簿」

「世界家畜品種辞典」

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-20-9 TEL 03(3836)2301 FAX 03(3836)2302
<http://jlta.lin.gr.jp/>



ちくかんリースで、日本の畜産を元気に

畜産環境整備機構は、畜産農家の皆さまを機械や施設等のリースで応援しています。また、畜産環境の技術開発や堆肥の分析なども行っています。

一般財団法人 畜産環境整備機構

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-12-1

☎ 03-3459-6300 FAX 03-3459-6315

URL <https://www.leio.or.jp> **leio**で検索



組合への加入を歓迎します！



全国肉牛事業協同組合

理事長 中林 正悦

肉用牛及び酪農経営コストを低減し儲かる経営のため、預託、共同購買、福利厚生事業等を実施しています。詳しくはホームページをご覧ください。

〒105-0003 東京都港区西新橋1-22-12 JCビル
TEL 03-3503-8380 FAX 03-3503-8382
URL <http://www.jcic-f1.jp>



全国畜産農業協同組合連合会

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16

Tel 03-3297-5531 Fax 03-3297-5536

東北支所 東京支所 福岡支所

帯広事業所 神戸事業所 南九州事業所

<https://www.zenchikuren.or.jp/>

牛乳の力・
日本の力!



日本酪農政治連盟

委員長 佐藤 哲

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館 5F
TEL03 (3370) 1741 (直通) FAX03 (3370) 1779

北海道十勝

Hokkaido Tokachi



乳原料 北海道十勝産100%

よつ葉乳業株式会社

<https://www.yotsuba.co.jp/>

北海道のおいしさを、まっすぐ。

よつ葉

LELY Vector



乳量の向上、労働時間の削減へ。 給餌ロボット「レリー ベクター」

生産者にとって給餌は、牛のコンディション維持や乳質と量を左右する重要な仕事です。しかし、その労働負担は重く、1日の給餌回数を増やすことは容易ではありません。給餌の省力化を計り、飼料の効率的な給与と体制を構築することが、牧場経営に大きな鍵となります。労働負担を軽減し、効率的かつ質の高い給餌を実現する「レリー ベクター」の導入をお考え下さい。

フレキシブル

柔軟性

必要な時間に飼料を配分、
要求量に応じて
給餌します。

フレッシュ

新鮮

多回給与により常に
新鮮な飼料給与を
行ないます。

エボリューション

進化

技術者によるサポートと
アドバイス、ソフトウェア
アップデート

自動給餌による労働時間削減

給餌回数が増えて採食量がアップ

正確な給餌がコンディションを改善

給餌と餌寄せのスペシャリスト。



安全性

安全センサーで障害物との衝突を感知し緊急停止。また夜間の安全性を高めるためにLEDランプをプラス。暗い牛舎でもジュノの位置が確認できます。



正確な走行

超音波センサーで壁との距離を読み取って走行。左右両方の計測をしながら直進、後進、回転などができます。また段差や勾配の走行も可能になりました。



簡単設置

単独で稼働する自走式で、付帯施設や牛舎改造を必要としません。設置・設定は非常に簡単で、1日で完了。その日からすぐに利用ができます。

コントロールは「スマートフォン」でスマートに!

日本語の専用アプリのダウンロードで、お使いのスマートフォンで操作や走行ルートの設定、走行スケジュールの設定が行えます。



より安全に、使いやすく。新しくなった

Juno



CORNES AG.
Quality & Innovation

株式会社 コーンズ・エージー

〒061-1433 北海道恵庭市北柏木町3丁目104番地1
TEL (0123) 32-1452 | FAX (0123) 32-7052
URL : www.cornesag.com

TEL(0123)32-1452

WEBサイトはこちらから▶

コーンズエージー Search



「何よりも酪農家のために」それがピュアラインのテーマです。

ターナー社 パラレルパーラーストール

【オートスタート付き自脱】



見えない所まで高い技術力が活かされている実績で証明されるAPユニットが標準仕様です。

ストランゴ (1,000ℓ~30,000ℓまで) バルククーラー

▶高い技術力と探求心が繊細なミルクの品質を守ります

ミルクを傷めず冷却・保冷



タンクはDIN規格#8968及びISO規格5708に準拠して製造されています。

ロビベック社は40年以上 餌について常に「嗜好品」作りを追求しています。 ロビベック自動給餌ロボット

【充電不要】



ソフト攪拌
24時間給餌

DEC-4448 型
DEC-4442 型
DEC-4436 型
DEC-4430 型

DEC-HDR 型
《餌寄せ標準装備》
ロールベール
PF600も取り
揃えております

ストランゴ ロータリーパーラー

【オートスタート付き自脱】



牛にとって最適な環境と最小のストレスは、ストランゴの最優先事項です。APユニットが標準仕様です。

▶労力軽減を実現し、作業能率アップ ハンディーユニットキャリアー レール移動方式 【リバース&サイドシステム】



・レイアウトは自由に設計・施工 ・レールはカスタマイズ可能

誰も考えた事もない▶餌寄せ作業の負担軽減 ROVER ローバー 給餌機

〔電導レール仕様で 走行用H形鋼 走行用バッテリー不要〕

ロビベック給餌ロボットの目的は
飼料をおいしい嗜好品へと変えることです



ローバーはトロリーバスのように“地面”を走行しますので、走行用H形鋼レールの設置が不要となります。このほか、攪拌方式などにも違いがありますので、牛舎の状況等に応じてご選択いただけます。

《餌寄せ機能標準》 常に飼料を攪拌して給餌

国内総輸入元



株式会社 **ピュアライン**
PURE LINE COMPANY LIMITED

詳しくは最寄りの営業所までお気軽にお問い合わせください。

本社 ●〒154-0022 東京都世田谷区梅丘1-24-12 ピュアライン第7ビル ☎03-3420-7311(代)
商品配送センター ●〒370-0102 群馬県伊勢崎市境上瀬名1313-2 ☎0270-76-4611(代)

http://www.pureline.ne.jp E-mail:head_office@pureline.ne.jp

- 北海道営業所 ☎011-772-7711
- 道北営業所 ☎0162-82-3511
- 帯広営業所 ☎0155-21-3511
- 中標津営業所 ☎0153-72-2211
- 北見営業所 ☎0157-25-1231
- 東北営業所 ☎019-643-1211
- 群馬営業所 ☎0270-76-4611
- 東京営業所 ☎046-239-0711
- 九州営業所 ☎096-389-7811
- 山口出張所 ☎083-986-4611

クラウドタグで仔牛の命を守る



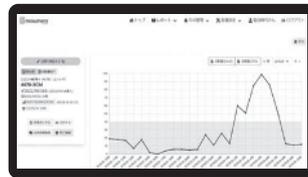
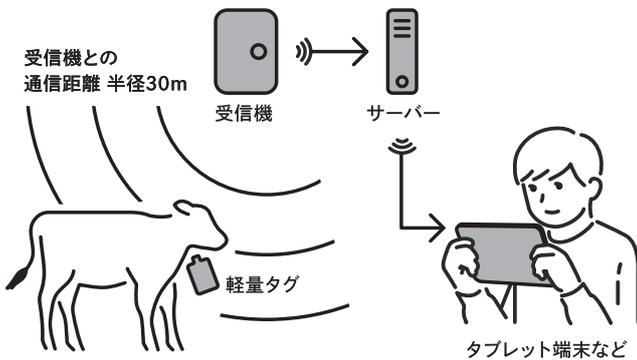
電池不要の
軽量タグ



※原寸大 軽量タグ

手軽にスタートできます

電池不要の軽量タグと受信機を
設置すればすぐに利用開始できます。



仔牛の体調がひと目でわかる

- 活動量グラフ
- 治療の記録
- アラート機能 etc

導入された
お客様の声をご紹介します

利用者様に聞いた導入効果として

体調不良の早期発見

人間が気づかない兆候を検知

治療期間の短縮

早期の治療で症状悪化を防ぐ

などの声を多く頂いております。

スタッフの意識改革

命を守れる実感、業務効率の改善

ウェブサイトやインスタグラムで
導入された牧場の事例や
活用方法をご紹介します。



WEBSITE
<https://atmow.jp>



Instagram
hello_atmowment

ILATI ライブストック・アグリテクノ株式会社

お問合せ先 048-711-6065

本社 〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂2-11-13 3F TEL 048-711-6065 FAX 048-762-9360
鹿児島オフィス 〒893-0055 鹿児島県鹿屋市野里町 4532-1 TEL 0994-45-5970 FAX 0994-45-5980

GEA

ORION

ORION for DAIRY

子牛を個別飼育して
しっかり管理したいが...その管理にかかる労働力と時間、
負担になっていませんか？

個体別 自動哺乳ロボット

※カーフレールは、カーフフィーダーとの併用が必要です。

カーフレール

HPでは
導入事例を動画で
ご紹介しています。▶▶

カーフレールは子牛の成長サポートと哺育作業の省力化を同時に実現します。

哺乳頻度や給与時間、ミルクの濃度を自由に設定でき、増体の促進と健康をサポート。

哺乳プランを複数設定することで和牛向けの哺乳等にも対応。*1

最大8回/日給与、最大32頭哺乳可能で、自動で多回数哺乳を実施。*2

PCや端末でアプリ(カーフアップGO!)にアクセスし、いつでも哺乳状況やアラームの確認が可能。

*1:群飼と個別飼の併用の場合、哺乳プランは制限されます。 *2:機械の最大能力値です。ご使用条件により最大哺乳頭数は変わります。

哺乳

精密
管理個別のハッチに入った子牛に
多回数哺乳でき、哺乳量等も
記録できます。

省力化

ミルクを作る時間や哺乳の
時間、哺乳瓶の洗浄時間を
自動化できます。

IT化

アラームが出ている子牛を
リストアップし、疾病の早期
発見に役立ちます。オリオン機械株式会社
www.orionkikai.co.jp北海道オリオン株式会社 tel.011-865-3111
中央オリオン株式会社 tel.048-522-5395
西日本オリオン株式会社 tel.092-477-8480

Bell Bear 完全自動TMR攪拌・給餌機

TMR Automatic Mixer

ChuChiku

標準装備

ハニーオーガ

 ミキサーの心臓部のハニーオーガは毎分20回転で短時間に攪拌・混合します。

スクレーパーと安全装置

 スクレーパーにより、自動で餌を寄せていきます。また、安全装置により、障害物を検知し、走行・攪拌を止めます。

コントロールボックス

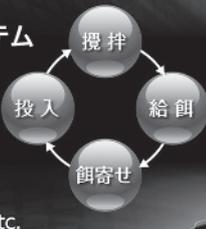
 簡単なスイッチ操作で誰にでも簡単に操作できます。また、回転灯と警報音で動作するので、作業も安全にできます。

ベル ベアが切り拓く究極の調理・給餌自動化

中小規模牧場に最適

TMR
自動給餌システム

- 自動計量投入
- 自動攪拌・給餌
- 自動餌寄せ
- 遠隔確認
- 調理データ記録
etc.



- 容量 8m³
- 全高 2450mm ■ 全長 4270mm ■ 全幅 1900mm
- 攪拌動力 30kW

ベル ベアの特長

- 飼料投入から攪拌、給餌、餌寄せまで自動で行います。
- 各飼料の投入量を記録し、農場の最適な飼料メニューを提供します。
- 簡単なスイッチ操作で誰にでも操作できる、抜群の操作性です。
- 自動運転から手動運転に切り替えることもできます。
- 24時間運転が可能なので、小さいミキサーでOK。8回~10回/日の攪拌・給餌が可能です。
- 今までの経験を活かし、トラブルの発生頻度を極力抑え、また特殊鋼採用により、耐久性も抜群です。
- 電動なので、排気ガスの心配や、騒音も少なく、周囲の環境にとっても優しい全自動ミキサーです。

※写真はすべてイメージです。 ※広告内容の機構・仕様等は予告なく変更することがあります。ご了承ください。


 未来の畜産を創造する
株式会社 チュウチク

 コンプリート課
〒441-8062 愛知県豊橋市東小浜町8番地
[TEL]0532-46-1211 [FAX]0532-48-5141

 チュウチク ホームページ
http://www.chuchiku.co.jp
チュウチク 検索


各地区お問合せ先 (担当者)

 【東北・北関東地区】 TEL.090-8676-2857 (七海)
 【近畿・中四国地区】 TEL.090-2130-6213 (岩田)

 【南関東・中部地区】 TEL.090-5854-1726 (坂原)
 【北海道・九州地区】 TEL.090-7432-6234 (宮崎)

酪農家と乳牛に、新しい体験を。
DeLaval VMS™ V300



デラバル 株式会社 北海道 札幌市北区北7条西1-2-6 NCO札幌14F
 TEL.011-738-2311

WEBサイトはこちらから
<https://www.delaval.com/ja/>



想いを集め技術をカタチに



株式会社 **中嶋製作所**

中嶋製作所

検索

【本社・工場】
 〒388-8004 長野市篠ノ井会33番地
 TEL.026-292-1203(代表)
 FAX.026-293-1611



長野県登録[182]号

家畜のふんの堆肥化プラントは私たちにおまかせください！！



創意工夫を信条にお客様と共に…

株式会社 岡田製作所

代表取締役社長 鈴木 郁男

〒374-0042 群馬県館林市近藤町 318-2 TEL : 0276-74-3838 FAX : 0276-74-5818

E-Mail : eigyou@okadass.com URL : <http://www.okadass.com>



畜産用設備資材
建築設計施工

フジ化成株式会社

より良い畜産経営のために

本社 〒861-5501 熊本県熊本市北区改寄町1004-5 シグマ工業団地内

URL: <http://fujikasei-japan.com>

Email: info@fujikasei-japan.com

支店

熊本支店/岡山支店/南九州支店/関東支店/東北支店

受賞者の皆様 おめでとうございます！

がんばる！畜産！6



(公社)中央畜産会の畜産映像情報は2つのメディアでご覧になれます。

(公社)中央畜産会ホームページ <http://jlia.lin.gr.jp/ganbaruchikusan/>

BS234ch グリーンチャンネル 毎週月曜～金曜午前7時～7時30分

農林放送事業団

東京都千代田区神田淡路町2-23-2

TEL 03-6260-7617

コトブキソリューションは、 2つの事業で成り立っています。

システム開発事業

拠点：本社(呉市)、広島支社(広島市)、
東京支社(東京都新宿区)

WEBシステム、データベース、
組み込み系開発等々
様々なシステム開発を行っています。



ゲーム事業

拠点：東広島スタジオ(東広島市)、
大阪スタジオ(吹田市)

ブランド名 ^{ケムコ}KEMCO にて、
ゲームの企画、開発、販売
を行っています。



www.kemco.game

「ケムコ」で検索をしてみてください。
私たちの作品を見ることができます。



株式会社コトブキソリューション

URL <https://www.ksol.jp>

お問い合わせメール info@ksol.jp

- 東京支社
〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-8-1 大橋御苑ビル 2F
TEL 03-3225-3515 FAX 03-3225-5445
- 本社
〒737-0046 広島県呉市中通 2-6-6 寿工業ビル
TEL 0823-21-4956 FAX 0823-21-8800

私たちはITで畜産経営を応援します

畜産経営管理支援ツールの開発・提供
予算管理システムの開発・提供
地図情報システムの開発・提供
システム利用に関するご提案・ご支援



株式会社大建情報システム
Daiken Information System Inc.

〒111-0041 東京都台東区元浅草2丁目6番6号 東京日産台東ビル4階
URL <http://www.daiken-system.co.jp>
担当：営業部 池田



MICはICTを通して畜産業をサポートします！



繁殖・肥育 牛管理システム



家畜せりシステム



食肉管理システム



食肉検査システム

MIC Minaminihon Information Processing Center
株式会社 南日本情報処理センター

〒891-0115 鹿児島市東開町4-104 TEL: 099-269-9711

これからの
未来のために

医療の
普及

教育施設
の充実

畜産の
振興

地域への
貢献

暮らしの チカラに、地方競馬

地方競馬の売上げの一部は、畜産振興および
地方財政の改善に活用されています。



NAK 地方競馬全国協会

<https://www.keiba.go.jp/>



くわしくは、地方競馬情報サイト「KEIBA.GO.JP」からご覧になれます。



競馬場のある街だけではなく
全国の皆さまの暮らしに
貢献しております